

CMES ANNUAL REPORT 2012

Vol.
013

愛媛大学 沿岸環境科学研究中心 年報

愛媛大学沿岸環境科学研究中心
年 報

(第 13 号)

2012年

まえがき

平成23年度にはCMES教員の受賞が相次ぎました。田辺教授の紫綬褒章の受章と岩田教授の琵琶湖賞の受賞です。紫綬褒章の受章は本学では初めてのもので、田辺教授の受章は、化学汚染に関する世界トップレベルの研究を推進して多数の具体的研究成果を積み重ね、学問体系を確立するとともに、国内外の人材を育て、学界・行政・社会への多大な貢献を果たしたこと、その功績が環境学の進展や行政施策に大きな波及効果をもたらしたことが認められたことによるものです。岩田教授の受賞した琵琶湖賞は、水環境に関する生態学およびその周辺分野における50歳未満の優れた研究者に贈られる日本生態学会の代表的な賞です。今回の受賞は、水生生物に対する化学物質のリスクの評価に向けて、分子生物学・バイオアッセイの手法を取り入れた研究を展開し、化学物質の暴露量という環境要因に加えて、水生生物の感受性という遺伝的要因まで含めて科学的に解明した点が高く評価されたものです。これらの受賞はCMESの研究活動の大きな成果であるとともにCMESが関連分野で我が国を先導していることの証でもあり、CMESにとって特筆すべき慶事といえます。

本題となるCMESの活動についてですが、平成23年度はCMESが中核となって採択されたグローバルCOEプログラム「化学物質の環境科学教育研究拠点」事業の最終年度という節目の年でした。このためCMESでは、同プログラムにおいて有終の美を飾るべく多くの活動を精力的に行いました。中でも最大の行事は、8月に行った国際シンポジウム「International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology」です。このシンポジウムは、若手研究者のリーダーシップ育成のため、PD研究員、DC学生らを中心に企画・運営されたもので、世界12カ国から著名な研究者と若手研究者が集い、活発な分野横断的交流が行われました。また6月には、韓国全南大学FSI（水産科学研究所）と台湾の台湾海洋大学CMBB（海洋生物科学工学研究センター）および成功大学SERC（永続環境科技研究センター）と合同で「日・台・韓Joint Forum of Environmental Sciences」を開催しました。このフォーラムはCMESとこれら3つの機関との国際交流協定に基づくもので平成20年度から毎年開催されています。第4回目となる今回のフォーラムにおいても、各国の講演者が多岐にわたる研究成果を報告しました。そのほか、国内外の著名研究者を招聘してのGCOE特別セミナーを8回、若手が主催するGCOE若手の会特別セミナーを2回開催し、年度末には5年間のGCOEによる研究成果の総合報告会を開催しました。5年間のGCOE活動に対する事後評価結果はまだ出でていませんが、十分評価に耐え得る成果をあげることができたと思います。

このように、我々としてはGCOEは成功裏に終えることができたと考えていますが、肝心なことはその後の展開です。GCOEの主たる目的は博士課程学生の育成であり、プログラム終了後もDC学生育成拠点を維持し、さらに発展させることが求められています。この点に関しては、学内で組織の検討が進められ、平成25年度から理工学研究科博士後期課程に「先端科学特別コース」が設置されることになりました。同コースはCMESと他の学内3研究センター（地球深部ダイナミクス、無細胞生命科学工学、宇宙進化）の有資格教員と理工学研究科教員が連携して担当し、関連分野の高度な研究者育成を目指す特別コースです。同コースは、環境科学、地球・宇宙科学、生命科学の3

分野によって構成され、CMESのGCOEや地球深部ダイナミクス研究センターのGCOEの経験に基づいた分野横断的なカリキュラムが用意されることになっています。この特別コースは、本学における大学院教育の特色となり得るものであり、CMES教員はその成功に向けた重責の一端を担うことになります。

研究センターであるCMESでは、GCOE終了後も高い研究の活力を維持していくことが必要であることはいうまでもありません。実は、21世紀COEやGCOEという大きなプロジェクトの陰に隠れがちでしたが、CMESではこれまで研究センターとして恥ずかしくない規模のCOE以外の外部資金を獲得してきています。これらに加え、平成24年度から特別教育研究費による3年間のプロジェクト「環瀬戸内海圏をフィールドとした地球温暖化と化学汚染の地域連携研究」が始まりました。24年度からのしばらくの間は、科研費やこれらのプロジェクトによって一定の研究活力を維持しつつ次の大きな展開を考える準備期間としたいと考えています。関係各位におかれましては、今後とも引き続き御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年9月

愛媛大学沿岸環境科学研究センター

センター長 武岡 英隆

目 次

まえがき	1
1. 総 説	4
1. 1 組織 (平成24年4月現在)	4
2. 研究者要覧 (平成24年4月現在)	7
3. 研究プロジェクト (平成23年度)	19
3. 1 グローバル COE プログラム	19
3. 2 科学研究費等	19
3. 3 共同研究	22
3. 4 受託研究	22
3. 5 各種研究助成金 (民間・財団等), 奨学寄付金等	23
4. 研究成果 (暦年で平成23年に出版, 掲載されたもの)	25
4. 1 著 書	25
4. 2 学協会誌等	26
4. 3 学内, 所内誌等	32
4. 4 一般誌等	32
4. 5 報告書等	32
4. 6 学会発表等	32
5. 学会及び社会における活動 (平成23年度)	54
5. 1 併任・委員会委員等	54
5. 2 学協会委員等	56
5. 3 学会, 講演会などの開催 (センター主催または共催)	57
5. 4 学会, 講演会などの開催 (個人)	59
5. 5 学会賞等	59
6. 国際的活動 (平成23年度)	61
6. 1 国際研究プロジェクト	61
6. 2 在外研究等	62
6. 3 海外調査・国際学会等	62
6. 4 外国人客員研究員等	68
6. 5 海外からの訪問者	68
6. 6 招聘研究員	68
6. 7 留学生	69
7. 教育活動	71
7. 1 卒業論文・修士論文・博士論文 題目 (平成23年度)	71
7. 2 講義・集中講義 (平成23年度)	72
8. 設 備 (平成23年度導入)	77
9. 広 報 (平成23年度)	81
9. 1 CMES ニュース・グローバル COE ニュース	81
9. 2 報道関係	82
9. 3 講座, 講演会等	82
10. 調査実習船「いさな」運航状況 (平成23年度)	84
11. 研究員名簿 (平成23年度)	85
12. 客員研究員名簿 (平成23年度)	87
13. 運営委員会 (平成23年度)	90
14. センター規則および運営委員会規程	91

1. 総 説



1. 1 組織（平成24年4月現在）

センター長 : 武岡 英隆

環境動態解析部門

教授	: 武岡 英隆
教授	: 磯辺 篤彦
准教授	: 郭 新宇
講師	: 吉江 直樹
*グローバル COE 研究員	: 小野 純 (平成24年4月より国立極地研究所北極観測センター特任研究員)
研究員	: 堤 英輔 (平成24年4月着任)
日本学術振興会特別研究員	: 斎藤 光代
特任助教	: 加古真一郎
研究員	: 岩崎 慎介
上級研究員センター上級研究員	: 加 三千宣
上級研究員センター研究員	: 佐川 拓也
上級研究員センター研究員	: 梶木 玲美
研究補助員	: 朝川 季佐
*事務補佐員	: 高橋 陽子 (平成24年3月退職)
事務補佐員	: 大塚あかり
事務補佐員	: 上城戸香奈

化学汚染・毒性解析部門

教授	: 田辺 信介
教授	: 岩田 久人
准教授	: 高橋 真
講師	: 伸山 慶
講師	: 野見山 桂
助教	: 板井 啓明
特任助教	: 鈴木 賢一
特任助教	: 阿草 哲郎 (平成24年3月までグローバル COE 助教)
日本学術振興会特別研究員	: 平野 将司 (平成24年3月までグローバル COE 研究員)
*グローバル COE 研究員	: Pham Thi Dau (平成24年4月より Haiphong City)
*グローバル COE 研究員	: 徳永 彩未 (平成24年3月退職)
上級研究員センター上級研究員	: 磯部 友彦
上級研究員センター研究員	: 金 俊佑
研究員	: Nguyen Minh Tue
*グローバル COE 研究員	: Muhammad Ilyas (平成23年10月着任、平成24年4月よりインドネシア・BPPT 研究員)
*グローバル COE 研究員	: Gnanasekalan Devanathan (平成23年10月着任、平成24年4月より Environmental Services Institute for Applied Chromatography SGSAntwerp, Belgium NV Pro-

ject Manager)

- *グローバル COE 研究員
*グローバル COE 研究補助員
研究員
*グローバル COE 研究補助員
*グローバル COE 研究補助員
事務補佐員
事務補佐員
事務補佐員
: 三崎健太郎 (平成24年4月より京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター研究機関研究員)
: 館森 恵子 (平成24年4月よりオオノ開発研究員)
: Asante Kwadwo Ansong (平成24年4月着任)
: 向井亜希子 (平成24年3月退職)
: 本川 祥吾 (平成24年4月より一般財団法人松岡科学研究所 研究員)
: 松田 昌子
: 倉田 智美
: 小倉 美子

生態系解析部門

- 教授
准教授
准教授
助教
助教
特命准教授
*グローバル COE 准教授
*グローバル COE 研究員
*グローバル COE 研究員
*グローバル COE 研究員
研究補助員
技術補佐員
事務補佐員
: 鈴木 聰
: 大森 浩二
: 北村 真一
: 金本自由生
: 横川 太一
: 濱村奈津子 (平成24年3月までグローバル COE 准教授)
: Todd William Miller (平成24年4月よりサイパン水産局研究員)
: 柴田 淳也 (平成23年7月より京都大学生態学研究センター研究員)
: 菅 夏海 (平成24年3月退職)
: 濱岡 秀樹 (平成23年11月より瀬戸内海区水産研究所 研究支援員)
: 高部 由季 (平成24年4月着任)
: 片岡 剛文 (平成24年4月着任)
: 福島 江 (平成24年4月着任)
: 黄 鶴 (平成24年4月着任)
: 國弘 忠生 (平成24年3月までグローバル COE 研究員)
: Jerome Dixon (平成23年10月着任)
: 村上 祥子 (平成23年6月着任)
: 金谷 由美

国際・社会連携部門

- 特命教授
客員教授
客員教授
客員教授
客員教授
客員教授
客員教授
客員准教授
: Annamalai Subramanian
: 高菅 卓三 (株式会社島津テクノリサーチ取締役)
: Kurunthachalam Kannan (State University of New York at Albany 教授)
: 吳 明柱 (韓国国立全南大学校水産生命医学科教授)
: 大久保規子 (大阪大学大学院法学研究科教授)
: 村田 健史 (情報通信研究機構グループリーダー)
: 金 恩英 (韓国慶熙大学助教授)

センター所属研究員等

- *グローバル COE 研究員
*グローバル COE 研究員
*グローバル COE 研究員
*グローバル COE 研究補助員
: Fritzie Tuble Celino (平成24年4月よりワシントン大学研究員)
: 川口 将史 〈理学部〉 (平成24年4月より独立行政法人国立精神・神経医療研究センター 研究員)
: 佐藤 寛之 〈医学部〉 (平成24年4月より自然科学研究機構生理学研究所 特任助教)
: 重川 庸介 〈医学部〉 (平成24年4月よりナノキャリア株式会社)

共 通

技術専門職員 : 大西秀次郎
研究補助員 : 小川 次郎

研究支援部研究拠点事務課

研究支援部長 : 渡邊 博善
*研究支援部研究拠点事務課長 : 中川 庄八 (平成24年3月まで)
研究支援部研究拠点事務課長 : 藤村 宗 (平成24年4月より)
研究拠点第一チームチームリーダー : 西川 勇
事務補佐員 : 家久 恒美
事務補佐員 : 中山 真理
*事務補佐員 : 藤井 夏子 (平成23年7月退職)
*事務補佐員 : 星加恵理子 (平成24年3月退職)
*事務補佐員 : 内藤亜矢子 (平成24年3月退職)
*事務補佐員 : 松本亜紀子 (平成24年3月退職)

※ *は転任または退職した職員を示す.

2. 研究者要覧



(平成24年4月現在)

環境動態解析部門



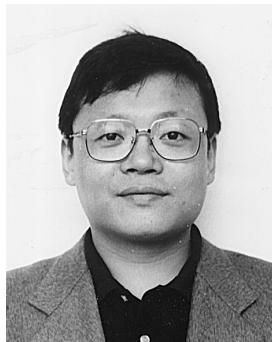
武岡 英隆 TAKEOKA Hidetaka

【職名】教授 沿岸環境科学研究センター長 工学部環境建設工学科・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理工学研究科生産環境工学専攻及びアジア環境学特別コース兼担 学長特別補佐 先端研究・学術推進機構副機構長 スーパーサイエンス特別コース長 同環境科学コース長 上級研究員センター長 **【電話】** 089-927-9833 **【FAX】** 089-927-9846 **【E-mail】** takeoka@dpc.ehime-u.ac.jp **【学歴】** 昭和49年3月 京都大学理学部卒業、昭和51年3月 京都大学大学院理学研究科修士課程地球物理学専攻修了 **【学位】** 昭和59年3月 京都大学理学博士 **【所属学会】** 1. 日本海洋学会、2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会、3. 土木学会、4. 海洋気象学会、5. 水産海洋学会、6. 日本沿岸域学会 **【専門分野】** 1. 沿岸海洋学、2. 海洋物理学 **【主な研究テーマ】** 1. 沿岸海域の流動と物質輸送、2. 豊後水道の急潮と底入り潮、3.瀬戸内海の物質循環と生物生産機構、4. 養殖場の物質循環と環境保全、5. 地球環境変動の沿岸域への影響、6. クラゲ類の大量発生機構と移動集積機構 **【受賞歴】** 1999年日本海洋学会日高論文賞、2003年愛媛県政発足記念日知事表彰、2003年瀬戸内法30周年記念環境大臣表彰、2009年原子力安全功労者表彰(経済産業大臣)



磯辺 篤彦 ISOBE Atsuhiko

【職名】教授 理学部地球学科・スーパーサイエンス特別コース地球惑星科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻兼任 **【電話】** 089-927-9674 **【FAX】** 089-927-8182 **【E-mail】** aisobe@ehime-u.ac.jp **【学歴】** 昭和61年3月 愛媛大学工学部卒業、昭和63年3月 愛媛大学大学院工学研究科修士課程海洋工学専攻修了 **【学位】** 平成6年2月 東京大学博士(理学) **【所属学会】** 1. 日本海洋学会、2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会、3. American Geophysical Union、4. American Meteorological Society **【専門分野】** 1. 海洋物理学、2. 沿岸海洋学 **【主な研究テーマ】** 1. 黄海・東シナ海の海洋循環と物質輸送、2. 海岸漂着ゴミ、3. 河川プレリュームの力学過程、4. 瀬戸内海の潮汐フロント、5. 高潮、6. 縁辺海の大気海洋相互作用、7. 瀬戸内海の急潮



郭 新宇 GUO Xinyu

【職名】准教授 理学部地球学科・スーパーサイエンス特別コース地球惑星科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻及びアジア環境学特別コース兼担 【電話】089-927-9824
【FAX】089-927-9846 【E-mail】guoxinyu@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和63年7月 中国天津大学海洋船舶工学科卒業, 平成3年1月 中国ハルビン船舶工程学院修士課程海洋流体力学専攻修了, 平成9年3月愛媛大学理工学研究科博士後期課程生産工学専攻修了 【学位】平成9年3月博士(工学)愛媛大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 日本地球惑星科学連合, 4. American Geophysical Union, 5. American Meteorological Society, 6. Association for the Sciences of Limnology and Oceanography 【専門分野】1. 海洋物理学, 2. 沿岸海洋学 【主な研究テーマ】1. 東シナ海の流動構造と栄養塩の動態, 2.瀬戸内海の流動構造と栄養塩の動態, 3. 河川plumeの動態シミュレーション



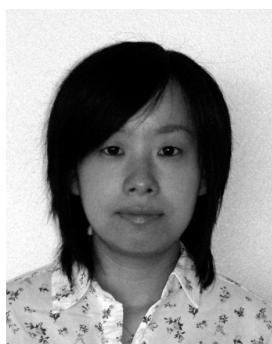
吉江 直樹 YOSHIE Naoki

【職名】講師 工学部環境建設工学科兼担 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846
【E-mail】nyoshie@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成9年3月 北海道大学水産学部水産化学科卒業, 平成14年9月 北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程大気海洋圏環境科学専攻修了 【学位】平成14年9月 博士(地球環境科学)北海道大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. The American Society of Limnology and Oceanography, 3. European Geosciences Union 【専門分野】1. 生物地球化学, 2. 生態系モデリング, 3. 海洋科学, 4. 海洋生物学 【主な研究テーマ】1. 日本周辺沖合域における低次生態系・物質循環の数値モデリング, 2. 瀬戸内海における低次生態系・物質循環の数値モデリングおよび現場モニタリング, 3. 植物プランクトンの光合成生理に関する研究



堤 英輔 TSUTSUMI Eisuke

【職名】研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】tsutsumi.eisuke.my@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成19年3月 九州芸術工科大学芸術工学部音響設計学科卒業, 平成21年3月 九州大学大学院総合理工学府大気海洋環境システム学専攻修士課程修了, 平成24年3月 九州大学大学院総合理工学府大気海洋環境システム学専攻博士課程修了 【学位】平成24年3月 博士(理学)九州大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会 【専門分野】1. 沿岸海洋学 2. 海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 沿岸域における乱流計測に基づいた鉛直混合過程 2. 沿岸域における内部潮汐波の動態



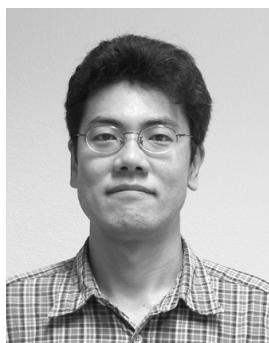
斎藤 光代 SAITO Mitsuyo

【職名】日本学術振興会特別研究員(PD) 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】misaito@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月 広島大学総合科学部総合科学科卒業, 平成17年3月 広島大学大学院生物圏科学研究科生物圏共存科学専攻修士課程修了, 平成20年3月 広島大学大学院生物圏科学研究科生物圏共存科学専攻博士課程修了 【学位】平成20年3月 博士(学術)広島大学 【所属学会】1. 日本陸水学会, 2. 日本海洋学会, 3. 日本地下水学会, 4. 日本文科学会, 5. 沿岸海洋研究部会, 6. 日本地球惑星科学連合, 7. American Geophysical Union, 8. 瀬戸内海研究会議 【専門分野】1. 地下水学, 2. 沿岸水文学 【主な研究テーマ】1. 陸域から沿岸海域への栄養塩輸送に関する研究, 2. 沿岸海域での海底地下水湧出に関する研究 【受賞歴】2010年日本陸水学会吉村賞



加古 真一郎 KAKO Shin'ichiro

【職名】特任助教 【電話】089-927-8182 【FAX】089-927-8182 【E-mail】kako@ehime-u.ac.jp
【学歴】平成13年3月 東海大学海洋学部卒業, 平成15年3月 東海大学大学院海洋学研究科海洋工学専攻博士課程前期修了, 平成19年9月 東海大学大学院海洋学研究科海洋工学専攻博士課程後期修了 【学位】平成19年9月 東海大学博士(工学) 【所属学会】日本海洋学会 【専門分野】海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 海岸漂着ゴミ, 2. 黒潮続流域の大気海洋相互作用, 3. 北太平洋における水塊／混合層の形成過程



加 三千宣 KUWAE Michinobu

【職名】上級研究員センター上級研究員 【電話】089-927-9654 【FAX】089-927-9654 【E-mail】mkuwae@sci.ehime-u.ac.jp
【学歴】平成14年3月 大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程(生物地球系専攻)修了 【学位】平成14年3月 大阪市立大学大学院博士(理学)
【所属学会】1. 日本第四紀学会, 2. 日本海洋学会, 3. 日本地質学会, 4. 日本珪藻学会,
【専門分野】1. 第四紀学, 2. 古陸水学, 3. 古海洋学 【主な研究テーマ】1. 琵琶湖湖底堆積物の珪藻化石を用いた過去40万年間の環境変遷史, 特に古気候変動記録の復元に関する研究, 2. 硅藻及び安定同位体比を用いた西南日本沿岸浅海域における基礎生産の気候変動に対する応答, 3. 魚鱗を用いた多種性小型浮遊魚類のバイオマスの長期変動に関する研究, 4. 浮遊性有孔虫及び底生有孔虫殻のMg/Ca比を用いた西南日本沿岸浅海域の海洋温暖化に関する研究, 5. 日本沿岸域における高解像度古海洋変動の解明 【受賞歴】2008年日本海洋学会日高論文賞受賞, 2004年日本第四紀学会日本第四紀学会論文賞



佐川 拓也 SAGAWA Takuya

【職名】上級研究員センター研究員 【電話】089-927-9654 【FAX】089-927-9654 【E-mail】tsagawa@sci.ehime-u.ac.jp
【学歴】平成12年3月 北海道大学理学部地球科学科卒業, 平成14年3月 北海道大学大学院地球環境科学研究科修士課程修了, 平成17年9月 北海道大学大学院地球環境科学研究科博士後期課程修了 【学位】平成17年9月 博士(地球環境科学)北海道大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本地質学会, 3. 日本地質学会, 4. American Geophysical Union 5. 古生物学会 【専門分野】古海洋学 【主な研究テーマ】1. 北西太平洋亜寒帯域の完新世における海洋環境変動解析, 2. 日本周辺海域の第四紀後期における海洋環境変動解析



楢木 玲美 TSUGEKI Narumi

【職名】上級研究員センター研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】tsugeki-kuwae@sci.ehime-u.ac.jp
【学歴】平成17年3月 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻 博士課程修了 【学位】平成17年3月 博士(理学) 京都大学 【所属学会】1. 日本生態学会, 2. 日本地球惑星科学連合, 3. American Geophysical Union, 4. American Society of Limnology and Oceanography, 5. 日本陸水学会 【専門分野】1. 古陸水学・古海洋学, 2. プランクトン生態学 【主な研究テーマ】1. 湖沼・沿岸域の過去100年にわたる動・植物プランクトン動態の解析, 2. 環境変化に伴う湖沼・沿岸域の生態系変動の解明, 3. 沿岸干潟域の植物プランクトン・底生微細藻類の生態的特性に関する研究 【受賞歴】2004年日本陸水学会吉村賞



岩崎 慎介 IWASAKI shinsuke

【職名】研究員 【電話】089-927-8182 【FAX】089-927-8182 【E-mail】siwasaki@ehime-u.ac.jp
【学歴】平成16年3月東海大学海洋学部卒業、平成19年3月東海大学連合大学院地球環境科学研究科地球環境科学専攻博士課程前期修了、平成23年3月東海大学大学院地球環境科学研究科地球環境科学専攻博士課程後期修了 【学位】平成23年3月東海大学博士（理学）
【所属学会】1. 日本海洋学会 【専門分野】海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 東シナ海における大気海洋相互作用 2. 全球衛星潜熱フラックスプロダクトの構築と解析

化学汚染・毒性解析部門



田辺 信介 TANABE Shinsuke

【職名】教授（特別栄誉教授） 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理学部生物学科・農学研究科生物資源学専攻生物環境保全学専門教育コース・連合農学研究科生物環境保全学専攻・理工学研究科環境機能科学専攻及びアジア環境学特別コース・大学院医学系研究科兼担 【電話】089-927-8171 【FAX】089-927-8171 【E-mail】shinsuke@agr.ehime-u.ac.jp
【学歴】昭和50年3月 愛媛大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士課程修了 【学位】昭和60年2月 名古屋大学農学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会、2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会、3. 日本水産学会、4. 日本農芸化学会、5. 日本極地研究振興会、6. 日本薬学会、7. 日本環境科学会、8. 日本生態学会、9. 日本地球化学会、10. 日本環境化学会、11. 日本比較生理生化学会、12. 日本環境毒性学会、13. 日本BICER協議会、14. 日本鳥学会、15. 日本哺乳類学会、16. 日本内分泌搅乱化学物質学会、17. 日本化学会、18. 日本微量元素学会、19. 日本セトロジー研究会、20. 日本ウミガメ協議会、21. ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議、22. 東南アジア国際農学会、23. 日本農学アカデミー、24. 環境放射能除染学会、25. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC)、26. Society for Marine Mammalogy、27. American Chemical Society 【専門分野】環境化学 【主な研究テーマ】1. 生物蓄積性有害物質(PTS)による地球規模の海洋汚染とその動態、ゆくえおよび歴史トレンドに関する環境化学的研究、2. PTSによる海棲哺乳動物の汚染と毒性影響に関する研究、3. PTSによる北海の汚染とアザラシへの蓄積および毒性影響に関する研究、4. PTSによる鳥類の汚染と毒性影響に関する研究、5. PTSによる深海生物の汚染と毒性影響に関する研究、6. マッセルウォッチ：二枚貝を生物指標としたアジアの海洋汚染モニタリング、7. 魚介類を指標にした有害物質の蓄積および毒性影響に関するモニタリング手法の開発、8. 海棲哺乳動物における重金属の蓄積特性に関する研究、9. 鳥類における重金属の蓄積特性に関する研究、10. 野生高等動物におけるヒ素の蓄積特性に関する研究、11. 環境保全型漁業をめざした有害物質のリスク評価と管理に関する研究、12. 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類、農薬、重金属類等有害物質の汚染と毒性影響に関する研究、13. 途上国におけるヒ素の地下水汚染とヒトへの影響に関する研究、14. 有機臭素化合物等難燃剤による環境汚染、生物蓄積、経年変化、生態影響に関する研究、15. 水酸化代謝物の生物蓄積特性と影響評価に関する研究、16. 生物環境試料バンクを基盤とした国際的・学際的研究 【受賞歴】1985年4月日本海洋学会岡田賞、1999年3月日産科学賞、2000年10月ISI引用最高栄誉賞、2003年12月ベトナム政府フレンドシップメダル、2004年7月日本環境化学会学術賞、2004年10月日本環境科学会学術賞、2005年11月The 2005 SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) Founders Award 国際

賞, 2006年6月 日本環境化学会環境化学論文賞, 2007年11月 Excellence in Review Award for Environmental Science & Technology 国際賞, 2007年11月 SETAC/Menzie-Cura Environmental Educational Award 国際賞, 2009年11月 日本学術振興会科学研究費補助金第一段審査貢献表彰, 2010年6月 Marine Pollution Bulletin Highly Cited Author Award 2005-2009, 2010年11月 Environmental Pollution Highly Cited Author Award 2007-2010 (2編), 2011年4月 紫綬褒章, 2012年1月 愛媛大学特別栄誉教授称号



岩田 久人 IWATA Hisato

【職名】教授 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理学部生物学科・農学研究科生物資源学専攻生物環境保全学専門教育コース・連合農学研究科生物環境保全学専攻・理工学研究科環境機能科学専攻及びアジア環境学特別コース・大学院医学系研究科兼任 【電話】089-927-8172 【FAX】089-927-8172 【E-mail】iwatah@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成6年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成6年3月 博士(学術)愛媛大学
【所属学会】1. 日本環境科学会, 2. 日本環境会議, 3. 日本環境化学会, 4. 日本BICER協議会, 5. 日本環境毒性学会, 6. 日本獣医学会, 7. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 8. 日本生化学会, 9. 日本分子生物学会, 10. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 11. Society of Toxicology 【専門分野】環境毒性学 【主な研究テーマ】1. 環境汚染物質による水圏生態系の汚染とその毒性影響の解明, 2. 環境汚染物質暴露に反応する生体分子の探索, 3. 環境汚染物質による毒性影響の多様性および種特異的感受性を決定する分子機構の解明, 4. シトクロムP450を指標とした化学物質暴露および毒性影響の評価, 5. 野生生物のリスク評価を目指した核内受容体リガンドの網羅的解析法の開発 【受賞歴】1994年9月 QUINTESSENCE Excellence in Environmental Contamination and Toxicology, 第16回生態学琵琶湖賞受賞



高橋 真 TAKAHASHI Shin

【職名】准教授 理学部生物学科・スーパーサイエンスコース環境科学コース・理工学研究科環境機能科学専攻及びアジア環境学特別コース兼任 【電話】089-927-8196 【FAX】089-927-8196 【E-mail】shint@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成12年3月 愛媛大学博士(農学)
【所属学会】1. 日本環境科学会, 2. 日本環境化学会, 3. 日本環境毒性学会, 4. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 5. 廃棄物資源循環学会, 6. American Chemical Society, 7. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) 【専門分野】1. 環境地球化学, 2. 環境保全工学 【主な研究テーマ】1. 有害物質による海洋生態系の汚染と物質挙動に関する環境化学的研究, 2. 有機スズ化合物による陸上および海洋生態系の汚染と影響に関する研究, 3. 循環資源・廃棄物を対象とした試験法開発と対策評価に関する研究, 4. 有機ハロゲン化合物の分解・代謝挙動と活性化に関する研究, 5. 安定同位体を用いた海洋食物連鎖網における有害物質濃縮挙動の解析に関する研究



仲山 慶 NAKAYAMA Kei

【職名】講師 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース・連合農学研究科生物環境保全学専攻兼担 【電話】089-927-8132 【FAX】089-927-8133 【E-mail】kei_n@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年9月 九州大学大学院生物資源環境科学府生物機能科学専攻博士(後期)課程修了 【学位】平成15年9月 博士(農学)九州大学 【所属学会】1. 日本環境毒性学会, 2. 日本水産学会, 3. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】1. 環境毒性学, 2. 水産化学 【主な研究テーマ】1. トキシコゲノミクスおよびメタボロミクスによる化学物質の毒性影響の評価およびメカニズムの解明, 2. 化学物質の複合暴露による毒性影響の評価手法の開発, 3. 複合的な環境要因の変化に対する生体応答の詳細解析, 4. 有機汚染物質が魚類の発生や脳神経系および行動に及ぼす影響の解明 【受賞歴】2006年9月第12回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会奨励賞



野見山 桂 NOMIYAMA Kei

【職名】講師 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース兼担 【電話】089-927-8196 【FAX】089-927-8196 【E-mail】keinomi@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成19年3月 熊本県立大学大学院環境共生学研究科環境共生学専攻博士課程修了 【学位】平成19年3月 熊本県立大学博士(環境共生学) 【所属学会】1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 2. 日本環境化学会 3. 日本水環境学会【専門分野】1. 水環境科学, 2. 環境分析化学 【主な研究テーマ】1. 有機ハロゲン化代謝物の分析法開発と代謝物をマーカーとした比較生物学的研究, 2. 野生高等生物の肝ミクロソームを用いた有機ハロゲン化合物の *in vitro* 代謝系の確立 3. 野生生物に残留する医薬品類の蓄積特性に関する研究 【受賞歴】第15回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会奨励賞



板井 啓明 ITAI Takaaki

【職名】助教 理学部地球科学科兼担 【電話】089-927-8133 【FAX】089-927-8133 【E-mail】itai@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成21年3月 広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻博士課程修了 【学位】平成21年3月 広島大学博士(理学) 【所属学会】1. 日本地球化学会, 2. 日本環境化学会, 3. 日本地下水学会, 4. International Association for Geochemistry and Cosmochemistry (IAGC) 【専門分野】1. 環境無機化学, 2. 地球化学, 3. International Association for Geochemistry and Cosmochemistry (IAGC), 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 5. 日本陸水学会, 6. プラズマ分光分析研究会 【主な研究テーマ】1. ヒ素によるアジア地域地下水汚染の実態解明, 2. 環境・生体試料中における微量元素の化学形態分析法の確立, 3. 水圏環境の貧酸素化に伴う微量元素の動態変化とその生態影響評価

鈴木 賢一 SUZUKI Ken-ichi

【職名】特任助教 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】suzukken107@gmail.com 【学歴】平成14年4月 広島大学大学院 理学研究科 生物科学専攻 博士課程修了 【学位】平成14年4月 博士(理学) 【所属学会】1. 日本発生生物学会 2. 日本内分泌搅乱化学物質学会 【専門分野】1. 発生生物学 2. 分子内分泌学 【主なテーマ】無尾両生類を用いた以下の研究 1. 核内受容体とその標的遺伝子の転写制御機構 2. 内分泌搅乱物質評価システムの開発 3. ホルモン依存的な器官形成及び細胞分化の分子機構

2. 研究者要覧

阿草 哲郎 AGUSA Tetsuro

【職名】特任助教 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】ax@agr.ehime-u.ac.jp
【学歴】平成17年3月愛媛大学連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成17年3月 博士(農学)愛媛大学 【所属学会】1. 日本微量元素会, 2. 日本ヒ素研究会, 3. 廃棄物資源循環学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) 【専門分野】1. 環境化学, 2. 環境毒性学 【主な研究テーマ】1. ヒ素曝露の健康影響評価とその感受性因子の探索, 2. 水棲哺乳類における水銀蓄積メカニズムの解明 【受賞歴】1. 2010年5月 Young Scientist Award in The Third International Congress on Arsenic in the Environment (As 2010), 2. 2011年11月第17回ヒ素シンポジウム奨励賞



平野 将司 HIRANO Masashi

【職名】日本学術振興会特別研究員 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】m-hirano@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成21年3月熊本県立大学大学院環境共生学研究科博士後期課程修了 【学位】平成21年3月 博士(環境共生学)熊本県立大学 【所属学会】1. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 2. 日本水環境学会 【専門分野】1. 生態毒性学, 2. 食環境安全性学 【主な研究テーマ】無脊椎動物核内受容体と化学物質の相互作用の定量的解析



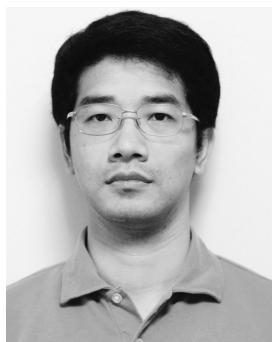
磯部 友彦 ISOBE Tomohiko

【職名】上級研究員センター上級研究員 【電話】089-927-8162 【FAX】089-927-8171 【E-mail】t.isoibe@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成13年3月 東京農工大学大学院連合農学研究科資源環境学専攻博士課程修了 【学位】平成13年3月 東京農工大学博士(農学) 【所属学会】1. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 2. 日本水環境学会, 3. 日本環境化学会, 4. 日本セトロジー研究会, 5. American Chemical Society 【専門分野】1. 環境化学, 2. 機器分析化学 【主な研究テーマ】1. 新規POPs候補物質の分析法開発, 2. 臭素系難燃剤の環境動態解明に関する研究



金 俊佑 KIM Joon-Woo

【職名】上級研究員センター研究員 【電話】089-927-8162 【FAX】089-927-8171 【E-mail】pacex@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成21年3月 熊本県立大学大学院環境共生学研究科博士課程修了 【学位】平成21年3月 熊本県立大学博士(環境共生学) 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. 生活関連物質による環境汚染の実態解明



グエン・ミン・トゥエ NguyenMinTue

【職名】研究員 【電話】089-927-8196 【FAX】089-927-8196 【E-mail】tuenm@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成17年3月 スイス連邦工科大学大学院環境科学修士課程修了 【学位】平成22年9月 愛媛大学博士(理学) 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. アジアのe-wasteリサイクル地域における内分泌搅乱物質の人体暴露とリスク

生態系解析部門



鈴木 聰 SUZUKI Satoru

【職名】教授 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース・スーパーイング特別コース環境科学コース・理学部生物学科・農学研究科生物資源学専攻生物環境保全学専門教育コース・連合農学研究科生物環境保全学専攻・理工学研究科環境機能科学専攻及びアジア環境学特別コース兼任 理工学研究科アジア環境学特別コース長 【電話】089-927-8552 【FAX】089-927-8552 【E-mail】ssuzuki@ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和60年9月北海道大学大学院薬学研究科博士課程製薬化学専攻修了 【学位】昭和60年9月薬学博士北海道大学 【所属学会】1. 日本微生物生態学会, 2. 日本魚病学会, 3. 日本海洋学会, 4. マリンバイオテクノロジー学会, 5. 日本水産学会, 6. 日本生化学会, 7. 米国微生物学会, 8. 国際微生物生態学会, 9. 日本ウイルス学会 10. 日本細菌学会 【専門分野】1. 海洋中溶存態タンパク質の形成と分解過程に関する研究, 2. 微生物間での薬剤耐性遺伝子の伝播と変異の研究, 3. 緑膿菌の水圈環境での生態 【受賞歴】1999年 日本魚病学会研究奨励賞, 2001年 日本微生物生態学会論文賞



大森 浩二 OMORI Koji

【職名】准教授 理学部生物学科・スーパーイングコース環境科学コース・理工学研究科環境機能科学専攻及びアジア環境学特別コース兼任 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-9630 【E-mail】ohmori@mserv.sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和58年3月 九州大学理学研究科修士課程修了 【学位】昭和60年1月 理学博士九州大学 【所属学会】1. 日本生態学会, 2. 日本ベントス学会, 3. 日本海洋学会沿岸海洋部会, 4. 個体群生態学会 【専門分野】1. 水域生態学, 2. 生態系生態学 【主な研究テーマ】1. 基礎生態学解析, 2. 河川生態系の解析, 3. 沿岸海洋生態系の解析



北村 真一 KITAMURA Shin-ichi

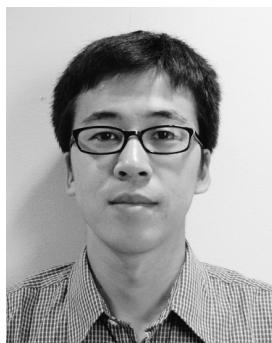
【職名】准教授 理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻兼任 【電話】089-927-8998 【FAX】089-927-8998 【E-mail】kitamura@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成11年高知大学大学院農学研究科栽培漁業学専攻修士課程修了 【学位】平成15年3月博士(水産科学)北海道大学 【所属学会】1. 日本魚病学会, 2. 韓国魚病学会, 3. 日本微生物生態学会, 4. 日本水産学会 5. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) 【専門分野】1. 感染症学, 2. 魚類環境生理学 【主な研究テーマ】1. ヒラメのスクーチカ症に関する研究, 2. 魚類イリドウイルスに関する研究, 3. 魚類体表粘液中のマイクロフローラに関する研究, 4. 環境変化による感染症発生メカニズムの解明, 5. マボヤの被囊軟化症に関する研究, 6. 日本産アゲハチョウの分子進化的研究

2. 研究者要覧



金本 自由生 KANAMOTO Ziyusei

【職名】助教 理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻兼担 【電話】089-927-8295
【FAX】089-927-8295 【E-mail】ziyusei@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和49年3月 東北大学大学院農学研究科水産学専攻修士課程修了 【学位】昭和61年2月 農学博士東北大学 【所属学会】1. 水産増殖学会, 2. 日本魚類学会, 3. 日本ベントス学会, 4. 沖縄生物学会, 5. American Society of Herpetologist and Ichthyologist 【専門分野】海洋生態学 【主な研究テーマ】1. 磯魚類の生態学的研究, 2. ナメクジウオの生態学的研究, 3. 海草の分布生態, 4. 海草藻場の経時的变化の研究



横川 太一 YOKOKAWA Taichi

【職名】助教 理学部・理工学研究科環境機能科学専攻兼担 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8551 【E-mail】taichi.yokokawa@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成16年11月 京都大学大学院理学研究科博士課程修了 【学位】平成16年11月 博士(理学)京都大学 【所属学会】1. 日本微生物生態学会, 2. 日本海洋学会 3. 日本生態学会 【専門分野】微生物海洋学 【主な研究テーマ】1. 細菌群集を介した海洋炭素循環,
2. 微生物群集の生物地理学的研究, 3. 抗菌性物質が沿岸生態系の腐食食物網に及ぼす影響評価



濱村 奈津子 HAMAMURA Natsuko

【職名】特命准教授 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8551 【E-mail】nhama@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成13年4月 オレゴン州立大学 Molecular and Cellular Biology Program 博士課程修了 【学位】平成13年4月 Ph.D. オレゴン州立大学 【所属学会】1. American Society of Microbiology, 2. International Society of Microbial Ecology, 3. 日本微生物生態学会, 4. 日本ゲノム微生物学会 【専門分野】1. 微生物生態学, 2. 微生物生理学, 3. 環境ゲノム
【主な研究テーマ】1. ヒ素汚染環境中の微生物ヒ素代謝機能の解析, 2. ゲノムやトランスクリプトーム手法を用いた高温環境中の微生物生態及び機能のメタ解析, 3. 複合汚染環境における微生物遺伝子応答の解析



國弘 忠生 KUNIHIRO Tadao

【職名】研究員 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-8160 【E-mail】kunihiro@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成16年3月 豊橋技術科学大学大学院工学研究科博士後期課程環境・生命工学専攻修了 【学位】平成16年3月 博士(工学) 豊橋技術科学大学 【所属学会】1. 日本微生物生態学会, 2. 日本ベントス学会, 3. 日本水環境学会, 4. 日本水産学会 【専門分野】環境微生物工学 【主な研究テーマ】1. 養殖活動が及ぼす海底環境および底生生物・微生物生態系への影響, 2. 養殖漁場の海底環境の改善, 3. イトゴカイと微生物の協働作業による有機汚泥浄化メカニズムの解明, 4. 別府湾における水柱-堆積物表層の細菌・古細菌群集構造の季節変動の解明



高部 由季 SATO-TAKABE Yuki

【職名】研究員 【電話】089-927-8554 【E-mail】takabe.yuki.mf@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成24年3月 北海道大学大学院環境科学院博士課程修了 【学位】平成24年3月 博士(環境科学) 北海道大学 【所属学会】1. 日本微生物生態学会 2. 日本地球惑星科学連合 3. American Society of Limnology and Oceanography 【専門分野】1. 微生物生態学 2. 光合成生理学 【主な研究テーマ】1. 光従属栄養細菌が海洋食物連鎖に与える影響評価 2. 光従属栄養細菌の生理生態学的研究

国際・社会連携部門



アンナマライ・スブラマニアン SUBRAMANIAN Annamalai

【職名】特命教授 【電話】089-927-8173 【FAX】089-927-8196 【E-mail】subra@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和63年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】昭和63年3月 愛媛大学博士(学術), 1982年6月 Annamalai University Ph.D. 【所属学会】1. Indian Society of Life Sciences, 2. National Geographic Society, 3. Marine Mammal Society 【専門分野】海洋環境学 【主な研究テーマ】内分泌搅乱物質による途上国の海洋汚染とその生態毒性の解明 【受賞歴】平成14年度 日本学術振興会外国人招へい研究者(長期)



高菅 卓三 TAKASUGA Takumi

【職名】客員教授 株式会社島津テクノリサーチ 取締役 環境食品本部本部長 兼 研究開発部部長 【電話】075-811-3181 【FAX】075-811-7837 【電話】089-927-8171 【FAX】089-927-8171 【E-mail】t_takasuga00@shimadzu-techno.co.jp 【学歴】昭和60年3月 愛媛大学大学院農学研究科環境化学専攻修士課程修了 【学位】平成13年5月 東京大学博士(農学), 平成15年2月 スウェーデンrebro大学名誉博士 【所属学会】1. 日本環境化学会, 2. 日本分析化学会, 3. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 4. 日本水環境学会, 5. 廃棄物資源循環学会 【専門分野】1. 環境化学, 2. 分析化学, 3. 環境分析化学, 4. 廃棄物処理 【主な研究テーマ】 1. 廃棄物関連試料及び環境試料中の微量有機ハロゲン化合物の分析化学的研究, 2. POPsモニタリングにおける大気・生物試料の超高感度分析方法の最適化に関する研究, 3. 臭素化ダイオキシン類及び臭素系難燃剤の超微量測定方法の開発, 4. GC/MS (EI及びNCI) 法を用いた生物試料中有機臭素化合物の調査研究, 5. GC-HR-TOFMSを用いた環境試料の微量有機ハロゲン化合物の検索と同定および高感度・高精度スクリーニング分析, 6. 各種有機ハロゲン化合物等の分析法開発 【受賞歴】1994年6月 日本環境化学会技術賞, 1997年6月 日本環境化学会学術賞, 1999年11月 環境測定分析功労者賞(社団法人日本環境測定分析協会), 2003年2月 スウェーデンrebro大学名誉博士, 2009年5月 協会功労者賞(社団法人日本環境測定分析協会)



クルンタチャラム・カンナン KANNAN Kurunthachalam

【職名】客員教授 State University of New York at Albany教授 【学歴】平成6年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程修了 【学位】平成6年3月 博士(学術)愛媛大学 【所属学会】1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), USA, 2. American Chemical Society (ACS), USA, 3. Society of Toxicology (SOT), USA, 4. American Society for the Advancement of Science, USA 【専門分野】環境化学 【主な研究テーマ】有機フッ素化合物による環境汚染の実態解明 【受賞歴】Thomson ISI, Highly Cited Researcher in Environment/Ecology in 2005, ranked #8 in 2005, #7 in 2007, Thomson ISI, Highly Cited Researcher- Special Topics-PCBs, ranked #17 in 2003, United States Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC)/Weston F. Roy Award in Environmental Chemistry in 1999, Excellence in Review Award by American Chemical Society Journal Environmental Science and Technology in 2004



吳 明柱 OH Myung-Joo

【職名】客員教授 韓国国立全南大学校水産生命医学科教授 【電話】+82-61-659-3173
【FAX】+82-61-659-3173 【E-mail】ohmj@chonnam.ac.kr 【学歴】北海道大学大学院水産科学研究科博士課程修了 【学位】平成7年3月 水産学博士北海道大学 【所属学会】1. ヨーロッパ魚病学会, 2. 韓国魚病学会, 3. 日本魚病学会, 4. 韓国水産学会, 5. 世界水産学会, 6. アジア水産学会, 7. 日本水産学会, 8. 韓国マリンバイオテクノロジー学会, 9. 韓国生物科学会, 10. 韓国微生物学会 【専門分野】1. 魚病学, 2. 病原微生物学 【主な研究テーマ】1. 魚類ウイルス病に関する研究, 2. 食中毒原因病原体の分子疫学 【受賞歴】1. 2004年 Best Researcher prize, The Korean Ministry of Marine and Fisheries, 2. 2001年 Best poster presentation prize at the European Association of Fish Pathologists (EAFP) 10th International Conference on Diseases of Fish and Shellfish, 3. 2001年 Best Researcher prize, The Korean Ministry of Marine and Fisheries



大久保 規子 OKUBO Noriko

【職名】客員教授 大阪大学大学院法学研究科教授 【電話】06-6850-6111 【学歴】平成5年3月一橋大学大学院法学研究科博士後期課程修了 【学位】平成3年9月 MAGISTRA IURIS (法学) ギーセン大学, 平成5年3月 博士(法学)一橋大学 【所属学会】1. 日本公法学会, 2. 環境法政策学会, 3. 日本公共政策学会, 4. 日本社会情報学会 【専門分野】1. 行政法, 2. 環境法 【主な研究テーマ】1. 環境公益訴訟, 2. 行政訴訟の原告適格, 3. 参加・協働の法理, 4. 水管理法制



村田 健史 MURATA Takeshi(Ken T. Murata)

【職名】客員教授 独立行政法人情報通信研究機構グループリーダー(電磁波計測研究センター) 【電話】042-327-7931 【FAX】042-327-6978 【E-mail】ken.murata@nict.go.jp

【学歴】平成7年3月京都大学大学院工学研究科博士後期課程電子工学専攻単位取得満期退学 【学位】平成7年5月博士(工学)京都大学 【所属学会】1. 地球電磁気・地球惑星圏学会, 2. 情報処理学会, 3. 電子情報通信学会, 4. American Geophysical Union 【専門分野】1. 宇宙環境情報, 2. 地球惑星情報学 【主な研究テーマ】1. 宇宙環境(宇宙天気)情報通信・情報処理技術, 2. 地球惑星インフォマティックス, 3. 福祉情報工学



金 恩英 KIM Eun-Young

【職名】客員准教授 韓国慶熙大学助教授 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194

【E-mail】eykim@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成9年3月愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物環境保全学専攻修了 【学位】平成9年3月博士(学術)愛媛大学 【所属学会】1. 日本環境化学会, 2. 日本環境毒性学会, 3. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 5. Society of Toxicology 【専門分野】環境毒性学【主な研究テーマ】1. 野生生物における毒性影響の感受性を考慮した環境影響評価システムの開発, 2. 内分泌搅乱化学物質に対する種特異的反応・感受性のバイオマーカーの検索

3. 研究プロジェクト



(平成23年度)

3. 1 グローバル COE プログラム

CME を中核とするグローバル COE プログラムが21世紀 COE プログラムに引き続き採択され、平成19年度は454,090千円（内間接経費104,790千円）、平成20年度は454,610千円（内間接経費104,910千円）、平成21年度は422,786千円（内間接経費97,566千円）、22年度は376,403千円（直接経費のみ）が交付された。

愛媛大学のグローバル COE プログラム「化学物質の環境科学教育研究拠点」は、本学沿岸環境科学研究センター（CMES）が長年にわたる活動や21世紀 COE プログラムで整備、育成してきた貴重な教育研究基盤、「若手研究者育成プログラム」、「生物環境試料バンク（es-BANK）」、「アジア環境研究者ネットワーク」、「海外学術交流研究機関ネットワーク」を一層充実させて活用し、化学汚染に関わる環境科学の教育研究拠点、すなわち環境化学の学際化を意図した知の拠点形成を目的とするものである。

平成22年度の事業全体の目標としては、中間評価コメントおよび特記事項を踏まえてより先導的・独創的な拠点形成をめざした。四年次は「若手研究者育成プログラム」、「アジア環境研究者ネットワーク」、「海外学術交流研究機関ネットワーク」、などの教育研究体制、人的資源、国際協力体制の強化に加え、「生物環境試料バンク」の整備と利用を更に充実させることにより研究基盤を戦略的に活用した「環境化学の学際化」を推進し、化学汚染の時空間的実態解明とその動態解析、生体リスク評価に関わる人材育成および知の拠点形成の目標に接近した。すなわち教育活動および研究活動の本質部分の更なる発展と実質化を推進した。三年次から開始した新規の企画を含め各種教育プログラムの発展的な運用、プロジェクト研究による重点的・効果的な研究活動の継続、学術交流協定締結やバンク試料の授受を通じた戦略的国際共同研究の一層の推進、若手研究者（PD+DC）から要請された大型機器の導入やワークショップ・シンポジウム等の教育研究に関わる支援を実効的に進め、ほぼ目標を達成した。

3. 2 科学研究費等

環境動態解析部門

- 1) 郭 新宇（代表）、基盤研究（B）「気候変動が沿岸域の栄養塩動態に及ぼす影響に関する研究」、1,800千円
概要：東シナ海と瀬戸内海をモデル海域とし、数値生態系モデルを構築し、モデル実験より両海域での陸起源栄養塩と外洋起源栄養塩の輸送・循環過程を解明するとともに、陸起源栄養塩と外洋起源栄養塩の長期変化に対する両海域での生態系の応答特性を解明する。
- 2) 吉江 直樹（代表）、若手研究（B）「環境変化に対する沿岸生態系・物質循環の応答機構の解明」、1,500千円
- 3) 吉江 直樹（代表）、新学術領域「縁辺海の大気海洋相互作用が海洋生態系に及ぼす影響の評価」、1,700千円
- 4) 斎藤 光代（代表）、特別研究員奨励費「閉鎖性海域の栄養塩環境に及ぼす被圧地下水流出の影響の包括的解明」、800千円
- 5) 加 三千宣（代表）、基盤研究（B）「数十年スケールのイワシ資源量動態と中世温暖期に資源量低下を招いた機構の解明」、4,300千円
- 6) 加 三千宣（分担）、三井物産環境基金、「別府湾海底コアの解析にもとづく10年スケール気候変動・レジームシフトの歴史的変遷の解明」、1,150千円
- 7) 磯辺 篤彦（代表）、基盤研究（A）「急潮予報システムの構築と生態影響評価への戦略的運用」、6,240千円
- 8) 磯辺 篤彦（計画研究代表）、新学術領域「縁辺海の海洋構造に励起される大気海洋相互作用と海洋生態系への影響」、17,290千円
- 9) 磯辺 篤彦（分担）、基盤研究（A）「高解像度解析・観測・階層モデルによる海洋前線への大気応答と海洋再応答の研究」、680千円

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺 信介 (拠点リーダー), グローバル COE プログラム「化学物質の環境科学教育研究拠点」, 339,404千円
概要: 環境化学の学際化・国際化を意図した教育活動および研究活動を機動的・加速的に推進するため、必要な基盤と組織の拡充、各種教育プログラムの発展的な運用、プロジェクト研究の遂行、広報活動の強化、事業の総括などを遂行した。
- 2) 田辺 信介 (代表), 基盤研究 (S) 「アジア途上地域における POPs 候補物質の汚染実態解明と生態影響評価」, 31,330千円
概要: POPs 候補物質の分析法の開発、臭素化ダイオキシン類の検出、PCBs および PBDEs の水酸化代謝物の検出と起源解析等の研究を展開した。
- 3) 田辺 信介 (代表), 挑戦的萌芽研究「低塩素化水酸化体 PCBs の分析法開発と脳移行に関する予備的研究」, 1,170千円
概要: スナメリの脳から OH-PCBs を検出し、PCB の水酸化代謝物が脳に移行していることを実証した。
- 4) 田辺 信介 (分担), 環境省循環型社会形成推進科学研究費補助金「廃棄物リサイクル制度展開の国際比較と化学物質管理の統合システム解析」, 京都大学, 4,500千円
概要: ベトナムの電子・電気機器廃棄物処理施設および鉛バッテリーリサイクル施設における微量元素汚染の実態と影響について究明した。
- 5) 田辺 信介・高橋 真 (分担), 環境省循環型社会形成推進科学研究費補助金「循環過程を含む製品ライフサイクルにおける BFR のリスクコントロールに関する研究」, 国立環境研究所, 5,000千円
概要: 途上国の e-waste リサイクル処理作業従事者から採取した血液試料を対象に、DR-CALUX 等バイオアッセイによるリスク評価を試みた。
- 6) 岩田 久人 (代表), 基盤研究 (S) 「化学物質による細胞内受容体-異物代謝酵素シグナル伝達系搅乱の感受性支配因子の解明」, 13,900千円
概要: 化学物質による多様な生物の細胞内受容体-異物代謝酵素シグナル伝達系の搅乱を指標として、感受性の種差を規定する分子機構について解説した
- 7) 岩田 久人 (分担), 基盤研究 (S) 「アジア途上地域における POPs 候補物質の汚染実態解明と生態影響評価」, 2,500千円
概要: 野生アザラシの組織から PPAR 遺伝子をクローニングし、*in vitro* レポーター遺伝子アッセイ系を構築した。また、そのアッセイ系を用いて有機フッ素化合物の PPAR 転写活性化能を評価した
- 8) 岩田 久人 (分担), 基盤研究 (B) 「脊椎動物共通 DOP-PCR プライマーを用いた大規模遺伝子発現解析法の開発」, 200千円
概要: 鳥類を対象に DOP-PCR プライマーを用いた大規模遺伝子発現解析をおこない、ダイオキシン類に特異的に反応する遺伝子を探査した
- 9) 仲山 慶 (分担), 基盤研究 (S) 「アジア途上地域における POPs 候補物質の汚染実態解明と生態影響評価」, 1,500千円
概要: ヒラメの遺伝子発現解析を行うためのマイクロアレイプラットフォームを構築し、その有効性を検証するとともに、毒性影響の指標を導き出すための新規のマイクロアレイデータ解析法を確立した
- 10) 高橋 真 (代表), 基盤研究 (B) 「地球環境化学・数理解析手法の統合による残留性有害物質の濃縮挙動とリスク評価」, 4,550千円
概要: 残留性有害物質の汚染実態調査および濃縮挙動の解明およびリスク評価の成果を総括した。
- 11) 高橋 真 (分担), 環境省循環型社会形成推進科学研究費補助金「有機フッ素化合物の最終処分場における環境流出挙動の解明と対策技術に関する研究」, 兵庫県環境研究センター, 1,000千円
概要: ベトナム等の途上国の廃棄物処分場およびリサイクル処理場の水環境試料から有機フッ素化合物を検出した。
- 12) 野見山 桂 (代表), 若手研究 (B) 「有機ハロゲン代謝物による陸棲哺乳動物の汚染実態解明」, 1,560千円
概要: 陸棲哺乳類の血中水酸化有機ハロゲン化合物は、人為起源および天然起源のものが残留していることを明らかにした。
- 13) 板井 啓明 (代表), 若手研究 (A) 「水圏環境の貧酸素化による微量元素の動態変化とその潜在的生態影響の解明」, 3,900千円
概要: 琵琶湖を対象に底泥間隙水中微量元素を分析し、酸化・還元状態下における As と Mn の動態について

解析した。

- 14) 鈴木 賢一（分担），基盤研究（S）「化学物質による細胞内受容体－異物代謝酵素シグナル伝達系攪乱の感受性支配因子の解明」，2,500千円
概要：両生類のシトクロム P450遺伝子およびそのプロモーター領域をクローニングし、その転写制御メカニズムを明らかにした。
- 15) 阿草 哲郎（代表），研究活動スタート支援「ヒ素曝露の健康影響評価とその感受性因子の探索」，1,300千円
概要：環境要因（ヒ素曝露）と遺伝要因（遺伝子多型）の双方を考慮しながらヒ素の健康リスクを評価し、その感受性に寄与する要因（ハイリスクファクター）の同定を試みた。
- 16) 徳永 彩未，基盤研究（C）「ダイオキシンによる自己免疫疾患感受性規定因子の解析」，1,200千円
概要：免疫細胞を対象に、TCDD による自己免疫疾患感受性規定因子の解析を試みた。
- 17) 磯部 友彦（代表），若手研究（B）「海洋魚類生態系におけるハロゲン化・非ハロゲン化難燃剤の生物濃縮特性の解明」，2,990千円
概要：瀬戸内海の魚類生態系構造を窒素・炭素安定同位体分析により明らかにし、ハロゲン化・非ハロゲン化難燃剤の生物濃縮特性を解析した。
- 18) 磯部 友彦（代表），特定型課題形成調査、「インドネシアにおける残留性有機汚染物質（POPs）および有害重金属の環境汚染モニタリングシステム」，2,730千円
概要：環境汚染物質モニタリングシステム構築のためのネットワーク形成を推進した。
- 19) 水川 葉月（代表），特別研究員奨励費「ペット動物における有機ハロゲン代謝物の汚染実態と蓄積特性の解明およびリスク評価」，700千円
概要：ペット動物から有機ハロゲン代謝物を検出し、その蓄積特性を解析した。
- 20) 江口 哲史（代表），特別研究員奨励費「POPs, BFRs, 水酸化代謝物によるアジア途上国の人體汚染とリスク評価」，700千円
概要：アジアの都市ゴミ集積場および電子・電気機器解体現場における作業労働者を対象に、血中水酸化代謝物の残留実態を明らかにするとともにバイオアッセイによるリスク評価を試みた。
- 21) 落合 真理（代表），特別研究員奨励費「鯨類に残留する有機ハロゲン代謝物の蓄積特性と脳移行の実態解明」，700千円
概要：鯨類の血中および脳中水酸化有機ハロゲン化合物は、人為起源および天然起源のものが残留していることを明らかにした。

生態系解析部門

- 1) 鈴木 聰（代表），基盤研究（A）（一般）「複合汚染環境における薬剤耐性遺伝子の消長とヒト病原菌への伝播リスク」，7,700千円
概要：金属、抗生物質などの複合汚染に曝された履歴のある環境における薬剤耐性遺伝子の消長と細菌間遺伝子水平伝播を定量的に解明する。フィリピンの淡水から沿岸にかけてのサルファ剤耐性遺伝子の分布と保有細菌を調べた所、海での培養不可能菌のリザーバとしての働きが初めて解明された。
- 2) 鈴木 聰（分担），基盤研究（A）（海外学術）「アフリカ・アジアの水環境汚染実態と汚染メカニズムの比較解析」，東京農工大学，800千円
概要：ガーナのE-wasteなどの汚染と耐性遺伝子の予備調査試料の分析を行なった。水銀、テトラサイクリン耐性遺伝子が定量された。
- 3) 北村 真一（代表），若手研究（B）「リンホシスチスウイルス感染による宿主細胞の肥大化機構の解明」，2,000千円
概要：リンホシスチスウイルス感染魚の鱗を用いてマイクロアレイ実験を行い、宿主魚類のウイルスに対する応答を明らかにした。
- 4) 濱村 奈津子（代表），最先端・次世代研究開発支援プログラム「複合汚染に対する微生物遺伝子応答の網羅解析による新規毒性影響評価技術の開発」，45,260千円
概要：複合環境サンプルの微生物生態系影響を機能ゲノミクスにより解析を行った。また微生物培養系を用いたDNA付加体解析手法の検討を行った。
- 5) 横川 太一（代表），研究活動スタート支援「海洋表層における有機物分解機構の解明、環境変動に対するその機構の応答解析」，1,200千円

概要：沿岸域における細菌群集生物量および群集組成を解析するために、伊予灘および宇和海周辺域で定期観測を行った。また、観測海域での細菌群集生物量を顕微鏡観察を用いて定量した。

3. 3 共同研究

環境動態解析分野

- 1) 武岡 英隆、瀬戸内海における海生生物の挙動に関する研究、四電技術コンサルタント、577,500円
概要：近年、瀬戸内海や世界各地でクラゲ類の大量発生が頻発し、問題となっている。本研究では、伊方発電所の冷却水の取水時に採取されるクラゲ類の量のデータを解析し、クラゲ大量発生の周期性や気象、海況との関係を解析して、大量発生や移動・集積機構の解明を目指す。
- 2) 武岡 英隆、伊方発電所前面海域における海生生物の挙動に関する研究、四電技術コンサルタント、525千円。
概要：伊方発電所の冷却水の取水時に採取されるクラゲ量の長期的データと海象・気象データを解析した。その結果、この海域のクラゲ出現量の年による違いは佐田岬半島沿いの残差流の経年変動に支配されており、東向きの流れが強いほど多くなることが明らかとなった。

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺 信介（代表）、東日本大震災被災地域における魚介類および底質等の有害化学物質および放射能影響調査、1,500千円
概要：東日本大震災被災地域の魚介類および底質等から PCBs や PBDEs および HBCDs などの残留性有機ハロゲン化合物を検出した。
- 2) 伸山 慶（代表）、アミノレブリン酸の投与がヒラメの生理活性に与える影響の解明、コスモ石油株式会社、1,315千円
概要：アミノレブリン酸の投与による遺伝子発現プロファイルの変化を解析するとともに、病原体に対する抵抗性を評価した。
- 3) 伸山 慶（代表）、「水生生物に対する界面活性剤の毒性発現機序研究」、花王株式会社、1,600千円
概要：界面活性剤の単独および複合暴露に対する生体応答を解析した。

生態系解析分野

- 1) 北村 真一、Meiji Seika ファルマ、2,000千円
概要：魚類感染症の予防に関する研究。
- 2) 北村 真一、コスモ石油株式会社、500千円
概要：魚類感染症の治療に関する研究。
- 3) 北村 真一、物産バイオテック、500千円
概要：魚類感染症の予防・治療に関する研究。
- 4) 金本自由生、伊方原発温排水影響調査、愛媛県、320千円
概要：伊方原子力発電所から排出される温排水が付着生物に及ぼす影響を調べるために、排水口近辺から順次定点を定め、付着生物を調べた。

3. 4 受託研究

環境動態解析分野

- 1) 武岡 英隆、宇和海・瀬戸内海のミズクラゲの発生・集群機構の解明、国立大学法人広島大学、1,500千円
概要：本研究は、農林水産省農林水産技術会議からの委託プロジェクト研究「環境変動に伴う海洋生物大発生の予測・制御技術の開発（平成19～23年度）」の2課題のうち、「クラゲ類の大発生予測・抑制技術の開発（中核機関：広島大学）」の分担課題である。本年度は、宇和海法華津湾でのクラゲ集群長期ビデオモニタリング結果から、この海域のクラゲ発生量の年による違いが2～4月の海水温に支配されていることを明らかにした。
- 2) 武岡 英隆、伊方原子力発電所温排水影響調査、愛媛県、820千円

3. 研究プロジェクト

概要：伊方原子力発電所から排出される冷却用の温排水が付近漁場に与える影響の有無を判断するために、隣接する海域の環境及び漁業の実態を把握することを目的とした現地調査及び漁獲資料の収集を行う。

- 3) 武岡 英隆, マグロ養殖漁場における漁場環境調査研究, 愛媛県, 525千円

概要：近年宇和海においてもマグロ養殖が拡大しつつあり、適正な養殖管理指針を策定する必要がある。このための基礎データとするために、底泥硫化物量、底生生物の種類・量の分析及び評価を行う。

- 4) 磯辺 篤彦(代表), 海ゴミによる化学汚染物質輸送の実態解明とリスク低減に向けた戦略的環境教育の展開, 環境省, 50,357千円

概要：複数海岸に設置したウェブカメラ画像を解析してゴミ漂着量の時系列データに変換し、海流や漂流物のコンピュータ・シミュレーション、さらには海岸漂着ゴミに含有・吸着された化学汚染物質（有害重金属や残留性有機汚染物質[POPs]）の分析調査を行う。これらによって、東アジアにおける、発生源から漂着海岸までの海ゴミ輸送やゴミを介した化学汚染物質輸送のフローマップ、すなわち発生量・移動量・漂着量の分布図を作製する。また、地域住民と地域行政、そしてNPOや研究者が参加するサイエンスカフェにて、研究成果を地域住民と行政に還元するとともに、継続的な海ゴミ調査・清掃活動体制の構築を図る。

- 5) 吉江 直樹, 地球温暖化が水産分野に与える影響評価と適応技術の開発, 独立行政法人水産総合研究センター, 1,362,750円

概要：

- 6) 加 三千宣, (分担課題代表), 環境省環境研究総合推進費、「湖沼生態系のレトロスペクティブ型モニタリング技術の開発」, 7,400千円

概要：本研究は、過去の情報が全くない湖沼でも、生態系変化とその要因についての事後的なモニタリングを可能にするレトロスペクティブモニタリング技術の開発と、辺境地の貧栄養湖沼に対する大気由来リン負荷の影響がどの程度の広がりを持つかを明らかにすることを目的とする。本研究では、北海道本州の6湖沼を対象に、色素やプランクトン遺骸及び動物プランクトン由来のSCEs色素という生物群集変動復元の精度向上が期待される新たなプロキシを用い、過去数百年にわたる動・植物プランクトン群集の動態の復元とその環境要因との関係を解明する。

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺 信介, 生物蓄積性内分泌かく乱候補物質によるわが国の野生生物汚染の実態解明, 日本エヌ・ユー・エス株式会社, 2,000千円

概要：猛禽類に蓄積する有機臭素系難燃剤の汚染実態と蓄積特性を解明した。

- 2) 岩田 久人(分担), 海ごみによる化学汚染物質輸送の実態解明とリスク低減に向けた戦略的環境教育の展開, 環境省, 500千円

概要：鳥類および水棲哺乳類の細胞内受容体および異物代謝酵素遺伝子をクローニングした。さらに、それらクローナーを用いて、in vitro 発現系を構築し、環境汚染物質に対する反応を評価した。

- 3) 仲山 慶(代表), 実環境の複合汚染評価を目的としたトキシコゲノミクス解析法の開発と現場への適用, (環境省 環境研究・技術開発推進費), 1,274千円

概要：トランスクリプトームおよびメタボロームデータを基に、複合的な環境ストレスによる生体影響の評価手法および影響指標の開発を行った。

- 4) 仲山 慶(代表), 医薬品等糖質コルチコイド様物質による環境汚染レベルの把握と生態影響評価, 環境省, 1,500千円

概要：環境水中の天然および合成糖質コルチコイドのモニタリングおよび糖質コルチコイド受容体アゴニスト活性の検出を行った。

3. 5 各種研究助成金（民間・財団等）、奨学寄付金等

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 仲山 慶(代表), モデルケースとしての多環芳香炭化水素の複合毒性影響評価, 一般財団法人化学物質評価研究機構, 883千円

概要：各発生ステージのメダカに対する多環芳香族炭化水素の複合毒性を評価した。

- 2) 阿草 哲郎（代表），途上国の e-waste リサイクル労働者における微量元素曝露とその毒性影響評価，公益財団法人鉄鋼環境基金（鉄鋼業環境保全技術開発研究助成金），1,000千円
概要：東南アジアの e-waste リサイクル施設の労働者の血液・尿の微量元素濃度と酸化ストレスマーカーを測定することにより，労働者の微量元素曝露の実態とその曝露に伴う毒性影響を評価した。

生態系解析分野

- 1) 横川 太一（代表），ニッセイ財団，環境問題研究助成「抗菌性物質が沿岸生態系の腐食食物網に及ぼす影響の評価」，1,000千円

4. 研究成果



(暦年で2011年に出版、掲載されたもの)

4. 1 著 書

環境動態解析部門

- 1) Guo, X. and Zhao, L.: Response of nutrients and primary production over the shelf in the East China Sea to the reduction of oceanic nutrient supply. *Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry*, Vol. 5, Modeling and Analysis of Marine Environmental Problems, Omori, K., Guo, X., Yoshie, N., Fujii, N., Handoh, I. C., Isobe, A. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 19-30.
- 2) Yoshie, N., Guo, X., Fujii, N. and Komorita, T.: Ecosystem and nutrient dynamics in the Seto Inland Sea, Japan. *Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry*, Vol. 5, Modeling and Analysis of Marine Environmental Problems, Omori, K., Guo, X., Yoshie, N., Fujii, N., Handoh, I. C., Isobe, A. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 39-49.
- 3) Fujii, N., Kaneda, S., Magome, S. and Takeoka, H.: Establishing a conceptual design for jellyfish blooms in the Seto Inland Sea. *Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry*, Vol. 5, Modeling and Analysis of Marine Environmental Problems, Omori, K., Guo, X., Yoshie, N., Fujii, N., Handoh, I. C., Isobe, A. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 65-71.
- 4) Shi, R., Guo, X. and Takeoka, H.: Variations seawater temperature and coastal winds from 2003 to 2009 at the Bungo Channel, Japan. *Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry*, Vol. 5, Modeling and Analysis of Marine Environmental Problems, Omori, K., Guo, X., Yoshie, N., Fujii, N., Handoh, I. C., Isobe, A. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 105-115.
- 5) Saito, M., Guo, X., Onodera, S., Shimizu, Y., Kato, Y., Tokumasu, M. and Takeoka, H.: Spatial variation of submarine groundwater discharge (SGD) in the central part of Seto Inland Sea. *Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry*, Vol. 5, Modeling and Analysis of Marine Environmental Problems, Omori, K., Guo, X., Yoshie, N., Fujii, N., Handoh, I. C., Isobe, A. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 117-123.
- 6) Ono, J., Takahashi, D., Guo, X., Takahashi, S. and Takeoka, H.: Process study on numerical simulation for persistent organic pollutants in the East China Sea. *Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry*, Vol. 5, Modeling and Analysis of Marine Environmental Problems, Omori, K., Guo, X., Yoshie, N., Fujii, N., Handoh, I. C., Isobe, A. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 197-204.
- 7) Fujii, N., Kaneda, S., Magome, S. and Takeoka, H.: Establishing a conceptual design for jellyfish blooms in the Seto Inland Sea. *Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry*, Vol. 5, Modeling and Analysis of Marine Environmental Problems, Omori, K., Guo, X., Yoshie, N., Fujii, N., Handoh, I. C., Isobe, A. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 65-71.

化学汚染・毒性解析部門

- 1) O'Hara, T., Kunito, T., Woshner, V. and Tanabe, S.: Select elements and potential adverse effects in cetaceans and pinnipeds. *Environmental Contaminants in Biota Interpreting Tissue Concentrations*, 2nd Edition, Beyer, W. N. and Meador, J. P. (Eds), CRC Press, Boca Raton, FL, USA, 377-406.
- 2) Ono, J., Takahashi, D., Guo, X., Takahashi, S. and Takeoka, H.: Process Study on Numerical Simulation for Persistent Organic Pollutants in the East China Sea. *Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry*, Vol. 5, Modeling and Analysis of Marine Environmental Problems, Omori, K., Guo, X., Yoshie, N., Fujii, N., Handoh, I. C., Isobe, A. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 197-204.
- 3) Ogawa, S., Isobe, T., Ramu, K., Subramanian, An., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Monitoring of contamination

- by non-PBDEs brominated flame retardants in Asian coastal waters using mussels as a bioindicator. Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry, Vol. 5, Modeling and Analysis of Marine Environmental Problems, Omori, K., Guo, X., Yoshie, N., Fujii, N., Handoh, I. C., Isobe, A. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 205-211.
- 4) Ochiai, M., Nomiyama, K., Isobe, T., Matsuishi, T., Yamada, T. K. and Tanabe, S.: Inter-species differences of hydroxylated polychlorinated biphenyls (OH-PCBs) in the blood of small cetaceans. Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry, Vol. 5, Modeling and Analysis of Marine Environmental Problems, Omori, K., Guo, X., Yoshie, N., Fujii, N., Handoh, I. C., Isobe, A. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 213-220.
 - 5) Saito, A., Isobe, T., Matsuishi, T., Yamada, T. K., Tajima, Y. and Tanabe, S.: Accumulation of brominated flame retardants in harbour and Dall's porpoises from Hokkaido. Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry, Vol. 5, Modeling and Analysis of Marine Environmental Problems, Omori, K., Guo, X., Yoshie, N., Fujii, N., Handoh, I. C., Isobe, A. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 221-228.
 - 6) Hashikawa, R., Isobe, T., Yano, S., Kunisue, T., Nakayama, K., Sudo, A., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Contamination by brominated flame retardants (BFRs) in common cormorants from Lake Biwa. Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry, Vol. 5, Modeling and Analysis of Marine Environmental Problems, Omori, K., Guo, X., Yoshie, N., Fujii, N., Handoh, I. C., Isobe, A. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 229-238.
 - 7) Nakashima, E., Isobe, A., Kako, S., Magome, S., Deki, N., Itai, T. and Takahashi, S.: Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry, Vol. 5, Modeling and Analysis of Marine Environmental Problems, Omori, K., Guo, X., Yoshie, N., Fujii, N., Handoh, I. C., Isobe, A. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 271-277.
 - 8) 岩田久人:バイオマーカー. 環境毒性学, 渡邊泉・久野勝治編, 朝倉書店, 東京, 137-147
 - 9) 岩田久人:環境毒性学の未来. 環境毒性学, 渡邊泉・久野勝治編, 朝倉書店, 東京, 242-246

生態系解析部門

- 1) Kitamura, S. I., Chung, H. K., Dobos, P. and Shwed, P. S.: Entomobirnavirus: Tidona, C and Darai, G. (EDT), The Springer Index of Viruses, Ed. 2, Springer-Verlag, NY, USA, p155-158.

4. 2 学協会誌等

環境動態解析部門

原 著

- 1) Zhao, L., and Guo X.: Influence of cross-shelf water transport on nutrients and phytoplankton in the East China Sea: a model study. Ocean Science, 7, 27-43, doi : 10.5194/os-7-27-2011.
- 2) Shi, R., Guo, X., and Takeoka, H.: Influences of tidal fronts on coastal winds over an inland sea. Boundary-Layer Meteorology, 138, 299-319, DOI 10.1007/s10546-010-9555-3.
- 3) Adityawarman, Y., Kaneko, A., Nakano, K., Taniguchi, N., Komai, K., Guo, X. and Gohda, N.: Reciprocal sound transmission experiment of mean current and temperature variations in the central part (Aki-nada) of the Seto Inland Sea, Japan. Journal of Oceanography, 67 (2), 173-182, DOI 10.1007/s10872-011-0016-5.
- 4) Wang, Y., Liu, Z., Gao, H., Ju, L., and Guo X.: Response of salinity distribution around the Yellow River mouth to abrupt changes in river discharge. Continental Shelf Research, 31 (6), 685-694, doi : 10.1016/j.csr.2011.01.005.
- 5) Zhang, P., Zou, L., Yao, X., Guo, X., Gao, H. and Yamaguchi, H.: Transportation fluxes of nutrients in the intertidal area of the Yellow River Delta. Marine Environmental Science, 30 (1), 76-80 (in Chinese with English abstract).
- 6) Zhang, P., Zou, L., Yao, X., Yamaguchi, H., Guo, X. and Gao, H.: Distribution of heterotrophic bacteria in sediments in the southern intertidal area of the Yellow River Delta. Transaction of Oceanology and Limnology, No. 1, 101-108 (in Chinese with English abstract).
- 7) Yuan, Y., Jiang, W. S., Gao, H. W., and Guo, X.: Resuspension and associated horizontal, settling fluxes of sediment in the weakly stratified Laizhou Bay Mouth. Oceanologia et Limnologia Sinica, 42 (1), 1-8 (in Chinese with English abstract).

4. 研究成果

- 8) 郭新宇：東シナ海における外洋起源栄養塩の輸送量と低次生態系への影響. 水環境学会誌. Vol. 34, No. 9, 293-296.
- 9) Amano, A., Kuwae, M., Agusa, T., Omori, K., Takeoka, H., Tanabe, S. and Sugimoto, T.: Spatial distribution and corresponding determining factors of metal concentrations in surface sediments of Beppu Bay, southwest Japan. *Marine Environmental Research*, 71 (4), 247-256.
- 10) Suzuki, K., Kuwata, A., Yoshie, N., Shibata, A., Kawanobe, K. and Saito, H.: Population dynamics of phytoplankton, heterotrophic bacteria, and viruses during the spring bloom in the western subarctic Pacific. *Deep Sea Research I*, 58 (5), 575589.
- 11) 山口一岩・三好慶典・加三千宣・榎木玲美・武岡英隆・多田邦尚：東部瀬戸内海の表層堆積物における生物起源ケイ素の分布と収支：全有機炭素・全窒素・全リンとの比較, 沿岸海洋研究, 49 (1), 69-77.
- 12) 斎藤光代・小野寺真一：流域スケール (数 km²) における地下水水中での硝酸性窒素減衰域の推定—地形および動水勾配との関係に着目してー, 地下水学会誌, 53 (4), 379-390.
- 13) 谷幸則・森田陽光・坂田昌弘・大橋典男・榎木玲美・後藤敏一：湖沼の堆積物コアから読み取る人間活動の影響：佐鳴湖を例にして, 日本海水学会誌, 65 (5), 264-271.
- 14) Sagawa, T., Yokoyama, Y., Ikehara, M., and Kuwae, M.: Vertical thermal structure history in the western subtropical North Pacific since the last glacial maximum, *Geophysical Research Letters*, 38, L00F02, doi:10.1029/2010GL045827.
- 15) Horikawa, K., Martin, E. E., Asahara, Y., and Sagawa, T.: Limits on conservative behaviour of Nd isotopes in seawater assessed from analysis of fish teeth from Pacific core tops, *Earth and Planetary Science Letters*, 310 : 119-130.
- 16) Kako, S., A. Isobe, M. Kubota "High-resolution ASCAT wind vector data set gridded by applying an optimum interpolation method to the global ocean" *Journal of Geophysical Research -Atmospheres*, 116 , D23107, doi : 10.1029/2010JD015484
- 17) Sugimatsu, K., A. Isobe "Favorable conditions for cold water intrusion from the Kuroshio intermediate layer into Osaka Bay" *Journal of Oceanography*, 67 , 149-158
- 18) Nakashima, E., A. Isobe, S. Magome, S. Kako, and N. Deki "Using aerial photography and in-situ measurements to estimate the quantity of macro-litter on beaches" *Marine Pollution Bulletin*, 62 , 762-769
- 19) Kako, S., A. Isobe, S. Magome, H. Hinata, S. Seino, and A. Kozima "Establishment of numerical beach litter hindcast/forecast models : an application to Goto Islands, Japan" *Marine Pollution Bulletin*, 62 , 293-302
- 20) 杉松宏一・磯辺篤彦・馬場崎正博 “湾全域から橋脚スケールまでを対象とする海洋数値モデルの試み” 沿岸海洋研究, 48 , 155-165

総説等

- 21) Hu, J., Pan, J., Guo, X., and Zheng, Q. : A summary of special section : regional environmental oceanography in the South China Sea and its adjacent areas (REO-SCS). *Journal of Oceanography*, 67 (6), 675-676.
- 22) Hu, J., Pan, J., Guo, X., and Zheng, Q.: Introduction to the special section on regional environmental oceanography in the South China Sea and its adjacent areas (REO-SCS). *Journal of Oceanography*, 67 (4), 359-363.
- 23) 斎藤光代・小野寺真一：地下水流动は脱窒過程の制御要因か？－現状と今後の課題ー, 日本国水文科学会誌, 41, 91-101

化学汚染・毒性解析部門

原著

- 1) 高菅卓三：3.4水質各論 3.4.11, 3.4.12 新・公害防止の技術と法規2011 [ダイオキシン類編], 公害防止の技術と法規編集委員会編, (社) 産業環境管理協会, 東京, 313-318.
- 2) 高菅卓三：第3章 試料の前処理, 「現場で役立つダイオキシン類分析の基礎」, 平井昭司監修, 社団法人日本分析化学会編著, オーム社, 東京, 50-96.
- 3) Anan, Y., Ishiwata, K., Suzuki, N., Tanabe, S. and Ogura, Y. : Speciation and identification of low molecular weight selenium compounds in the liver of sea turtles. *Journal of Analytical Atomic Spectrometry*, 26 (1), 80-85.
- 4) Sudaryanto, A., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Assessment of persistent organic pollutants in sediments from Lower Mekong River Basin. *Chemosphere*, 82 (5), 679-686.
- 5) Ilyas, M., Sudaryanto, A., Setiawan, I. E., Riyadi, A. S., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S. :

- Characterization of polychlorinated biphenyls and brominated flame retardants in sediments from riverine and coastal waters of Surabaya, Indonesia. *Marine Pollution Bulletin*, 62 (1), 89-98.
- 6) Eguchi, A., Isobe, T., Ramu, K. and Tanabe, S.: Optimisation of the analytical method for octa-, nona- and deca-brominated diphenyl ethers using gas chromatography-quadrupole mass spectrometry and isotope dilution. *International Journal of Environmental Analytical Chemistry*, 91 (4), 348-356.
 - 7) Amano, A., Kuwae, M., Agusa, T., Omori, K., Takeoka, H., Tanabe, S. and Sugimoto, T.: Spatial distribution and corresponding determining factors of metal concentrations in surface sediments of Beppu Bay, southwest Japan. *Marine Environmental Research*, 71 (4), 247-256.
 - 8) Kim, J. W., Chang, K. H., Isobe, T. and Tanabe, S.: Acute toxicity of benzotriazole ultraviolet stabilizers on freshwater crustacean (*Daphnia pulex*). *The Journal of Toxicological Sciences*, 36 (2), 247-251.
 - 9) Ilyas, M., Sudaryanto, A., Setiawan, I. E., Riyadi, A. S., Isobe, T., Ogawa, S., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Characterization of polychlorinated biphenyls and brominated flame retardants in surface soils from Surabaya, Indonesia. *Chemosphere*, 83 (6), 783-791.
 - 10) Motoyama, M., Nakagawa, S., Tanoue, R., Sato, Y., Nomiyama, K., and Shinohara, R.: Residues of pharmaceutical products in recycled organic manure produced from sewage sludge and solid waste from livestock and relationship to their fermentation level. *Chemosphere*, 84 (4), 432-438.
 - 11) Tashiro, Y., Ogura, G., Kunisue, T. and Tanabe, S.: Persistent organochlorines accumulated in small Asian mongoose (*Herpestes javanicus*) from the Yambaru Area, Okinawa, Japan. *Japanese Journal of Zoo and Wildlife Medicine*, 16 (1), 65-70.
 - 12) Asante, K. A., Adu-Kumi, S., Nakahiro, K., Takahashi, S., Isobe, T., Sudaryanto, A., Devanathan, G., Clarke, E., Ansa-Asare, O. D., Dapaah-Siakwan, S. and Tanabe, S.: Human exposure to PCBs, PBDEs, and HBCDs in Ghana: temporal variation, sources of exposure and estimation of daily intakes by infants. *Environment International*, 37 (5), 921-928.
 - 13) Kim, J. W., Ramaswamy, B. R., Chang, K. H., Isobe, T. and Tanabe, S.: Multiresidue analytical method for the determination of antimicrobials, preservatives, benzotriazole UV stabilizers, flame retardants and plasticizers in fish using ultra high performance liquid chromatography coupled with tandem mass spectrometry. *Journal of Chromatography A*, 1218 (22), 3511-3520.
 - 14) Nakazawa, E., Ikemoto, T., Hokura, A., Terada, Y., Kunito, T., Yamamoto, T., Yamada, T., Rosas, F. C. W., Fillmann, G., Tanabe, S. and Nakai, I.: Silver speciation in liver of marine mammals by synchrotron X-ray absorption fine structure and X-ray fluorescence spectroscopies. *Journal of Environmental Monitoring*, 13 (6), 1678-1686.
 - 15) Takagi, S., Adachi, F., Miyano, K., Koizumi, Y., Tanaka, H., Watanabe, I., Tanabe, S. and Kannan, K.: Fate of perfluorooctanesulfonate and perfluoroctanate in drinking water treatment processes. *Water Research*, 45 (13), 3925-3932.
 - 16) Nakazawa, E., Ikemoto, T., Hokura, A., Terada, Y., Kunito, T., Tanabe, S. and Nakai, I.: The presence of mercury selenide in various tissues of the striped dolphin: evidence from μ -XRF-XRD and XAFS analyses. *Metalomics*, 3 (7), 719-725.
 - 17) Malarvannan, G., Takahashi, S., Isobe, T., Kunisue, T., Sudaryanto, A., Miyagi, T., Nakamura, M., Yasumura, S. and Tanabe, S.: Levels and distribution of polybrominated diphenyl ethers and organochlorine compounds in sea turtles from Japan. *Marine Pollution Bulletin*, 63 (5-12), 172-178.
 - 18) Malarvannan, G., Takahashi, S., Ikemoto, T., Isobe, T., Kunisue, T., Sudaryanto, A., Miyagi, T., Nakamura, M., Yasumura, S. and Tanabe, S.: Contamination status and spatial distribution of organochlorine compounds in fishes from Nansei Islands, Japan. *Marine Pollution Bulletin*, 63 (5-12), 541-547.
 - 19) Isobe, T., Oshiohi, T., Hamada, H., Nakayama, K., Yamada, T. K., Tajima, Y., Amano, M. and Tanabe, S.: Contamination status of POPs and BFRs and relationship with parasitic infection in finless porpoise (*Neophocaena phocaenoides*) from Seto Inland Sea and Omura Bay, Japan. *Marine Pollution Bulletin*, 63 (5-12), 564-571.
 - 20) Nomiyama, K., Eguchi, A., Mizukawa, H., Ochiai, M., Murata, S., Someya, M., Isobe, T., Yamada, T. K. and Tanabe, S.: Anthropogenic and naturally occurring polybrominated phenolic compounds in the blood of cetaceans stranded along Japanese coastal waters. *Environmental Pollution*, 159 (12), 3364-3373.
 - 21) Nomiyama, K., Uchiyama, Y., Horiuchi, S., Eguchi, A., Mizukawa, H., Hirata, S. H., Shinohara, R. and

4. 研究成果

- Tanabe, S.: Organohalogen compounds and their metabolites in the blood of Japanese amberjack (*Seriola quinqueradiata*) and scalloped hammerhead shark (*Sphyrna lewini*) from Japanese coastal waters. *Chemosphere*, 85 (3), 315-321.
- 22) Suzuki, G., Tue, N. M., van der Linden, S. C., Brouwer, A., van der Burg, B., Velzen, M. V., Lamoree, M., Someya, M., Takahashi, S., Isobe, T., Tajima, Y., Yamada, T., Takigami, H. and Tanabe S. : Identification of major dioxin-like compounds and androgen receptor antagonist in acid-treated tissue extracts of high trophic-level animals. *Environmental Science and Technology*. 45 (23), 10203-10211.
- 23) Kim, J. W., Isobe, T., Ramaswamy, B. R., Chang, K. H., Amano, A., Miller, T. M., Siringan, F. P. and Tanabe, S. : Contamination and bioaccumulation of benzotriazole ultraviolet stabilizers in fish from Manila Bay, the Philippines using an ultra-fast liquid chromatographytandem mass spectrometry, *Chemosphere*, 85 (5), 751-758.
- 24) Kim, J. W., Isobe, T., Chang, K. H., Amano, A., Maneja, R. H., Zamora, P. B., Siringan, F. P. and Tanabe, S. : Levels and distribution of organophosphorus flame retardants and plasticizers in fishes from Manila Bay, the Philippines. *Environmental Pollution*, 159 (12), 3653-3659.
- 25) Ramaswamy, B. R., Kim, J. W., Isobe, T., Chang, K. H., Amano, A., Miller, T. W., Siringan, F. P. and Tanabe, S. : Determination of preservative and antimicrobial compounds in fish from Manila Bay, Philippines using ultra high performance liquid chromatography tandem mass spectrometry, and assessment of human dietary exposure. *Journal of Hazardous Materials*, 192 (3), 1739-1745.
- 26) Sankoda, K., Matsuo, H., Ito, M., Nomiyama, K., Arizono, K., Shinohara, R. : Identification of triclosan intermediates produced by oxidative degradation using TiO₂ in pure water and their endocrine disrupting activities. *Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology*, 86 (5), 470-475.
- 27) Desalegn, B., Takasuga, T., Harada, K., Hitomi, T., Fujii, Y., Yang, H-R., Wang, P., Senevirathna, S. and Koizumi, A. : Historical trends in human dietary intakes of endosulfan and toxaphene in China, Korea and Japan. *Chemosphere* 83, 1398-1405.
- 28) Harada, K., Takasuga, T., Hitomi, T., Wang, P., Matsukami, H. and Koizumi, A. : Dietary exposure to short-chain chlorinated paraffins has increased in Beijing, China. *Environmental Science and Technology*, 45 (16), 7019-7027.
- 29) Lee, J. S., Kim, E. Y., Iwabuchi, K. and Iwata, H. : Molecular and functional characterization of aryl hydrocarbon receptor nuclear translocator 1 (ARNT1) and ARNT2 in chicken (*Gallus gallus*). *Comparative Biochemistry and Physiology, Part C*, 153 (3), 269-279.
- 30) Kubota, A., Stegeman, J., Goldstone, J. V., Nelson, D. R., Kim, E. Y., Tanabe, S. and Iwata, H. : Cytochrome P450 CYP2 genes in the common cormorant : Evolutionary relationships with 130 diapsid CYP2 clan sequences and chemical effects on their expression. *Comparative Biochemistry and Physiology, Part C*, 153 (3), 280-289.
- 31) Kim, E. Y., Suda, T., Tanabe, S., Batoev, V. B., Petrov, E. A. and Iwata, H. : Evaluation of relative potencies for in vitro transactivation of the Baikal seal aryl hydrocarbon receptor by dioxin-like compounds. *Environmental Science and Technology*, 45 (4), 1652-1658.
- 32) Ishibashi, H., Kim, E. Y. and Iwata, H. : Transactivation potencies of the Baikal seal (*Pusa sibirica*) peroxisome proliferator-activated receptor α by perfluoroalkyl carboxylates and sulfonates : estimation of PFOA induction equivalency factors. *Environmental Science & Technology*, 45 (7), 3123-3130.
- 33) Kunisue, T., Eguchi, A., Iwata, H., Tanabe, S. and Kannan, K. : Analysis of thyroid hormones in serum of baikal seals and humans by liquid chromatography-tandem mass spectrometry (LC-MS/MS) and immunoassay methods : application of the LC-MS/MS method to wildlife tissues. *Environmental Science & Technology*, 45 (23), 10140-10147.
- 34) Teraoka, H., Ito, S., Ikeda, H., Kubota, A., Elmagd, M. M. A., Kitazawa, T., Kim, E. Y., Iwata, H. and Endoh, D. : Differential display system with vertebrate-common degenerate oligonucleotide primers : uncovering genes responsive to dioxin in avian embryonic liver. *Environmental Science & Technology*, 46 (1), 27-33.
- 35) Thuruthippallil, L. M., Kim, E. Y., Ishibashi, H. and Iwata, H. : *In vitro* transactivation potencies of black-footed albatross (*Phoebastria nigripes*) AHR1 and AHR2 by dioxins to predict CYP1A expression in the wild population. *Environmental Science and Technology*, 46 (1), 525-533.
- 36) Agusa, T., Fujihara, J., Takeshita, H. and Iwata, H.: Individual variations in inorganic arsenic metabolism associated with AS3MT genetic polymorphisms. *International Journal of Molecular Sciences*, 12 (4), 2351-2382.
- 37) Hirakawa, S., Imaeda, D., Nakayama, K., Ueda, M., Kim, E. Y., Kunisue, T., Ogawa, M., Matsuda, T., Matsui, S., Petrov, E. A., Batoev, V. B., Tanabe, S. and Iwata, H. : Integrative assessment of potential

- effects of dioxins and related compounds in wild Baikal seals (*Pusa sibirica*): Application of microarray and biochemical analyses. *Aquatic Toxicology*, 105 (1-2), 89-99.
- 38) Agusa, T., Takagi, K., Miller, T. W., Kubota, R., Anan, Y., Iwata, H. and Tanabe, S.: Intake and excretion of arsenicals in green (*Chelonia mydas*) and hawksbill turtles (*Eretmochelys imbricata*, *icata*). *Environmental Chemistry*, 8 (1), 19-29.
- 39) Hirata, S. H., Hayase, D., Eguchi, A., Itai, T., Nomiyama, K., Isobe, T., Agusa, T., Ishikawa, T., Kumagai, M. and Tanabe, S.: Arsenic and Mn levels in Isaza (*Gymnogobius isaza*) during the mass mortality event in Lake Biwa, Japan. *Environmental Pollution*, 159 (10), 2789-2796.
- 40) Fujisawa, N., Ikenaka, Y., Kim, E. Y., Lee, J. S., Iwata, H. and Ishizuka, M.: Molecular evidence predicts aryl hydrocarbon receptor ligand insensitivity in the peregrine falcon (*Falco peregrinus*). *European Journal of Wildlife Research*, 58 (1), 167-175.
- 41) Nassee, M., Tawaratsumita, T., Oba, Y., Satone, H., Nakayama, K., Shimasaki, Y., Honjo, T. and Oshima, Y.: Induction of tributyltin-binding protein type 2 in Japanese flounder, *Paralichthys olivaceus*, by exposure to tributyltin-d27. *Marine Pollution Bulletin*, 62 (2), 412-414.
- 42) Agusa, T., Yasugi, S., Iida, A., Ikemoto, T., Anan, Y., Kuiken, T., Osterhaus, A. D. M. E., Tanabe, S., and Iwata, H.: Accumulation features of trace elements in mass-stranded harbor seals (*Phoca vitulina*) in the North Sea coast in 2002: The body distribution and association with growth and nutrition status. *Marine Pollution Bulletin*, 62 (5), 963-975.
- 43) Agusa, T., Nomura, K., Kunito, T., Anan, Y., Iwata, H., and Tanabe, S.: Accumulation of trace elements in harp seals (*Phoca groenlandica*) from Pangnirtung in Baffin Island, Canada. *Marine Pollution Bulletin*, 63 (5-12), 489-499.
- 44) Fujihara, J., Soejima, M., Yasuda, T., Koda, Y., Kunito, T., Iwata, H., Tanabe, S. and Takeshita H.: Polymorphic trial in oxidative damage of arsenic exposed Vietnamese. *Toxicology & Applied Pharmacology*, 256 (2), 174-178.
- 45) Tu, N. P. C., Agusa, T., Ha, N. N., Tuyen, B. C., Tanabe, S. and Takeuchi, I.: Stable isotope-guided analysis of biomagnification profiles of arsenic species in a tropical mangrove ecosystem. *Marine Pollution Bulletin*, 63 (5-12), 124-134.
- 46) Irie, K., Kawaguchi, M., Mizuno, K., Song, J. Y., Nakayama, K., Kitamura, S. I. and Murakami, Y.: Effect of heavy oil on the development of the nervous system of floating and sinking teleost eggs. *Marine Pollution Bulletin*, 63 (5-12), 297-302.
- 47) Kawaguchi, M., Song, J. Y., Irie, K., Murakami, Y., Nakayama, K. and Kitamura, S. I.: Disruption of Sema3A expression causes abnormal neural projection in heavy oil exposed Japanese flounder larvae. *Marine Pollution Bulletin*, 63 (5-12), 356-361.
- 48) Song, J. Y., Nakayama, K., Murakami, Y. and Kitamura, S. I.: Heavy oil exposure induces high mortalities in virus carrier Japanese flounder *Paralichthys olivaceus*. *Marine Pollution Bulletin*, 63 (5-12), 362-365.
- 49) Nakayama, K., Sei, N., Handoh, I. C., Shimasaki, Y., Honjo, T. and Oshima, Y.: Effects of polychlorinated biphenyls on liver function and sexual characteristics in Japanese medaka (*Oryzias latipes*). *Marine Pollution Bulletin*, 63 (5-12), 366-369.
- 50) Isobe, T., Oshiohi, T., Hamada, H., Nakayama, K., Yamada, T. K., Tajima, Y., Amano, M. and Tanabe, S.: Contamination status of POPs and BFRs and relationship with parasitic infection in finless porpoises (*Neophocaena phocaenoides*) from Seto Inland Sea and Omura Bay, Japan. *Marine Pollution Bulletin*, 63 (5-12), 564-571.
- 51) Fujihara, J., Hasegawa, M., Kanai, R., Agusa, T., Iwata, H., Tanabe, S., Yasuda, T., Yamaguchi, S. and Takeshita, H.: 8-Hydroxy-2' -deoxyguanosine and arsenic compounds in urine and serum of a 4-year-old child suffering from acute promyelocytic leukemia during treatment with arsenic trioxide. *Forensic Toxicology*, 29 (1), 65-68.
- 52) Nassee, M., Kato-Unoki, Y., Furuta, T., Nakayama, K., Satone, H., Shimasaki, Y., Honjo, T. and Oshima, Y.: Molecular cloning, sequencing, and gene expression analysis of tributyltin-binding protein type 1 in Japanese medaka fish, *Oryzias latipes*. *Zoological Science*, 28 (4), 281-285.

総説等

- 1) 高橋 真・Tue, N. M.・Viet, P. H.・田辺信介：ベトナム E-waste 処理地域における臭素系難燃剤およびダイオキシン類縁化合物の人体汚染と暴露実態, 廃棄物資源循環学会誌, 22 (2), 169-179.
- 2) Tanabe, S. and Subramanian, An.: Great eastern Japan earthquake possible marine environmental contamination by toxic pollutants. *Marine Pollution Bulletin*, 62 (5), 883-884.
- 3) Tanabe, S. and Subramanian, An.: Need for environmental specimen banks in developing countries. *Marine Pollution Bulletin*, 62 (9), 1933-1934.
- 4) 板井啓明：ベンガル平野における天然由来のヒ素による大規模な地下水汚染の発生機構～フィールド・実験的研究の現状と今後の課題, 地球化学, 45 (2), 61-97.

生態系解析部門

原 著

- 1) Takasu, H., Suzuki, S., Reungsang, A. and Viet, P. H.: Fluoroquinolone (FQ) contamination does not correlate with occurrence of FQ-resistant bacteria in aquatic environments of Vietnam and Thailand. *Microbes and Environments*, 26, 135-143.
- 2) Hoa, P. H. P., Managaki, S., Nakada, N., Takada, H., Shimizu, A., Anh, D. H., Viet, P. H. and Suzuki, S.: Antibiotic contamination and antibiotic-resistant bacteria in animal farms, city canal and aquaculture environments of north Vietnam. *Science of the Total Environment*, 409, 2894-2901.
- 3) Wada, S. and Suzuki, S.: Inhibitory effect of zinc on remineralisation of dissolved organic matter in the coastal environment. *Aquatic Microbial Ecology*, 63, 47-59.
- 4) Tamminen, M., Karkman, A., Lohmus, A., Muziasari, W., Takasu, H., Wada, S., Suzuki, S. and Virta, M.: Tetracycline resistance genes persist at aquaculture farms in the absence of selection pressure. *Environmental Science and Technology*, 45, 386-391.
- 5) Jung, S. J., Im, E. Y., Strüder-Kypke, M. C. and Kitamura, S. I.: Small subunit ribosomal RNA and mitochondrial cytochrome c oxidase subunit 1 gene sequences of 21 strains of the parasitic scuticociliate *Miamiensis avidus* (*Ciliophora, Scuticociliatia*). *Parasitology Research*, 108, 1153-1161.
- 6) Kawaguchi, M., Song, J. Y., Irie, K., Murakami, Y., Nakayama, K. and Kitamura, S. I.: Disruption of Sema3A expression causes abnormal neural projection in heavy oil exposed Japanese flounder larvae. *Marine Pollution Bulletin*, 63, 356-361.
- 7) Song, J. Y., Nakayama, K., Murakami, Y. and Kitamura, S. I.: Heavy oil exposure induces high mortalities in virus carrier Japanese flounder *Paralichthys olivaceus*. *Marine Pollution Bulletin*, 63, 362-365.
- 8) Kumagai, A., Suto, A., Ito, H., Tanabe, T., Song, J. Y., Kitamura, S. I., Hirose, E., Kamaishi, T. and Miwa, S.: Soft tunic syndrome in the edible ascidian *Halocynthia roretzi* (Drasche) is caused by a kinetoplastid protist. *Diseases of Aquatic Organisms*, 95, 153-161.
- 9) Nishimoto, S., Akiyama, K., Kakinuma, Y., Kitamura, S. I. and Sugahara, T.: Heavy oil fraction induces the dysplastic sperm in male mouse. *The Journal of Toxicological Sciences*, 36, 487-491.
- 10) Irie, K., Kawaguchi, M., Mizuno, K., Song, J. Y., Nakayama, K., Kitamura, S. I. and Murakami, Y.: Effect of heavy oil on the development of the nervous system of floating and sinking teleost eggs, *Marine Pollution Bulletin*, 63, 297-302.
- 11) Klatt, C. G., Wood, J. M., Rusch, D. B., Bateson, M., Hamamura, N., Heidelberg, J. F., Grossman, A. R., Bhaya, D., Cohan, F. M., Khl, M., Bryant, D. A. and Ward, D. M.: Metagenomic analyses of hot spring microbial mats reveal relationships between community structure and function. *ISME Journal*, 5 (8), 1262-1278.
- 12) Sayavedra-Soto, L. A., Hamamura, N., Liu, C-W., Kimbrel, J. A., Chang, J. H. and Arp, D. J.: The membrane-associated monooxygenase in the butane-oxidizing Gram-positive bacterium *Nocardioides* sp. strain CF8 is a novel member of the AMO/PMO family. *Environmental Microbiology Report*, 3 (3), 390-396.
- 13) De Corte, D., Sintes, E., Yokokawa, T. and Herndl, G. J.: Changes in viral and bacterial communities during the ice-melting season in the coastal Arctic (Kongsfjorden, Ny-Alesund). *Environmental Microbiology*, doi : 10.1111/j.1462-2920.2011.02497. x.

総説等

- 1) 濱村奈津子：微生物とヒ素：耐性、代謝、進化適応，日本微生物生態学会誌，26 (2), 57-63.

4. 3 学内、所内誌等**生態系解析部門**

- 1) Bong, C. W., Obayashi, Y. and Suzuki, S.: Effect of exposure of zinc at low concentration to bacterial production in seawater. *Memoirs of the Faculty of Agriculture*, Ehime University, 56, 41-45.

4. 4 一般誌等**化学汚染・毒性解析部門**

- 1) 田辺信介：東日本大震災で懸念される海の化学汚染，Ship & Ocean Newsletter, 261, 2-3.
- 2) 伸山 慶：合成ステロイド剤の環境影響に対する懸念，ファルマシア，47 (12), 1166-1167.

4. 5 報告書等**化学汚染・毒性解析部門**

- 1) 田辺信介・板井啓明・Ha, N. N.・高橋 真：アジア途上国の電気電子機器廃棄物処理地域における微量元素汚染の実態解明，平成22年度循環型社会形成推進科学技術研究費研究成果報告書「廃棄物リサイクル制度展開の国際比較と化学物質管理の統合システム解析」(K22048)，平成23年3月, 47-65.
- 2) 高橋 真・田辺信介・江口哲史・野見山桂：アジア途上国の廃棄物処理に伴う臭素系難燃剤の汚染実態と暴露リスク評価，平成22年度循環型社会形成推進科学技術研究費研究成果報告書「循環過程を含む製品ライフサイクルにおけるBFRのリスクコントロールに関する研究」(K22057)，平成23年3月, 60-88.
- 3) 渡邊奈保子・山尾理・清水潤子・高橋真：東シナ海における残留性有機汚染物質(POPs)の分布状況について，海洋情報部研究報告第47号，3月，72-82.

4. 6 学会発表等**環境動態解析部門**

- 1) Yoshie, N.: Ecosystem and nutrient dynamics in the western Seto Inland Sea, Japan. International Symposium on the Sustainability and Productivity of Coastal Resources, Nagasaki, January, Abstracts, 28.
- 2) Wang, H., Liu, Z., Gao, H. and Guo, X.: Modelling age and transit time of diluted Liaohe River Water in Liaodong Bay, Bohai (China). 8th IOC/WESTPAC International Scientific Symposium, Busan, Korea, March, Abstracts, 27.
- 3) Shigemitsu, M., Okunishi, T., Nishioka, J., Sumata, H., Hashioka, T., Aita, M., Smith, S., Yoshie, N. and Yamanka, Y.: Development of a one-dimensional ecosystem model including iron cycle. The 43rd International Liege Colloquium on Ocean Dynamics, Liege, Belgium, May, Abstracts, 5.
- 4) Guo, X. and Zhang, J.: Tracer transport modeling on Kuroshio subsurface water intrusion onto the shelf of East China Sea. The 43rd International Liege Colloquium on Ocean Dynamics, Liege, Belgium, May, Abstracts, 135.
- 5) Saito, M., Onodera, S., Guo, X., Onishi, K., Shimizu, Y., Jin, G., Yoshikawa, M. and Tokumasu, M.: Submarine Groundwater Discharge (SGD) and its effect on coastal environment in the central part of Seto Inland Sea, Japan. The 4th Joint Forum of Environmental Sciences 2011, Matsuyama, Japan, June, Abstract Book, 50-51.
- 6) Soeyanto, E., Guo, X., Ono, J. and Miyazawa, Y.: Decadal variability in the sea level and Kuroshio transport in the East China Sea detected by a data assimilation ocean model. The 3rd International Workshop On Modeling the Ocean (IWMO-2011), Qingdao, China, June, Abstracts, 31.

4. 研究成果

- 7) Ono, J. and Guo, X.: Modeling on the dynamics of suspended particulate matter (SPM) in the East China Sea. The 3rd International Workshop on Modeling the Ocean (IWMO-2011), Qingdao, China, June, Abstracts, 34.
- 8) Miyazawa, Y., Miyama, T., Varlamov, S., Guo, X. and Takuji, W.: The Kuroshio variation south of Japan detected by the Ensemble Kalma Filter. The 3rd International Workshop On Modeling the Ocean (IWMO-2011), Qingdao, China, June, Abstracts, 53.
- 9) Guo, X. and Zhao, L.: Transport of oceanic nutrients and its influences on primary production over the shelf in the East China Sea. The XXV IUGG General Assembly 2011, Melbourne, Australia, June, Abstracts, 2244.
- 10) Ono, J., Takahashi, D., Guo, X., Takahashi, S. and Takeoka, H.: Numerical study on the dynamics of persistent organic pollutants from the atmosphere and river in the East China Sea. The XXV IUGG General Assembly 2011, Melbourne, Australia, June, Abstracts, 2562.
- 11) Zhao, L., Guo, X. and Wei, H.: Seasonal variation of chlorophyll a and its mechanism in the Yellow Sea and East China Sea. The XXV IUGG General Assembly 2011, Melbourne, Australia, June, Abstracts, 2619.
- 12) Yoshie, N., Fujii, N., Guo, X., Komorita, T. and Isobe, A.: Phytoplankton response to the intrusion of oceanic warm water in Bungo Channel, Japan. The XXV IUGG General Assembly 2011, Melbourne, Australia, June, Abstracts, 3613.
- 13) Wang, Y., Guo, X., Liu, Z. and Gao, H.: Evolution of plume with abrupt change in river discharge : case study of the Yellow River in China. The XXV IUGG General Assembly 2011, Melbourne, Australia, June, Abstracts, 4876.
- 14) Sagawa, T., Tsuruoka, K., Iijima, K., Sakamoto, T., Murayama, M., Ikebara, M., Okamura, K., Kuwae, M. and Takeoka, H.: Centennial- to Millennial-scale variability in sea surface temperature at the subarctic western North Pacific during the Holocene, XVIII. INQUA Congress, Bern, Switzerland, July, Abstracts, 17-1072.
- 15) Ono, J. and Guo, X.: Numerical simulation of the suspended particulate matter dynamics and its impacts on persistent organic pollutants in the East China Sea. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 42.
- 16) Soeyanto, E., Guo, X., Ono, J. and Miyazawa, Y.: Decadal variability in the sea level and Kuroshio transport in the East China Sea detected by a data assimilation ocean model. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 73.
- 17) Li, Q., Guo, X., Koizumi, Y. and Takeoka, H.: Seasonal and interannual variations of nutrients, temperature and salinity in the Bungo Channel, Japan. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 74.
- 18) Wang, Y., Guo, X., Liu, Z., Gao, H. and Ju, L.: Study on evolution of river plume with abrupt change in river discharge. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 75.
- 19) Saito, M., Onodera, S., Guo, X., Onishi, K., Shimizu, Y., Jin, G., Yoshikawa, M. and Tokumasu, M.: Evaluation of submarine groundwater discharge at the semi-enclosed bay in the central part of the Seto Inland Sea, Japan. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 100.
- 20) Fujii, N. and Takeoka, H.: Surveys of the distribution of *Aurelia medusa* in the surface coastal water. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 101.
- 21) Takeoka, H., Guo, X., Yoshie, N., Fujii, N. and Komorita, T.: Detailed monitoring of nutrient supply through tidal front in Seto Inland Sea, Japan. EMECS9 Global Summit on Coastal Seas, Baltimore, USA, August, Abstract Book, 60.
- 22) Jin, G., Onodera, S., Saito, M., Shimizu, Y., Guo, X., Amano, A. and Sato, T.: Effect of submarine groundwater discharge on Nutrient characteristics in the sediment : a comparative research in Kojima Bay and Hiuchi-Nada, Seto Inland Sea, Japan. LOICZ Open Science Conference 2011, Yantai, China, September, Abstracts, 105.
- 23) Saito, M., Onodera, S., Guo, X., Onishi, K., Yoshikawa, M., Jin, G., Shimizu, Y. and Tokumasu, M.: Observational evaluation of Submarine Groundwater Discharge (SGD) in central part of the Seto Inland Sea, Japan. LOICZ open science conference 2011, Yantai, China, September, Abstracts, 111.

- 24) Zou, L., Yao, X., Du, T., Yamaguchi, H., Guo, X., Zhang, P. and Gao, H. : Production and preservation of organic carbon in the intertidal area of Yellow River Delta. LOICZ Open Science Conference 2011, Yantai, China, September, Abstracts, 132.
- 25) Guo, X., Zhu, X., Wu, Q. and Huang, D. : Downstream nutrient transport by the Kuroshio in the East China Sea and its temporal variations. LOICZ Open Science Conference 2011, Yantai, China, September, Abstracts, 133.
- 26) Liu, Z., Wang, H., Guo, X., Wang, Q. and Gao, H. : Age of freshwater discharged from the Yellow River in the Bohai Sea : a model study. LOICZ Open Science Conference 2011, Yantai, China, September, Abstracts, 204.
- 27) Zou, L., Zhang, P., Yao, X., Guo, X., Gao, H. and Yamaguchi, H. : The distribution and budget of nutrients in the intertidal area of the Yellow River Delta. LOICZ Open Science Conference 2011, Yantai, China, September, Abstracts, 222.
- 28) Li, Q., Guo, X., Koizumi, Y. and Takeoka, H. : Seasonal and interannual variations of nutrients in the Bungo Channel, Japan. LOICZ Open Science Conference 2011, Yantai, China, September, Abstracts, 241.
- 29) Zou, L., Yao, X., Zhang, P., Guo, X., Gao, H. and Yamaguchi, H. : Temporal and spatial variations of Chl a and its implication on the food source to clam in the intertidal area of the Yellow River Estuary. LOICZ Open Science Conference 2011, Yantai, China, September, Abstracts, 260.
- 30) Yoshie, N., Guo, X., Fujii, N. and Komorita, T. : Phytoplankton and nutrient dynamics in the western Seto Inland Sea, Japan based on observation and a modified NEMURO model. PICES-2011 (North Pacific Marine Science Organization), Khabarovsk, Russia, October, Program and Abstracts, 118.
- 31) Guo, X., Zhu, X., Huang, D. and Wu, Q. : Downstream nutrient transport by the Kuroshio in the East China Sea and its temporal variations. The 5th China-Japan-Korea IMBER Symposium and Training, Shanghai, China, November, Abstract Book, 32.
- 32) Moriya, K., Kuwae, M., Yamamoto, M., Kunihiro, T., Onishi, H., Saito, M., Hamaoka, H., Sagawa, T., Shibata, J., Fujii, N., Yoshie, N., Omori, K. and Takeoka, H. : Distributions of crenarchaeal membrane lipids and TEX86 thermometry in the modern enclosed shallow coastal anoxic ocean, AGU Fall meeting 2012, San Francisco, USA, December, Abstracts, PP43B-1810.
- 33) 吉江直樹・郭 新宇：海洋生態系モデルの動物プランクトン再現性向上に向けて、海洋生態系モデルを用いた餌料環境と浮魚類の温暖化影響評価モデルの開発に関する動物プランクトン機能群検討会、横浜、1月、プログラム, 1.
- 34) 佐川拓也・鶴岡賢太朗・村山雅史・岡村 慶・加三千宣・武岡英隆：下北半島沖の完新世における数百～千年スケール海洋表層水温変動、2010年度古海洋シンポジウム、柏、1月、プログラム, 4.
- 35) 吉江直樹：瀬戸内海における外洋水進入に対する沿岸生態系の応答、第9回海洋生態系モデリング研究会、札幌、2月、プログラム, 1.
- 36) Guo, X. : Response of nutrient concentrations and primary production over the shelf in the East China Sea to the changes in oceanic and riverine nutrient input. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会、松山、3月、要旨集, 26.
- 37) 小野 純：東シナ海における残留性有機汚染物質と懸濁粒子のモデリング、平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会、松山、3月、要旨集, 27.
- 38) 吉江直樹：豊後水道における外洋水進入に対する海洋生態系の応答、平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会、松山、3月、要旨集, 28.
- 39) Soeyanto, E. : Interannual variations in the sea level and Kuroshio transport in the East China Sea : reanalysis data from an ocean model. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会、松山、3月、要旨集, 57.
- 40) Li, Q. J. : Seasonal and interannual variations of water temperature, salinity and nutrients in the Bungo Channel. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会、松山、3月、要旨集, 58.
- 41) Wang, Y. C. : Response of a river plume to abrupt change in river discharge : case study of the Bohai Sea and Yellow River. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会、松山、3月、要旨集, 59.
- 42) 小野 純・郭 新宇：東シナ海、黄海、渤海における懸濁粒子の動態シミュレーション、2011年度日本海洋学会春季大会、柏、3月、講演要旨集, 69.
- 43) Shi, R., Guo, X. and Takeoka, H. : Influence of tidal front on surface winds. 2011年度日本海洋学会春季大会、柏、3月、講演要旨集, 93.

- 44) 藤井直紀・泉山佳啓・郭 新宇・小森田智大・吉江直樹・武岡英隆・磯辺篤彦：初夏の豊後水道東岸（宇和海）における水温・塩分変動，2011年度日本海洋学会春季大会，柏，3月，講演要旨集，95.
- 45) 小森田智大・郭 新宇・藤井直紀・吉江直樹・武岡英隆：西部瀬戸内海において海峡部から供給される栄養塩が成層域の生物生産に対して与える影響，2011年度日本海洋学会春季大会，柏，3月，講演要旨集，113.
- 46) 吉江直樹・藤井直紀・郭 新宇・小森田智大・磯辺篤彦：夏季の豊後水道における暖水進入に対する植物プランクトンの応答，2011年度日本海洋学会春季大会，柏，3月，講演要旨集，114.
- 47) 鈴木光次・桑田晃・吉江直樹・柴田晃・川延京子・齋藤宏明：夏春季親潮ブルーム期における植物プランクトン、従属栄養細菌、およびウイルスの動態，2011年度日本海洋学会春季大会，柏，3月，講演要旨集，118.
- 48) Soeyanto, E., Guo, X., Ono, J., Miyazawa, Y.: Decadal variability in the sea level and Kuroshio transport in the East China Sea detected by a data assimilation ocean model. 2011年度日本海洋学会春季大会，柏，3月，講演要旨集，221.
- 49) Li, Q. J., Guo, X., Koizumi, Y., Takeoka, H.: Seasonal and interannual variations of nutrients in the Bungo Channel, Japan. 2011年度日本海洋学会春季大会，柏，3月，講演要旨集，255.
- 50) Wang, Y. C., Liu, Z., Guo, X., Gao, H. W.: Evolution of plume with abrupt change : case study of the Yellow River. 2011年度日本海洋学会春季大会，柏，3月，講演要旨集，256.
- 51) 齋藤光代・小野寺真一・郭 新宇・清水裕太・大西晃輝・徳増 実：瀬戸内海沿岸域における地下水流出の空間分布および季節変化，日本地球惑星科学連合大会，幕張，5月，講演要旨集，A-CG35.
- 52) 佐川拓也・鶴岡賢太朗・村山雅史・加三千宣・武岡英隆：北西太平洋亜寒帯域の完新世表層水温変動，地球惑星科学連合2011年大会，千葉，5月，講演要旨集，APE031-01.
- 53) Guo, X. and Zhao, L.: Response of nutrient concentrations and primary production over the shelf in the East China Sea to the changes in oceanic nutrients, 地球惑星科学連合2011年大会，千葉，5月，講演要旨集，ACG004-14.
- 54) Moriya, K., Kuwae, M., Yamamoto, M., Kunihiro, T., Onishi, H., Saito, M., Hamaoka, H., Sagawa, T., Shibata, J., Fujii, N., Yoshie, N., Omori, K. and Takeoka, H.: Distributions of archaeal membrane lipid and DNA within the modern coastal shallow marine water column. 地球惑星科学連合2011年大会，千葉，5月，講演要旨集，BPO003-14.
- 55) 梶木玲美・加三千宣・谷 幸則・守屋和佳・郭 新宇・國弘忠生・斎藤光代・藤井直樹・武岡英隆：瀬戸内海別府湾の過去100年にわたる植物プランクトン動態：陸域・外洋からの栄養塩供給の影響，日本地球惑星連合2011年大会，千葉，5月，講演要旨集，APE031-07.
- 56) 守屋和佳・加三千宣・山本正伸・國弘忠生・大西秀次郎・斎藤光代・濱岡秀樹・佐川拓也・柴田淳也・藤井直紀・吉江直樹・大森浩二・武岡英隆：現世沿岸海洋の水柱における古細菌の膜脂質、DNA の分布，日本地球惑星連合2011年大会，千葉，5月，講演要旨集，BPO003-14.
- 57) 吉江直樹・藤井直紀・郭 新宇・小森田智大・磯辺篤彦：豊後水道への外洋水流入に伴う植物プランクトンの応答，第10回生態系モデリング研究会，札幌，8月，講演要旨集，12.
- 58) 斎藤光代・小野寺真一・郭 新宇・大西晃輝・清水裕太・金 広哲・吉川昌志・徳増 実：瀬戸内海沿岸域における栄養塩環境の季節変化に及ぼす海底地下水湧出の影響評価，日本陸水学会第76回大会，島根，9月，講演要旨集，2K11.
- 59) Soeyanto, E., Guo, X., Ono, J. and Miyazawa, Y.: Decadal variability in the sea level and Kuroshio transport in the East China Sea detected by a data assimilation ocean model. 2011年度日本海洋学会秋季大会，春日，9月，講演要旨集，42.
- 60) 磯辺篤彦・郭 新宇・武岡英隆：JCOPE2データを利用した急潮予報モデルの構築と精度の支配要因，2011年度日本海洋学会秋季大会，春日，9月，講演要旨集，47.
- 61) 斎藤光代・郭 新宇・小野寺真一・大西晃輝・清水裕太・吉川昌志・金 広哲・徳増 実：燧灘における海底地下水湧出の空間分布および季節変化，2011年度日本海洋学会秋季大会，春日，9月，講演要旨集，108.
- 62) 藤井直紀・郭 新宇・吉江直樹・小森田智大・武岡英隆：宇和海沿岸域における鉛直水温分布とその変動，2011年度日本海洋学会秋季大会，春日，9月，講演要旨集，109.
- 63) 二村 彰・磯辺篤彦・郭 新宇・武岡英隆：豊後水道における急潮と底入り潮の海底設置型 ADCP での観測，2011年度日本海洋学会秋季大会，春日，9月，講演要旨集，110.
- 64) 吉江直樹・藤井直紀・郭 新宇・小森田智大・磯辺篤彦：豊後水道における外洋水侵入に対する低次生態系の応答，2011年度日本海洋学会秋季大会，春日，9月，講演要旨集，111.

- 65) Guo, X., Zhu, X. and Wu, Q.: Downstream nutrient flux of the Kuroshio and its temporal variations in the East China Sea, 2011年度日本海洋学会秋季大会, 春日, 9月, 講演要旨集, 128.
- 66) 小野 純・郭 新宇: 東シナ海における懸濁粒子の季節および潮汐変動に関する数値的研究, 2011年度日本海洋学会秋季大会, 春日, 9月, 講演要旨集, 129.
- 67) 佐川拓也・鶴岡賢太朗・加三千宣・村山雅史・武岡英隆: 完新世における東アジア冬季モンスーン変動, 2011年度日本地球化学会第58回年会, 札幌, 9月, 講演要旨集, 118.
- 68) 斎藤光代・小野寺真一・郭 新宇・大西晃輝・清水裕太・森 康二・吉川昌志・金 広哲・徳増 実・武岡 英隆: 濱戸内海・燧灘海底部からの被圧地下水流出の評価, 日本地下水学会秋季講演会, 広島, 10月, 講演要旨集, 14-15.
- 69) 吉江直樹: 海洋生態系モデル eNEMURO の問題点と改良指針について, 2011年度海洋生態系モデルを用いた餌料環境と浮魚類の温暖化影響評価モデルの開発に関するモデル開発検討会, 柏, 10月, 講演要旨集, 8.
- 70) 小野 純・郭 新宇・高橋 真・清水潤子: 東シナ海における残留性有機汚染物質の輸送モデリング, 第23回海洋調査技術学会研究成果発表会, 東京, 11月, 講演要旨集, 42.
- 71) Guo, X., Zhu, X. and Wu, Q.: Downstream nutrient transport by the Kuroshio in the East China Sea and its temporal variations, 九州大学応用力学研究所共同研究集「里海創生のための沿岸海域の環境保全」, 福岡, 12月, 講演要旨集, 5.
- 72) 藤井直紀・吉江直樹・郭 新宇・小森田智大・武岡英隆: 濱戸内海西部におけるミズクラゲ発生予測の試み～宇和海水温情報システムから, 九州大学応用力学研究所共同研究集会「沿岸海域の物質循環と環境保全」, 福岡, 12月, 講演要旨集, 9.
- 73) 吉江直樹・藤井直紀・奥田悠太・園本拓彬・郭 新宇・小森田智大: 夏季の豊後水道における急潮・底入り潮に伴う低次生態系の応答, 九州大学応用力学研究所共同研究集会「沿岸海域の物質循環と環境保全」, 福岡, 12月, 講演要旨集, 11.
- 74) 小野 純・郭 新宇・田村 仁: 東シナ海における懸濁粒子のモデリング研究, 九州大学応用力学研究所共同研究集会「里海創生のための沿岸海域の環境保全」, 福岡, 12月, 講演要旨集, 12.
- 75) 小森田智大・吉江直樹・藤井直紀・郭 新宇・横川太一・濱岡秀樹・磯辺篤彦: 2011年夏季に豊後水道で観測した急潮と栄養塩動態, 九州大学応用力学研究所共同研究集会「沿岸海域の物質循環と環境保全」, 福岡, 12月, 講演要旨集, 13.
- 76) 斎藤光代・武岡英隆: 閉鎖性海域における陸水の滞留時間に関する研究の現状と今後の課題－特に濱戸内海に着目して－, 陸水物理研究会第33回研究発表会, 東京, 12月, 講演要旨集, 6.
- 77) Kuwae, M., Yamamoto, M., Sugimoto, T., Sagawa, T. and Takeoka, H.: Secular and low-frequency variability in fisheries productivity in the western North Pacific over the past 2700 years. The 2011 AGU Fall Meeting, San Francisco, USA, 9 December 2011.
- 78) 梶木玲美, 占部城太郎, 谷 幸則, 上田 真, 阿草哲郎, 小田寛貴, 王 婉琳, 田辺信介: アジア大陸起源の大気降下物は日本の湖沼へどのような影響を与えてるか?, 日本国際学会第58回全国大会, 札幌, 3月, 講演要旨 D1-05.
- 79) Tsugeki, N. K., Urabe, J., Tani, Y., Ueda, S., Agusa, T., Oda, H., and Tanabe, S.: Does atmospheric dust transported from the Asian continent influence oligotrophic lakes in Japan? American Society of Limnology and Oceanography, San Juan, Puerto Rico, February, Abstracts, GS07P-195.
- 80) 梶木玲美: 琵琶湖の過去100年にわたる動植物プランクトン動態, 滋賀県立大学環境科学セミナー, 彦根, 1月.
- 81) Tsugeki, N. K., Tani Y., Ueda S., Agusa T., Toyoda K., Kuwae M., Oda H., Tanabe S., Urabe J.: Shifts in alpine lakes' ecosystems in Japan driven by increasing Asian dusts, AGU Fall Meeting, San Francisco, USA, December, Abstracts, PP21B-0298.
- 82) Sagawa, T., and Kuwae, M.: Intermediate ventilation change and its relation to the surface environmental change from the last glacial maximum in the western North Pacific, AMS-12, Wellington, New Zealand, March, Abstract, GLO# P114.
- 83) Sagawa, T., Tsuruoka, K., Kuwae, M., Takeoka, H., Murayama, M., and Okamura, K.: Holocene millennial-scale variability in the East Asian winter monsoon deduced from the subarctic western North Pacific SST, 2011 Kochi International symposium on Paleoceanography and Paleoenvironment in East Asia, Nankoku, Japan, March, Abstract, 5.
- 84) Sagawa, T., Kuwae, M., Uchida, M., Ikehara, K., Murayama, M., Okamura, K., and Tada, R.: Millennial-

- scale surface water property change in the Japan Sea during the Marine Isotope Stage 3, 2nd Annual Symposium of IGCP-581, Sapporo, Japan, June, Abstract, S2-4.
- 85) 中島悦子・磯辺篤彦・加古真一郎・馬込伸哉・出来紀子・板井啓明・高橋 真: 長崎県五島列島における漂着ごみ由来の重金属の定量化. 第20回環境化学討論会, 7月
- 86) 中島悦子・磯辺篤彦・加古真一郎・板井啓明: クラスター解析による漂着プラスチックゴミの元素組成に基づく起源国推定手法の確立. 第20回環境化学討論会, 7月
- 87) 吉江直樹・藤井直紀・郭 新宇・小森田智大・磯辺篤彦: 豊後水道への外洋水流入に伴う植物プランクトンの応答. 第10回生態系モデリング研究会, 8月
- 88) 磯辺篤彦: 東アジアの陸棚・沿岸域における大気海洋相互作用の可能性. 2011年度日本海洋学会秋季大会, 9月
- 89) 磯辺篤彦・郭 新宇・武岡英隆: JCOPE2データを利用した急潮予報モデルの構築と精度の支配要因. 2011年度日本海洋学会秋季大会, 9月
- 90) 笠毛健生・磯辺篤彦・見延庄士郎・万田敦昌・中村啓彦・伊藤匡史・緒方香都・西川はづみ・立花善裕・加古真一郎: 東シナ海・黒潮前線を横断する XBT と GPS ランデの同時観測 (2). 2011年度日本海洋学会秋季大会, 9月
- 91) 加古真一郎・磯辺篤彦・宮尾泰幸: バルーンを用いた沿岸域の低高度リモートセンシングと均等色空間を用いた対象物の検出. 2011年度日本海洋学会秋季大会, 9月
- 92) 宮尾泰幸・磯辺篤彦・加古真一郎: 船舶データを用いた瀬戸内海上における気象ヨウ素の高解像度マッピング. 2011年度日本海洋学会秋季大会, 9月
- 93) 久保謙太・磯辺篤彦・加古真一郎・中島悦子: 沿岸海洋に漂流するプラスチック微細片に関する研究. 2011年度日本海洋学会秋季大会, 9月
- 94) 二村 彰・磯辺篤彦・郭 新宇・武岡英隆: 豊後水道における急潮と底入り潮の海底設置型 ADCP での観測. 2011年度日本海洋学会秋季大会, 9月
- 95) 吉江直樹・藤井直紀・郭 新宇・小森田智大・磯辺篤彦: 豊後水道における外洋水侵入に対する低次生態系の応答. 2011年度日本海洋学会秋季大会, 9月
- 96) 中島悦子・磯辺篤彦・加古真一郎・板井啓明・高橋 真: JCOPE2データを利用した急潮予報モデルの構築と精度の支配要因. 2011年度日本海洋学会秋季大会, 9月
- 97) 磯辺篤彦: バルーンやウェブカメラを用いた海ゴミ漂着量の定量化と環境科学への応用. 環境科学会2011年度年会, 9月
- 98) 磯辺篤彦: 冬季温帯低気圧の発達過程における黄海・東シナ海の役割. 日本気象学会2011年度秋季大会, 11月
- 99) 小森田智大・吉江直樹・藤井直紀・郭 新宇・横川太一・濱岡秀樹・磯辺篤彦: 2011年夏季に豊後水道で観測した急潮と栄養塩動態. 九州大学応用力学研究所共同研究集会「沿岸海域の物質循環と環境保全」, 12月
- 100) Nakashima, E., Isobe, A., Kako, S., Magome, S., Deki, N., Itai, T. and Takahashi, S.: Toxic metals derived from plastic litter on a beach, 5th SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) Europe 21st Annual Meeting, (2011, May)
- 101) Nakashima, E., Isobe, A., Kako, S., Magome, S., Deki, N., Itai, T. and Takahashi, S.: Toxic metals derived from plastic litter on a beach. The 4th Joint Forum of Environmental Sciences 2011, (2011, June)
- 102) Isobe, A. and Kako, S.: Numerical forecast of Kuroshio water intrusion onto the shallow coastal waters using an ocean reanalysis dataset. 2011 International Union of Geodesy and Geophysics Assembly, (2011, June)
- 103) Nakashima, E., Isobe, A., Kako, S., Magome, S., Deki, N., Itai, T. and Takahashi, S.: Toxic metals carried by plastic litter on a beach. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, (2011, August)
- 104) Nakashima, E., Isobe, A., Kako, S., Magome, S., Deki, N., Itai, T. and Takahashi, S.: Quantification of toxic metals carried by plastic litter over a beach. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 32nd Annual Meeting, (2011, November)
- 105) Isobe, A.: Ensemble numerical forecast of Kuroshio water intrusion into the shelf and coastal waters south of Japan. The 3rd International Workshop on Modeling the Ocean (IWMO-2011), Qingdao, (2011, June)

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Takahashi, S., Tue, N. M. and Tanabe, S.: Lessons and status of dioxins and emerging POPs in Japan and Asian

- countries including Vietnam. Workshop on Dioxin and Organohalogen Contamination from Agent Orange and Unintentional Production in Vietnam. Ha Long, Vietnam, January, Abstracts, 349-380.
- 2) 高橋 真: 生物環境試料バンクを活用した化学汚染の時空間分布と生物濃縮・代謝動態の解明, 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 4.
 - 3) 野見山桂: 日本沿岸に座礁した鯨類中に残留する水酸化 PBDEs (OH-PBDEs) の蓄積特性, 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 5.
 - 4) 磯部友彦: Brominated flame retardants in small cetaceans from the coast of Hokkaido. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 6.
 - 5) 板井啓明: 貧酸素化に伴う琵琶湖底泥からの急激なマンガン溶出の可能性, 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 7.
 - 6) 平田佐和子: ベトナム鉛バッテリーリサイクル地域住民の暴露実態と健康影響評価, 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 8.
 - 7) Ramaswamy, B. R.: Determination of parabens and antimicrobial compounds from personal care products in fish from Philippines, 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 9.
 - 8) 早瀬大祐: 琵琶湖の固有魚種イサザにおけるマンガンおよびヒ素の体内分布と化学形態, 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 32.
 - 9) 田辺信介: es-BANK のイガイ試料を活用したアジア沿岸域における新規臭素系難燃剤汚染のモニタリング, 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 40.
 - 10) 江口哲史: インド沿岸域住民から検出された血清中水酸化ハロゲン類縁化合物の蓄積特性, 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 44.
 - 11) 三崎健太郎: パーフルオロ化合物 (PFCs) の分析法開発と *in vitro* 系バイオアッセイによる抗アンドロゲン活性評価法の確立, 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 45.
 - 12) 高菅卓三: 短鎖塩素化パラフィン及びエンドスルファンの高精度分析法と環境媒体の汚染状況, 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 46.
 - 13) Kim, J. W.: Contamination and bioaccumulation of benzotriazole UV stabilizers in fishes from Manila Bay, the Philippines using an ultra fast liquid chromatography-tandem mass spectrometry (UFLC-MS/MS). 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 47.
 - 14) 染矢雅之: *In vitro* バイオアッセイ／化学分析統合手法による未同定ダイオキシン類縁化合物の探索—二枚貝を用いたアジア沿岸域の汚染モニタリング, 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 48.
 - 15) Subramanian, An.: Occurrence of and contribution to global contamination of organohalogens and trace elements from India. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 50.
 - 16) Tue, N. M.: Hormone disrupting activities in dust, air and air particles in Vietnamese e-waste recycling sites. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 51.
 - 17) Malarvannan, G.: Polybrominated diphenyl ethers and hexabromocyclododecanes in human breast milk and house dust from the Philippines: implications for human exposure. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 52.
 - 18) Ilyas, M.: Environmental and human contamination by polychlorinated biphenyls and brominated flame retardants in highly industrialized city of Surabaya, Indonesia. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 53.
 - 19) Gnanasekaran, D.: Polychlorinated biphenyls and brominated flame retardants in India with emphasis on human exposure. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 54.
 - 20) Asante, K. A.: Assessment of human Exposure to persistent environmental contaminants in Ghana. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 55.
 - 21) Ha, N. N.: Soil and air particles contamination by trace elements at waste and e-waste recycling in north of Vietnam : implying human health risk. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 56.
 - 22) 田辺信介: POPs による生物汚染の実態, 第28回日本医学会総会, 東京, 4月, 学術講演要旨, 410.
 - 23) Mizukawa, H., Nomiyama, K., Nakatsu, S., Yachimori, S., Hayashi, T. and Tanabe, S.: Organohalogen metabolites in terrestrial mammals: does carnivorous species have potential risk by hydroxylated metabolites? The 4th

4. 研究成果

- Joint Forum of Environmental Sciences 2011, Matsuyama, Japan, June, Abstract Book, 17-18.
- 24) Ochiai, M., Nomiyama, K., Isobe, T., Yamada, T., Tajima, Y., Matsuishi, T., Amano, M. and Tanabe, S.: Organohalogen metabolites in marine mammals : differences in accumulation of natural and anthropogenic hydroxylated metabolites. The 4th Joint Forum of Environmental Sciences 2011, Matsuyama, Japan, June, Abstract Book, 19-20.
 - 25) Itai, T., Hayase, D., Hyobu, Y., Horai, S., Kumagai, M., and Tanabe, S.: Manganese and arsenic exposure to fish in Lake Biwa - importance of simultaneous speciation in biota and surrounding environmental media. The Third International Symposium on Metallomics, Mnster, Germany, June, Abstracts, TGB05.
 - 26) 磯部友彦・斎藤亜実・松石 隆・北村志乃・松田純佳・小林万里・田島木綿子・山田 格・田辺信介：北海道沿岸に漂着・混獲した小型鯨類の化学汚染研究：ネズミイルカ (*Phocoena phocoena*) とイシイルカ (*Phocoenoides dalli*) の有機ハロゲン化合物汚染の実態解明, 日本セトロジー研究会第22回（名古屋）大会, 名古屋市, 6月, 発表要旨集, 13.
 - 27) 落合真理・野見山桂・磯部友彦・山田 格・田島木綿子・松石 隆・天野雅男・田辺信介：ネズミイルカ科の小型鯨類に蓄積する人為・天然起源 OH-PBDEs, 日本セトロジー研究会第22回（名古屋）大会, 名古屋市, 6月, 発表要旨集, 14.
 - 28) 染矢雅之・鈴木 剛・渡部真文・Subramanian, An.・高橋 真・滝上英孝・田辺信介：In vitro バイオアッセイ/化学分析統合手法による未同定ダイオキシン類縁化合物の探索と毒性同定評価 -二枚貝を用いたアジア沿岸域の汚染モニタリング, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 90-91.
 - 29) 大田裕介・上野大介・磯部友彦・田辺信介・Kannan, K.・井上興一・中田晴彦：米国西海岸産イガイを生物指標とした残留性有機汚染物質 (POPs) 汚染の経年変化モニタリング, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 136-137.
 - 30) 武藤 衛・磯部友彦・Ramu, K.・Tue, N. M.・Viet, P. H.・高橋 真・田辺信介：ベトナムのe-waste解体処理地域におけるヒト毛髪の臭素系難燃剤汚染, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 196-197.
 - 31) 濱田宏基・磯部友彦・張 光玄・平田佐和子・高橋 真・田辺信介：臭素系難燃剤による東シナ海の魚介類汚染とその生物濃縮特性, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 204-205.
 - 32) 野見山桂・江口哲史・村田仁子・水川葉月・染矢雅之・磯部友彦・山田 格・田辺信介：鯨類の血中に残する臭素化フェノール類の蓄積特性とその起源, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 206-207.
 - 33) 磯部友彦・斎藤亜実・田口美緒子・北村志乃・松石 隆・田島木綿子・山田 格・田辺信介：北海道沿岸のネズミイルカ (*Phocoena phocoena*) およびイシイルカ (*Phocoenoides dalli*) における有機ハロゲン化合物の汚染実態と経年変動第, 20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 208-209.
 - 34) 後藤哲智・染矢雅之・磯部友彦・高橋 真・田辺信介：東京湾堆積物における臭素化ダイオキシン類の汚染実態と経年変化, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 210-211.
 - 35) 落合真理・野見山桂・磯部友彦・山田 格・田島木綿子・松石 隆・天野雅男・田辺信介：ネズミイルカ科の小型鯨類に残留する人為起源および天然起源ハロゲン化フェノール類の蓄積特性, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 222-223.
 - 36) 金 俊佑・磯部友彦・Malarvannan, G.・Sudaryanto, A.・Chang, K. H.・Prudente, M.・田辺信介：フィリピンのハウスダストにおける有機リン系難燃剤の汚染レベル, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 226-227.
 - 37) 鈴木 剛・Tue, N. M.・Malarvannan, G.・Sudaryanto, A.・高橋 真・田辺信介・酒井伸一・滝上英孝：日本及び諸外国で採取した室内ダストのハザード特性による類型化, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 276-277.
 - 38) 岩田直樹・木邑奈美・岡田 淳・井上 育・高菅卓三：排出ガス中の多環芳香族炭化水素 (PAHs) の測定法開発, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 292-293.
 - 39) 大井悦雅・伊吹 剛・渡邊清彦・高菅卓三・千代丸勝・岡本真一：ガス試料中のN-ニトロソアミン類の分析方法検討, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 294-295.
 - 40) 渡邊 泉・高橋瑛子・田辺信介：1973年から2009年までの日本近海、北太平洋およびインド洋の魚類における微量元素濃度の変化, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 336-337.
 - 41) 板井啓明・早瀬大祐・平田佐和子・田辺信介：吸着実験による琵琶湖固有魚種イサザへのマンガン・ヒ素曝露の検証, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 352-353.
 - 42) 平田佐和子・小森憲治郎・堀内史枝・野口貴子・板井啓明・阿草哲郎・Viet, P. H.・Khanh, L.・高橋 真・

- 田辺信介: ベトナム鉛バッテリーサイクル地域住民の暴露実態と健康影響評価, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 356-357.
- 43) 野口貴子・板井啓明・Tue, N. M.・阿草哲郎・平田佐和子・Trang, P. T. K.・Viet. P. H.・高橋 真・田辺信介: ベトナムバッテリー処理施設における鉛曝露の実態と健康リスク評価, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 358-359.
- 44) 兵部唯香・板井啓明・早瀬大祐・田辺信介: 琵琶湖湖底の貧酸素化がもたらすマンガンとヒ素の動態変化, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 368-369.
- 45) 板井啓明・兵部唯香・早瀬大祐・田辺信介: 琵琶湖底泥のマンガン・ヒ素の経年的上昇とその環境化学的意義, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 370-371.
- 46) Ilyas, M., Sudaryanto, A., Setiawan, I. E., Riyadi, A. S., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Sediment from open landfill as reservoir for PCBs and PBDEs contamination : learning from municipal dumpsite at Benowo, Surabaya City, Indonesia. 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 388-389.
- 47) Devanathan, G., Isobe, T., Subramanian, An., Kajiwara, N., Asante, K. A., Suzuki, G., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Current pollution status of organohalogen compounds in India : with special focus on human exposure. 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 392-393.
- 48) Mizukawa, H., Nomiyama, K., Nakatsu, S., Yachimori, S., Hayashi, T., Tashiro, Y., Yamamoto, M. and Tanabe, S.: Comprehensive studies on halogenated phenolic compounds in blood of terrestrial mammals from Japan. 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 294-295.
- 49) Asante, K. A., Takahashi, S., Itai, T., Isobe, T., Devanathan, G., Dapaah-Siakwan, S., Agyakwah, S. K. and Tanabe, S.: Evaluation of infant and human exposure to organohalogen compounds via breast milk and fish in Ghana. 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 400-401.
- 50) Tue, N. M., Suzuki, G., Isobe, T., Viet, P. H., Zhang, G., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Evaluation of endocrine-disrupting activities in dust and air from e-waste recycling sites in Vietnam using in vitro bioassays. 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 402-403.
- 51) 桂 加奈・Tue, N. M.・鈴木 剛・染矢雅之・Viet, P. H.・高橋 真・田辺信介: ベトナムの廃棄物処理地域におけるダイオキシン様物質のバイオアッセイモニタリング, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 450-451.
- 52) 三崎健太郎・鈴木 剛・染矢雅之・滝上英孝・田島木綿子・山田 格・天野雅男・磯部友彦・高橋 真・田辺信介: 野生高等動物組織抽出物中の抗アンドロゲン活性と有機塩素系農薬, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 478-479.
- 53) 堀内聰子・野見山桂・平田佐和子・田辺信介・篠原亮太: 日本近海で捕獲されたサメ血中に残留する水酸化PCBsの種間比較, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 482-483.
- 54) 嶽盛公昭・苗田千尋・高菅卓三・藤峰慶徳・Terry Grim III: NEW POPs 混合標準溶液のGC-HRMSによる評価及び分析上の注意点, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 484-485.
- 55) 岩田直樹・羽村陽平・井上 豊・高菅卓三: 絶縁油中の微量PCBに関する簡易測定法の分析における課題と改善, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 514-515.
- 56) 能勢和聰・嵯峨俊太郎・松田宗明・上瀧智巳・江口哲史・田辺信介: 血液試料を用いたPBDEs分析に係る相互検定, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 524-525.
- 57) 神原千佳・野見山桂・水川葉月・江口哲史・磯部友彦・山田 格・高橋 真・田辺信介: 日本近海の鰐脚類に残留する血中ハロゲン化フェノール化合物の蓄積特性, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 530-531.
- 58) 磯部友彦・小川翔平・Ramu, K.・田辺信介: 非PBDE臭素化代替難燃剤のアジア地域における汚染モニタリング, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 532-533.
- 59) 山本美幸・磯部友彦・林 光武・谷内森秀二・野見山桂・高橋 真・田辺信介: 有機ハロゲン化合物によるホンドタヌキおよびハクビシンの汚染とその地域比較, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 534-535.
- 60) 小松幸恵・磯部友彦・濱田宏基・平田佐和子・張 光玄・田辺信介: イワシ・カタクチイワシを指標とした臭素系難燃剤汚染のモニタリング, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 536-537.
- 61) 嶽盛公昭・井上 豊・高菅卓三: GC-HRTOFMSによる廃棄物焼却飛灰中の有機ハロゲン化合物の検索, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 560-561.

4. 研究成果

- 62) 松原英理子・苗田千尋・小嶋美紀・松神秀徳・中村明広・八十島誠・高菅卓三・小森行也・南山瑞彦：下水試料中医薬品のGC-MS (LRMS, MS/MS, HRMS)による分析検討, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 617-618.
- 63) 中村明広・松神秀徳・松原英理子・苗田千尋・小嶋美紀・八十島誠・高菅卓三・小森行也・南山瑞彦：下水試料中医薬品（抗生物質製剤, 抗ウイルス剤等）のLC-MS/MSによる分析検討, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 619.620.
- 64) 柳本隼人・中田晴彦・篠原竜一・磯部友彦・田辺信介・能勢眞人・小森浩章・有田典正・上田規史・渡部真文・Jemenez, B.・Yang, J. H.・国末達也・Kannan, K.: 人体脂肪におけるベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤および人工香料汚染の国際比較, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 651-652.
- 65) 杉本里菜・磯部友彦・Malarvannan, G.・Devananthan, G.・Ramaswamy, B. R.・Subramanian, An.・高橋眞・田辺信介：過塩素酸による水環境汚染のモニタリング～花火製造・打上げ時の影響評価～, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 657-658.
- 66) 安田悠佑・平田佐和子・板井啓明・磯部友彦・松石 隆・山田 格・田島木綿子・高橋 真・田辺信介：北日本に分布するネズミイルカ (*Phocoena phocoena*) の微量元素蓄積特性と経年変動, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 852-853.
- 67) 安達春樹・板井啓明・高橋 真・窪寺恒己・治多伸介・田辺信介：山陰沖および北陸沖深海生態系における微量元素の生物濃縮特性, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 854-855.
- 68) 阿草哲郎・滝上英孝・江口哲史・藤森 崇・戸次加奈江・吉田 綾・寺園 淳・Ballesteros Jr., F. C.・高橋 真・田辺信介：フィリピンのe-wasteリサイクル労働者における微量元素汚染, 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 860-861.
- 69) Tue, N. M., Suzuki, G., Isobe, T., Viet, P. H., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Human exposure to brominated flame retardants and dioxin-related compounds in Vietnamese e-waste recycling sites. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 21.
- 70) Galante-Oliveira, S., Sousa, A., Takahashi, S., Tanabe, S., Barroso, C. M.: Impact of TBT pollution on whelks: from molecular to population level. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 32.
- 71) Ochiai, M., Nomiyama, K., Isobe, T., Yamada, T. K., Tajima, Y., Matsuishi, T., Amano, M. and Tanabe, S.: Accumulation of halogenated phenolic compounds in small toothed whales. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 35.
- 72) Ilyas, M., Sudaryanto, A., Setiawan, I. E., Riady, A. S., Isobe, T. and Tanabe, S.: Bioaccumulation pattern of polychlorinated biphenyls in wild fish and human breast milk from coastal areas of highly industrialized city of Surabaya, Indonesia. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 59.
- 73) Sudaryanto, A., Riady, A. S., Ilyas, M., Setiawan, I. E., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Spatial distribution of PCBs in atmosphere of Jakarta and surrounding areas using passive air sampler. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 60.
- 74) Eguchi, A., Nomiyama, K., Devananthan, G., Subramanian, An., Viet, P. H., Parthasarathy, P., Bulbule, K. A., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Distribution of polychlorinated biphenyls (PCBs) and their hydroxylated metabolites in human serum from Asian countries. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 61.
- 75) Kanbara, C., Nomiyama, K., Mizukawa, H., Eguchi, A., Isobe, T., Yamada, T. K., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Accumulation features of halogenated phenolic compounds in the blood of pinnipeds from Japanese coastal waters. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 62.
- 76) Devananthan, G., Isobe, T., Subramanian, An., Asante, K. A., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Present status of contamination by industrial chemicals (PCBs, PBDEs and HBCDs) in India. The 6th Global COE International

- Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 63.
- 77) Adachi, H., Itai, T., Takahashi, S., Kubodera, T., Haruta, S. and Tanabe, S.: Bioaccumulation of trace elements in marine organisms from deep-waters of off-Sannin and off-Hokuriku. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 64.
- 78) Mizukawa, H., Nomiyama, K., Nakatsu, S., Yachimori, S., Hayashi, T., Tashiro, Y., Yamamoto, M. and Tanabe, S.: Accumulation features of organohalogen metabolites in the blood of Japanese terrestrial mammals. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 65.
- 79) Hamada, H., Isobe, T., Chang, K. W., Shibata, J., Sogabe, A., Ohmori, K. and Tanabe, S.: Contamination status and geographical distribution of polybrominated diphenyl ethers, hexabromocyclododecanes and polychlorinated biphenyls in fish from the Seto Inland Sea. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 66.
- 80) Kim, J. W., Isobe, T., Malarvannan, G., Sudaryanto, A., Chang, K. W., Prudente, M. and Tanabe, S.: Benzotriazole UV stabilizers in indoor dust from two towns in the Philippines: implications on human exposure assessment. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 67.
- 81) Nomiyama, K., Uchiyama, Y., Horiuchi, S., Eguchi, A., Mizukawa, H., Hirata, S. H., Shinohara, R. and Tanabe, S.: Organohalogen compounds and their metabolites in the blood of Japanese amberjack (*Seriola quinqueradiata*) and scalloped hammerhead shark (*Sphyrna lewini*) from Japanese coastal waters. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 68.
- 82) Misaki, K., Suzuki, G., Tue, N. M., Someya, M., Takigami, H., Tajima, Y., Yamada, T. K., Amano, M., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Antiandrogenic activities and organohalogen pesticides in tissue extracts of higher trophic wild animals. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 69.
- 83) Riyadi, A. S., Itai, T., Isobe, T., Ilyas, M., Sudaryanto, A., Setiawan, J. E. and Tanabe, S.: Vertical profile of trace elements in marine sediments from Jakarta Bay, Indonesia. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 70.
- 84) Someya, M., Suzuki, G., Watanabe, M., Subramanian, An., Takahashi, S., Takigami, H. and Tanabe, S.: Identification and toxicity evaluation of dioxin related compounds by combined *in vitro* bioassay/chemical analysis: monitoring study for Asian coastal waters using bivalves as bioindicators. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 71.
- 85) Asante, K. A., Takahashi, S., Isobe, T., Devanathan, G., Kumi, S. A., Itai, T. and Tanabe, S.: An overview of organohalogens contamination in Ghana. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 83.
- 86) Muto, M., Isobe, T., Ramu, K., Tue, N. M., Viet, P. H., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Contamination of brominated flame retardants (BFRs) in human hair from e-waste recycling site in Vietnam. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 84.
- 87) Otsuka, M., Itai, T., Asante, K. A., Muto, M. and Tanabe, S.: Process trace element contamination around the e-waste recycling site at Agbogbloshie, Accra city, Ghana. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 85.
- 88) Yamamoto, M., Isobe, T., Hayashi, T., Yachimori, S., Nomiyama, K., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Contamination status and accumulation features of organohalogen compounds in raccoon dog and masked palm civet. The

4. 研究成果

- 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 86.
- 89) Ha, N. N., Agusa, T., Tu, N. P. C., Itai, T., Takahashi, S., Subramanian, An. and Tanabe, S. : Evaluation of human health risk related to soil contamination by trace elements at e-waste recycling sites in Bangalore, India. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 87.
- 90) Hien, P. T., Tue, N. M., Suzuki, G., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Polychlorinated biphenyls and polybrominated diphenyl ethers in sediments of Tam Giang-Cau Hai Lagoon, central Vietnam. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 88.
- 91) Sugimoto, R., Isobe, T., Malarvannan, G., Devanathan, G., Subramanian, An., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Fireworks display and production as a perchlorate emission source. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 89.
- 92) Itai, T., Hayase, D., Hyobu, Y., Kumagai, M. and Tanabe, S. : Manganese and arsenic exposure to a goby fish in Lake Biwa Importance of simultaneous speciation in biota and surrounding environmental media. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 90.
- 93) Noguchi, T., Itai, T., Ha, N. N., Tue, N. M., Agusa, T., Hirata, S., Trang, P. T. K., Viet, P. H., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Human exposure to Pb and Sb in a lead acid battery recycling site in Dong Mai, north Vietnam. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 91.
- 94) Isobe, T., Kim, J. W., Tue, N. M., Misaki, K., Takahashi, S., Viet, P. H. and Tanabe, S. : Determination of perfluoroalkyl compounds in aqueous samples from Vietnam. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 92.
- 95) Hyobu, Y., Itai, T., Hayase, D., Kumagai, M. and Tanabe, S. : Mobilization of manganese and arsenic under hypoxia in the bottom of Lake Biwa. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 93.
- 96) Yasuda, Y., Hirata, S., Itai, T., Isobe, T., Matsuishi, T., Yamada, T. K., Tajima, Y., Takahashi, S. and Tanabe, S. : A comparative study on temporal trends of trace elements in harbor porpoise (*Phocoena phocoena*) from coastal waters of north Japan and other cetaceans in the open sea. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 94.
- 97) Malarvannan, G., Isobe, T., Covaci, A., Takahashi, S., Prudente, M. and Tanabe, S. : Brominated flame retardants in food samples collected from the Philippines. 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2011), Brussels, Belgium, August, Abstract Book, ID 1609.
- 98) Viet, P. H., Tue, N. M., Takahashi, S., Suzuki, G., Isobe, T., Trang, P. T. K. and Tanabe, S. : Human exposure to brominated flame retardants and dioxin-related compounds in Vietnamese e-waste recycling sites. 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2011), Brussels, Belgium, August, Abstract Book, ID 1610.
- 99) Hien, P. T., Tue, N. M., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Measurement of polychlorinated biphenyls and brominated flame retardants in fish collected from Tam Giang-Cau Hai Lagoon, Vietnam. 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2011), Brussels, Belgium, August, Abstract Book, ID 1920.
- 100) Asante, K. A., Takahashi, S., Itai, T., Isobe, T., Devanathan, G., Dapaah-Siakwan, S., Agyakwah, S. K., Tanabe, S. : Assessment of human exposure to PCBs and BFRs through fish consumption in Ghana. 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2011), Brussels, Belgium, August, Abstract Book, ID 1929.
- 101) Takasuga, T., Matsukami, H., Nouda, C., Harada, K, and Koizumi, A. : Analysis of short-chain chlorinated

- paraffins (SCCPS) by GC-HRMS (NCI) with GC-HRTOF-MS applied food sample. 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2011), Brussels, Belgium, August, Abstract Book, ID 2203.
- 102) Devanathan, G., Subramanian, An., Isobe, T., Kajiwara, N., Suzuki, G., Asante, K. A., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Organohalogen contaminants in dust samples from different indoor environments in India : implications on human exposure. 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2011), Brussels, Belgium, August, Abstract Book, ID 2603.
- 103) Nomiyama, K., Uchiyama, Y., Horiuchi, S., Eguchi, A., Hirata-Horai, S., Shinohara, R. and Tanabe, S. : Halogenated phenolic compounds in the blood of Japanese amberjack and scalloped hammerhead shark from Japanese coastal waters. 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2011), Brussels, Belgium, August, Abstract Book, ID 2901.
- 104) Mizukawa, H., Nomiyama, K., Nakatsu, S., Yachimori, S., Hayashi, T., Tashiro, Y. and Tanabe, S. : Organohalogen contaminants and their hydroxylated metabolites in the blood of Japanese terrestrial mammals. 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2011), Brussels, Belgium, August, Abstract Book, ID 2903.
- 105) Ilyas, M., Sudaryanto, A., Setiawan, I. E., Riyadi, A. S., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Polychlorinated biphenyls and polybrominated diphenyl ethers in human breast milk from mothers living in coastal area of Surabaya city, Indonesia. 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2011), Brussels, Belgium, August, Abstract Book, ID 3708.
- 106) Ochiai, M., Nomiyama, K., Isobe, T., Yamada, T. K., Tajima, Y., Matsuishi, T., Amano, M. and Tanabe, S. : Accumulation of anthropogenic and natural origin organohalogen compounds in three porpoise species. 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2011), Brussels, Belgium, August, Abstract Book, ID 3816.
- 107) Isobe, T., Saito, A., Matsuishi, T., Yamada, T. K., Tajima, Y., Tanabe, S.: Contamination status of brominated flame retardants in harbor (*Phocoena phocoena*) and Dall' s (*Phocoenoides dalli*) porpoises from Hokkaido, Japan. 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2011), Brussels, Belgium, August, Abstract Book, ID 3819.
- 108) Takasuga, T., Miyazaki, T., Kuroiwa, T., Iwaki, K., Ohtsuka, K., Funakoshi, K. and Matsumura, T. : Evaluation of interlaboratory study on PCDD, PCDF and dioxin Like PCB in the sediment reference material (8th Round FY 2010 Research Group on Ultra Trace Analyses, JEMCA). 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2011), Brussels, Belgium, August, Abstract Book, ID 4902.
- 109) 磯部友彦・濱田宏基・豊島沙織・田辺信介・張 光弦：臭素系難燃剤の生物濃縮とヒトのリスク評価，第14回日本水環境学会シンポジウム，仙台，9月，講演要旨集，20。
- 110) 金 俊佑・磯部友彦・Govindan Malarvannan・Agus Sudaryanto・Kwang-Hyeon Chang・Maricar Prudente・田辺信介：ベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤によるフィリピンハウスダストの汚染実態と急性毒性評価，第14回日本水環境学会シンポジウム，仙台，9月，講演要旨集，21。
- 111) 田上瑠美・野見山桂・篠原亮太：下水汚泥を主原料とした再生肥料中に残留する医薬品および水耕栽培試験による医薬品の植物への移行，第14回日本水環境学会シンポジウム，仙台，9月，講演要旨集，26。
- 112) Takahashi, S., Tanabe, S., Tue, N. M., Ha, N. N., Noguchi, T. and Viet, P. H. : Status of contamination and risk assessment of toxic substances released from e-waste recycling activities : a case study in Vietnam. International Workshop on 3R and Waste Management 2011, Kita-Kyushu, September, Programs.
- 113) Isobe, T., Ogawa, S. P., Ramu, K. and Tanabe, S.: Geographical distribution of non-PBDE type brominated flame retardants in mussels from Asian coastal waters. 13th EuCheMS International Conference on Chemistry and the Environment, ETH Zurich, Switzerland, September, Abstracts, 172.
- 114) Kim, J. W., Isobe, T., Malarvannan, G., Chang, K. H., Sudaryanto, A., Purudente, M. and Tanabe, S. : Occurrence of organophosphorus compounds in house dust collected from Malate and Payatas in the Philippines and human exposure assessment. 13th EuCheMS International Conference on Chemistry and the Environment, ETH Zurich, Switzerland, September, Abstracts, 178.
- 115) 磯部友彦・斎藤亜実・忍穂井智子・Ramu, K.・松石 隆・田島木綿子・山田 格・天野雅男・田辺信介：生物環境試料バンク (es-BANK) を活用した臭素系難燃剤による鯨類汚染の過去復元，第17回日本野生動物医

- 学会大会, 東京, 10月, 講演要旨集, 71.
- 116) 水川葉月・野見山桂・中津 賞・谷地森秀二・林 光武・田代 豊・磯部友彦・山田 格・田辺信介: 海棲哺乳類の血中に残留するハロゲン化フェノール類の種間比較: 生物環境試料バンク (es-BANK) を活用した野生動物の代謝動態の解明, 第17回日本野生動物医学会大会, 東京, 10月, 講演要旨集, 72.
- 117) 清水潤子・渡邊奈保子・高橋 真・磯部友彦・田辺信介・大塚俊晶・内田圭祐: 現場採水濃縮システムを用いた沖合海水中の残留性有機汚染物質の測定, 第23回海洋調査技術学会研究成果発表会, 東京, 10月, 講演要旨集, 43.
- 118) Subramanian, An. and Tanabe, S.: Contamination by persistent organic pollutants in the Asia-Pacific region. PICES-2011 (North Pacific Marine Science Organization), Khabarovsk, Russia, October, Program and Abstracts, 220.
- 119) Sousa, A. C. A., Pastorinho, R., Taborda-Barata, L., Nogueira, A. J. A., Takahashi, S. and Tanabe, S.: House dust as a source of organotin compounds. International Conference on Occupational and Environmental Health (ICOEH 2011), Porto, Portugal, October, Abstracts Book, 118.
- 120) Sousa, A. C. A., Pastorinho, R., Laranjeiro, F., Takahashi, S., Tanabe, S. and Barroso, C.: Imposex, organotin compounds and metals in *Nassarius reticulatus* collected around S. Jacinto outfall. International Conference on Occupational and Environmental Health (ICOEH 2011), Porto, Portugal, October, Abstracts Book, 124.
- 121) Asante, K. A., Agusa, T., Biney, C. A., Agyekum, W. A., Bello, M., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Trace element contamination in e-waste recycling workers from Accra in Ghana. IX ISTERH (International Society for Trace Element Research in Humans) Conference on Trace Elements in Health and Disease: Essentiality, Toxicity, Belek, Turkey, October, Abstracts, 5.
- 122) Takasuga, T.: Application of GC-HRTOFMS for environmental analysis: A comprehensive screening and identification techniques for trace organohalogen compounds in environmental matrices. 2011 China-Japan-Korea Symposium on Analytical Chemistry, Jeju, Korea, October, Proceedings,
- 123) 小野 純・郭 新宇・高橋 真・清水潤子: 東シナ海における残留性有機汚染物質の輸送モデリング, 第23回研究成果発表会海洋調査技術学会, 東京都, 11月, 講演要旨集, 42.
- 124) 清水潤子・渡邊奈保子・高橋 真・磯部友彦・田辺信介・大塚俊晶・内田圭祐: 現場採水濃縮システムを用いた沖合海水中の残留性有機汚染物質の測定, 第23回研究成果発表会海洋調査技術学会, 東京都, 11月, 講演要旨集, 43.
- 125) Ilyas, M., Sudaryanto, A., Setiawan, I. E., Riady, A. S., Hyun, C. K., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Trophodynamics of polychlorinated biphenyls and polybrominated diphenyl ethers in coastal waters food web from Surabaya City, Indonesia. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 32nd Annual Meeting, Boston, Massachusetts, USA, November, Abstract Book, 27.
- 126) Devanathan, G., Isobe, T., Subramanian, An., Kajiwara, N., Asante, K. A., Suzuki, G., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Legacy and novel brominated flame retardants in indoor dust from India: characteristics and implications. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 32nd Annual Meeting, Boston, Massachusetts, USA, November, Abstract Book, 41.
- 127) Asante, K. A., Takahashi, S., Isobe, T., Itai, T., Ansa Asare, O. D., Adu Kumi, S. and Tanabe, S.: Assessment of human exposure to chlorinated and brominated compounds in Ghana. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 32nd Annual Meeting, Boston, Massachusetts, USA, November, Abstract Book, 85.
- 128) Eguchi, A., Nomiyama, K., Devanathan, G., Viet, P. H., Subramanian, An., Parthasarathy, P., Bulbule, K. A., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Distribution of PCBs and their hydroxylated metabolites in human serum from Asian countries. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 32nd Annual Meeting, Boston, Massachusetts, USA, November, Abstract Book, 105-106.
- 129) Hirata, S. H., Komori, K., Horiuchi, F., Noguchi, T., Itai, T., Takahashi, S., Viet, P. H., Khanh, L. and Tanabe, S.: Human contamination status and health effects of Pb in lead battery-recycle area, Vietnam. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 32nd Annual Meeting, Boston, Massachusetts, USA, November, Abstract Book, 156.
- 130) Isobe, T., Hashikawa, R., Hirata, S. H., Nomiyama, K., Mizukawa, H., Hayashi, T. and Tanabe, S.: Contamination status and accumulation features of brominated flame retardants in raptors from Japan. Society of Envi-

- ronmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 32nd Annual Meeting, Boston, Massachusetts, USA, November, Abstract Book, 176.
- 131) Kim, J., Isobe, T., Chang, K., Sudaryanto, A., Prudente, M. and Tanabe, S.: Occurrence and profiles of benzotriazole UV stabilizers in house dust from the Philippines. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 32nd Annual Meeting, Boston, Massachusetts, USA, November, Abstract Book, 201.
- 132) Tue, N. M., Takahashi, S., Tanabe, S., Suzuki, G. and Kannan, K.: Dioxin-related compounds in New York house dust : chlorinated/brominated dioxins/furans, dioxin-like PCBs and *in vitro* dioxin-like activities. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 32nd Annual Meeting, Boston, Massachusetts, USA, November, Abstract Book, 208.
- 133) Nakata, H., Murata, S., Shinohara, R., Yanagimoto, H., Shikata, N., Watanabe, M., Isobe, T., Tanabe, S., Kunisue, T. and Kannan, K.: Benzotriazole UV stabilizers in the environment. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 32nd Annual Meeting, Boston, Massachusetts, USA, November, Abstract Book, 239.
- 134) Subramanian, An., Devanathan, G., Ha, N., Eguchi, A., Nomiyama, K., Itai, T., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Occurrence and contribution to global contamination by organohalogens and trace elements from India. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 32nd Annual Meeting, Boston, Massachusetts, USA, November, Abstract Book, 242.
- 135) Yanagimoto, H., Nakata, H., Shinohara, R., Isobe, T., Tanabe, S., Nose, N., Komori, H., Arita, N., Ueda, N., Watanabe, M., Jemenez, B., Yang, J., Kunisue, T. and Kannan, K.: Occurrence of benzotriazole UV stabilizers and synthetic musks in human dipose tissues collected from Japan, South Korea, China, Spain, and the USA. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 32nd Annual Meeting, Boston, Massachusetts, USA, November, Abstract Book, 257.
- 136) Otsuka, M., Itai, T., Asante, K. A., Muto, M. and Tanabe, S.: Trace element contamination around the e-waste recycling site at Agbogbloshie, Accra City, Ghana. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 32nd Annual Meeting, Boston, Massachusetts, USA, November, Abstract Book, 290.
- 137) Nomiyama, K., Eguchi, A., Ochiai, M., Isobe, T., Yamada, T. K. and Tanabe, S.: Accumulation features of halogenated phenolic contaminants in the blood of pinnipeds along the Japanese coastal waters. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 32nd Annual Meeting, Boston, Massachusetts, USA, November, Abstract Book, 291.
- 138) Itai, T., Hayase, D., Hyobu, Y., Hirata, S. H., Kumagai, M. and Tanabe, S.: Evaluation of Mn and As exposure of a goby fish (*Gymnogobius isaza*) in the bottom of hypoxic lake analytical and experimental approaches. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 32nd Annual Meeting, Boston, Massachusetts, USA, November, Abstract Book, 331.
- 139) Isobe, T., Ogawa, S. P., Hamada, H. P., Ramu, K., Guillette, L. J. and Tanabe, S.: Contamination status of organochlorine and organobromine pollutants in American alligator (*Alligator mississippiensis*). NASA Workshop 2011 on Biology and Ecotoxicology of the American Alligator, Kennedy Space Center, Florida, USA, November, Program, 7.
- 140) Itai, T., Hirata, S. H., Noguchi, T., Yasuda, Y., Adachi, H., Hyobu, Y., Riyadi, A. S., Guillette, L. J. and Tanabe, S.: Trace element concentrations in American alligator (*Alligator mississippiensis*) collected from Florida part III. NASA Workshop 2011 on Biology and Ecotoxicology of the American Alligator, Kennedy Space Center, Florida, USA, November, Program, 8.
- 141) Nomiyama, K., Kanbara, C., Nagano, Y., Guillette, L. J. and Tanabe, S.: Pilot study of hydroxylated PCBs in the blood of American alligator. NASA Workshop 2011 on Biology and Ecotoxicology of the American Alligator, Kennedy Space Center, Florida, USA, November, Program, 9.
- 142) Takahashi, S., Kannan, K. and Tanabe, S.: POPs and its related compounds in Asia-Pacific Region : legacy and emerging issues. GCOE Seminar on Water and Environment in Asian Mega Cities, Kyoto, Japan, November, Proceedings, 11-20.
- 143) 久田 文・吉永 淳・下平和久・岡井 崇・渡邊清彦・嶽盛公昭・高菅卓三・野田由美子・白川美也子・加藤進昌：妊娠女性の化学物質曝露と甲状腺機能を介した発達影響調査 第二報 妊娠女性の OH-PCBs/PCBs 曝露

4. 研究成果

- と出生児の出生時体格との関連、第14回日本内分泌搅乱化学物質学会、東京、12月、要旨集 PE-4.
- 154) Pham, T. D. : Development of the screening method of environmental chemicals for constitutive androstane receptor using a surface plasmon resonance biosensor. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会、松山市、3月、要旨集、61.
- 155) Agusa, T., Kunito, T., Fujihara, J., Takeshita, H., Minh, T. B., Trang, P. K., Viet, P. H., Tanabe, S. and Iwata, H. : Association of arsenic exposure and genetic polymorphisms with arsenic metabolism in a Vietnamese population. Society of Toxicology 50th Anniversary Annual Meeting and ToxExpoTM, Washington, D. C., USA, March, Program, 423-424.
- 156) Teraoka, H., Ito, S., Ukai, N., Kim, E. Y., Iwata, H., Kitazawa, T., Hiraga, T. and Endoh, D. : 2,3,7,8-tetra chlorodibenzo-p-dioxin responsive transcripts in avian embryonic liver, identified by large-scale differential display system with vertebrate-common degenerate oligonucleotide primers. Society of Toxicology 50th anniversary annual meeting & ToxExpoTM, Washington, D. C., March, Program, 362.
- 157) Iwata, H., Lee, J. S., Kim, E. Y. and Nomaru, K. : Molecular and functional characterization of aryl hydrocarbon receptor repressor (AHRR) from the chicken (*Gallus gallus*). Society of Toxicology 50th anniversary annual meeting & ToxExpoTM, Washington, D. C., March, Program, 75.
- 158) Ishibashi, H., Kim, E. Y. and Iwata, H. : Transactivation potencies of the baikal seal (*Pusa sibirica*) peroxisome proliferator-activated receptor α by perfluoroalkyl carboxylates and sulfonates: estimation of PFOA induction equivalency factors. Pollutant Responses in Marine Organisms, Long Beach, USA, May, Abstract CD, 82.
- 159) Yamaguchi, K., Kim, E. Y., Kubota, A. and Iwata, H. : Functional characterization of *in vitro* expressed CYP1A1, 1A2 and 1B1 from the baikal seal (*Pusa sibirica*). Pollutant Responses in Marine Organisms, Long Beach, USA, May Abstract CD, 182.
- 160) Iida, M., Kim, E. Y., Murakami, Y. and Iwata, H. : Developmental effects of TCDD exposure on the peripheral nervous system in the red seabream (*Pagrus major*). Pollutant Responses in Marine Organisms, Long Beach, USA, May Abstract CD, 199.
- 161) Suzuki, K. T. and Iwata, H. : Transcriptional regulation of CYP1 genes in amphibians, *Xenopus laevis* and *Xenopus tropicalis*. Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO16), Long Beach, USA, May, Abstract CD, 201.
- 162) Thuruthippallil, L. M., Kim, E. Y. and Iwata, H. : Risk assessment of dioxins and related compounds in the black-footed albatross: Application on an *in vitro* approach. Pollutant Responses in Marine Organisms, Long Beach, USA, May, Abstract CD, 244.
- 163) Dau, P. T., Ishibashi, H., Kim, E. Y. and Iwata, H. : Development of the ligand screening method of baikal seal (*Pusa sibirica*) constitutive androstane receptor using a surface plasmon resonance biosensor array system. Pollutant Responses in Marine Organisms, Long Beach, USA, May, Abstract CD, 266.
- 164) Yoo, J., Kim, E. Y. and Iwata, H. : Molecular characterization of cytochrome P450 2A, 2B and 2C from the Baikal seal (*Pusa sibirica*). Pollutant Responses in Marine Organisms, Long Beach, USA, May, Abstract CD, 279.
- 165) Hirano, M., Ishibashi, H., Kim, E. Y., Arizono, K. and Iwata, H. : Effects of environmental chemicals on DNA binding and transactivation of the crustacean ecdysteroid receptor. Pollutant Responses in Marine organisms, Long Beach, USA, May, Abstract CD, 315.
- 166) Song, J. Y., Moeller, A., Selitaj, P., Nakayama, K., Kitamura S. I., Segner, H. and Nakayama-Casanova, A. : Aryl hydrocarbon receptor in immune cells of rainbow trout (*Oncorhynchus mykiss*). Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO16), Long Beach, USA, May, Abstract CD 20.
- 167) Iwata, H., Ishibashi, H. and Kim, E. Y. : Advanced alternative approaches to wildlife testing for toxicological research: A case study of the effects of perfluorochemicals on Baikal seals. The 4th Joint forum of environmental sciences 2011, Matsuyama, Japan, June, Abstract 15.
- 168) Agusa, T., Kunito, T., Tue, N. M., Lan, V. T. M., Fujihara, J., Takeshita, T., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Takahashi, S., Viet, P. H., Tanabe, S. and Iwata, H. : Individual variations in arsenic metabolism in Vietnamese: the association with arsenic exposure and *GSTP1* genetic polymorphisms, 3rd International Symposium Metallomics 2011, Munster, Germany, June, Scientific Program, FBH01.
- 169) Nakayama, K., Uno, S., Kokushi, E., Shintoyo, A., Yamamoto, M., Koyama, J., Murakami, Y. and Kitamura, S. I. : Toxicity assessment of polycyclic aromatic hydrocarbon mixtures in Japanese medaka (*Oryzias*

- latipes*) based on transcriptomic data. 15th International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA15), Hong Kong, China, July, Programme & Abstracts, O-24.
- 170) Uno, S., Nakayama, K., Kokushi, E., Shintoyo, A., Yamamoto, M., Murakami, Y., Kitamura, S. I. and Koyama, J.: Toxicity assessment of polycyclic aromatic hydrocarbon mixtures in Japanese medaka (*Oryzias latipes*) based on metabolomic analyses. 15th International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA15), Hong Kong, China, July, Programme & Abstracts, O-25.
- 171) Murakami, Y., Sugahara, Y., Kawaguchi, M., Handoh, I. C., Kitamura, S. I. and Nakayama, K.: Effects of heavy oil and polycyclic aromatic hydrocarbons on the developing pufferfish nervous system. 15th International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA15), Hong Kong, China, July, Programme & Abstracts, O-104.
- 172) Akizuki, M., Nakayama, K., Song, J. Y. and Kitamura, S. I.: Dual stressor of nodavirus infection and tributyltin exposure leads to high mortality in medaka *Oryzias latipes* larvae. 15th International Symposium on Toxicity Assessment (ISTA15), Hong Kong, China, July, Programme & Abstracts, P-18.
- 173) Hirano, M., Ishibashi, H., Kim, E. Y., Arizono, K. and Iwata, H.: *In vitro* and *in silico* analyses of the interaction of the mysid ecdysteroid receptor and environmental chemicals. Global COE Program, International symposium on advanced studies by young scientists on environmental pollution and ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 31.
- 174) Yamaguchi, K., Kim, E. Y., Kubota, A. and Iwata, H.: Catalytic function of *in vitro* expressed Baikal Seal CYP1A1, 1A2 and 1B1. Global COE Program, International symposium on advanced studies by young scientists on environmental pollution and ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 79.
- 175) Yoo, J., Kim, E. Y. and Iwata, H.: Molecular characterization and *in silico* analysis of cytochrome P450 2A, 2B, and 2C from the Baikal Seal (*Pusa sibirica*). Global COE Program, International symposium on advanced studies by young scientists on environmental pollution and ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 80.
- 176) Suzuki, T. K. and Iwata, H.: Transcriptional regulation of CYP1A genes in amphibians, *xenopus laevis* and *xenopus tropicalis*, Global COE Program, International symposium on advanced studies by young scientists on environmental pollution and ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 81.
- 177) Thuruthippallil, L. M., Kim, E. Y. and Iwata, H.: Potencies of CYP1A transactivation of cormorant AHR1 and AHR2 by dioxins and related compounds, Global COE Program, International symposium on advanced studies by young scientists on environmental pollution and ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 82.
- 178) Iida, M., Kim, E. Y., Murakami, Y., Shima, Y. and Iwata, H.: TCDD exposure affects the peripheral nervous system in developing red seabreams (*Pagrus major*), Global COE Program, International symposium on advanced studies by young scientists on environmental pollution and ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 102.
- 179) Dau, P. T., Ishibashi, H., Kim, E. Y. and Iwata, H.: Quantitative analysis of the interaction of mammalian CARs with potential chemicals. Global COE Program, International symposium on advanced studies by young scientists on environmental pollution and ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 103.
- 180) Agusa, T., Kunito, T., Inoue, S., Kubota, R., Ramu, K., Minh, T. B., Tue, N. M., Ha, N. N., Tu, N. P. C., Fujihara, J., Charaboty, P., Chamnan, C., Trang, P. T. K., Reungsang, A., Srisuk, K., Nakamura, S., Takizawa, S., Takeshita, H., Takahashi, S., Subramanian, A., Tuyen, B. C., Viet, P. H., Tana, T. S., Tanabe, S. and Iwata, H.: Exposure, metabolism, and toxic effect of arsenic in residents from arsenic-contaminated groundwater areas of southeast asia. Global COE Program, International symposium on advanced studies by young scientists on environmental pollution and ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 104.
- 181) Uno, S., Nakayama, K., Nino, T., Kokushi, E. and Koyama, J.: Metabolomics approach to evaluate effects of environmental contaminants in fish. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 29.
- 182) Kawaguchi, M., Sugahara, Y., Watanabe, T., Irie, K., Kitamura, S. I., Nakayama, K., Handoh, I. C. and Murakami, Y.: Effect of heavy oil exposure during embryogenesis of the teleost nervous system and behavior. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 36.
- 183) Iwata, H. and Kim, E. Y.: *In vitro* approaches for assessing the risk of toxic contaminants in wildlife. 4th International

4. 研究成果

- conference on environmental health science, Incheon, Korea, October, Abstracts, S31.
- 184) Agusa, T., Kunito, T., Tue, N. M., Lan, V. T. M., Fujihara, J., Takeshita, H., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Takahashi, S., Viet, P. H., Tanabe, S., Iwata, H. : Metabolism of As in residents from the areas with As-contaminated groundwater, Vietnam : effects of As exposure levels and genetic polymorphisms. IX International Society of Trace Element Research in Humans (ISTERH). Antalya, Turkey, 16-21 October 2011, Abstracts in "Journal of Trace Elements in Medicine and Biology", Abstracts, 4.
- 185) Agusa, T., Takigami, H., Eguchi, A., Fujimori, T., Bekki, K., Yoshida, A., Terazono, A., Ballesteros Jr, F. C., Takahashi, S., Iwata, H., Tanabe, S. : Human exposure to trace elements from e-waste recycling sites in the Philippines. The Life Cycle of Metals : Improving Health, Environment and Human Security. Tokyo, Japan, 31 October 2 November 2011, Abstracts, 8.
- 186) Agusa, T., Ikemoto, T., Kunito, T., Yasugi, S., Tanabe, S., Iwata, H. : Metalomics of wildlife : an approach to understand the mechanism of mercury detoxification. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) North America 32nd Annual Meeting, Boston, Massachusetts, USA, 13-17 November 2011, Abstract Book, 157.
- 187) Uno, S., Nakayama, K., Kitamura, S. I., Murakami, Y., Kokushi, E., Shintoyo, A., Ito, K. and Koyama, J. : Toxicity evaluations for individual and mixed exposures of phenanthrene and pyrene in medaka (*Oryzias latipes*) alevin with metabolomics and transcriptomics. 2011 International Conference on Environmental OMICS, Guangzhou, China, November, Program & Abstracts, 96.
- 188) Nakayama, K., Uno, S., Kokushi, E., Koyama, J., Handoh, I. C. and Kitamura, S. I. : Transcriptomic and metabolomic changes caused by the effects of single and combined environmental stressors. 2011 International Conference on Environmental OMICS, Guangzhou, China, November, Program & Abstracts, 102.
- 189) Iwata, H. : Hydrophobic ligand receptors and cytochrome P450s in animals : Biomarkers of chemical exposure, effects and sensitivity. BK21 Seminar, Kyung Hee University, Seoul, Korea, December, Abstract なし
- 190) Suzuki, K. and Iwata, H. : Transcriptional regulation of CYP1A genes in amphibians. BK21 Seminar, Kyung Hee University, Seoul, Korea, December, Abstract なし
- 191) Agusa, T., Kunito, T., Lan, V. T. M., Fujiwara, J., Takeshita, H., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Takahashi, S., Viet, P. H., Tanabe, S. and Iwata, H. : Genetic susceptibility of arsenic metabolism. BK21 Seminar, Kyung Hee University, Seoul, Korea, December, Abstract なし
- 192) 阿草哲郎・岩田久人・國頭 恭・藤原純子・Minh, T. B.・Trang, P. T. K.・Viet, P. H.・竹下治男・田辺信介 : ベトナム人におけるヒ素代謝能の個人差：ヒ素曝露レベルと代謝遺伝子多型の影響. 第16回ヒ素シンポジウム, 旭川市, 2月, 講演要旨集, 48.
- 193) 岩田久人 : プロジェクト研究「口頭生物を対象とした化学物質による影響のバイオアッセイ系の開発と種特異性の評価」:概要と成果. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 10.
- 194) 石橋弘志 : バイカルアザラシ PPAR α の転写活性化能に及ぼす有機フッ素化合物および臭素系難燃剤の影響. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 11.
- 195) 鈴木賢一 : 無尾両生類における芳香族炭化水素受容体によるCYP1A遺伝子の転写制御に関する研究. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 12.
- 196) 平野将司 : 甲殻類エクジソン受容体のDNA結合および転写活性化能に対する環境科学物質の影響. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 16.
- 197) 飯田 緑 : マダイ胚におけるTCDD曝露による抹消神経系への影響. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 17.
- 198) Thuruthippallil, L. M. : CYP1A transactivation potencies of cormorant AHR1 and AHR2 by dioxin and related compounds. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 18.
- 199) 徳永彩未 : TCDDによる組換え近交系マウスの免疫系への影響：自己免疫疾患の感受性規定因子の解析. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 19.
- 200) 三浦良彰 : TCDDによる組み換え近交系マウスのA h R-CYP1a1シグナル伝達系への影響：ダイオキシン類感受性規定要因の解析. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 20.
- 201) 仲山 慶 : 遺伝子発現解析によるPAHsの複合毒性影響評価. 平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 37.

- 202) 阿草哲郎・國頭 恭・Tue, N. M., Lan, V. T. M., Minh, T. B., Trang, P. T. K., 高橋 真・Viet, P. H., 田辺信介・岩田久人: ベトナム人におけるヒ素代謝能力と AS3MT 遺伝子発現量の関係. 第22回日本微量元素学会, 京都, 7月, プログラム・抄録集, 126.
- 203) 阿草哲郎・國頭 恭・Tue, N. M., Lan, V. T. M., Minh, T. B., Trang, P. T. K., 高橋 真・Viet, P. H., 田辺信介・岩田久人: ベトナム人におけるヒ素代謝能力と AS3MT 遺伝子発現量の関係. 第20回環境化学討論会, 熊本, 7月, 講演要旨集 C D, 2D-6.
- 204) 藤森 崇・滝上英孝・阿草哲郎・江口哲史・戸次加奈江・吉田 綾・寺園 淳・Ballesteros, Jr. F. C.・高橋 真・田辺信介: ベトナム鉛バッテリーサイクル地域住民の暴露実態と健康影響評価. 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 342-343.
- 205) 阿草哲郎・國頭 恭・Tue, N. M.・Lan, V. T. M.・Minh, T. B.・Trang, P. T. K.・高橋 真・Viet, P. H.・田辺信介・岩田久人: ベトナム人におけるヒ素曝露量と代謝遺伝子発現量の関係. 第20回環境化学討論会, 熊本市, 7月, 講演要旨集, 360-361.
- 206) 岩田久人: 野生生物のシトクロム P450と環境汚染物質. 第84回日本生化学会大会, 京都, 9月, 講演要旨集 CD, 4S3a-5.
- 207) 尾浪淳史・香西晶子・矢吹昌子・宋 準榮・仲山 慶・北村真一: 海洋細菌が魚類体表粘液中にマイクロフローラを形成できるのはなぜか?. 平成23年度日本水産学会秋季大会, 長崎, 9月, 講演要旨集, 48.
- 208) 菅原由貴・渡部友恵・川口将史・北村真一・仲山 慶・半藤逸樹・村上安則: 重油とその構成物質暴露による硬骨魚類の初期発生と行動への影響. 第17回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会, 鹿児島, 9月, 講演要旨集, 1-2.
- 209) 半藤逸樹・仲山 慶・北村真一・宋 準榮・河合 徹: ベイズ不確実性解析で環境リスクを解く? : 環境動態予測と複合ストレスの実験の事例研究. 第17回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会, 鹿児島, 9月, 講演要旨集, 34-35.
- 210) 仲山 慶・宇野誠一・國師恵美子・新豊 葵・小山次朗・村上安則・北村真一: 多環芳香族炭化水素の単独・複合暴露に対する生体応答の解析. 第17回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会, 鹿児島, 9月, 講演要旨集, 49-50.
- 211) 宇野誠一・仲山 慶・北村真一・國師恵美子・新豊 葵・小山次朗: PAH 類に暴露したヒメダカ稚魚のメタボロームとトランスクリプトームの変動の比較. 第17回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会, 鹿児島, 9月, 講演要旨集, 51-52.
- 212) 仲山 慶・宇野誠一・半藤逸樹・北村真一: 複合的な環境要因に対する生体応答の検出と影響の評価. フォーラム2011: 衛生薬学・環境トキシコロジー, フォーラム III 「フィールドを Molecular Toxicology 手法で測る~環境汚染物質の生体・生態影響~」, 金沢, 10月, 講演要旨集, 102.
- 213) 阿草哲郎・滝上英孝・江口哲史・藤森 崇・戸次加奈江・吉田 綾・寺園 淳・Florencio C. Ballesteros Jr.・高橋 真・岩田久人・田辺信介: フィリピンの e-waste リサイクル労働者における微量元素曝露の実態. 第22回廃棄物資源循環学会研究発表会, 東京都文京区, 11月, 研究発表会講演論文集, 539-540.
- 214) 阿草哲郎・小森浩章・曾我美子・能勢眞人・森 士朗・久保田領志・田辺信介・岩田久人: 組換え近交系マウスを用いたヒ素代謝感受性規定因子の探索. 第17回ヒ素シンポジウム, つくば, 11月, 講演要旨集, 68-70.
- 215) Hirano, M., Ishibashi, H., Kim E. Y., Arizono, K. and Iwata, H.: *In vitro* and *in silico* analyses of the interaction of environmental chemicals with mysid ecdysteroid receptor. 環境ホルモン学会(日本内分泌搅乱化学物質学会)第14回研究発表会, 東京, 12月, 要旨集, 46.
- 216) Pham, T. D., Ishibashi, H., Kim, E. Y., Iwata, H.: Measurement of direct binding of constitutive androstane receptor with persistent organic pollutants using a surface plasmon resonance array system. 環境ホルモン学会(日本内分泌搅乱化学物質学会)第14回研究発表会, 東京, 12月, 要旨集, 47.
- 217) Ishibashi, H., Kim, E. Y. and Iwata, H.: Direct binding affinities of perfluoroalkyl carboxylates and sulfonates to the Baikal Seal and human peroxisome proliferator-activated receptor α . 環境ホルモン学会(日本内分泌搅乱化学物質学会)第14回研究発表会、東京, 12月, 要旨集, 48.
- 218) Iwata, H., Suda, T., Yamaguchi, K. and Kim, E. Y.: Molecular and functional characterization of Baikal seal AHR-CYP1 signaling pathway. 環境ホルモン学会(日本内分泌搅乱化学物質学会)第14回研究発表会、東京, 12月, 要旨集, 49.
- 219) 飯田 緑・金 恩英・村上安則・島 康洋・岩田久人: TCDD によるマダイ胚の抹消神経系への影響. 環境

- ホルモン学会（日本内分泌攪乱化学物質学会）第14回研究発表会，東京，12月，要旨集，59.
- 220) Yoo, J., Hirano, M., Kim, E. Y. and Iwata, H.: In silico docking simulation of PCBs with the Baikal seal (*Pusa sibirica*) CYP2A, 2B, and 2C. 環境ホルモン学会（日本内分泌攪乱化学物質学会）第14回研究発表会，東京，12月，要旨集，93.
- 221) Thuruthippallil, L. M., Kim, E. Y. and Iwata, H.: Transactivation potencies of common cormorant (*Phalacrocorax carbo*) aryl hydrocarbon receptor 1 and 2 isoforms by dioxins and related compounds. 環境ホルモン学会（日本内分泌攪乱化学物質学会）第14回研究発表会，東京，12月，要旨集，94.
- 222) Bak, S. M., Iida, M., Iwata, H. and Kim, E. Y.: Functional characterization of red seabream Ah1/2 isoforms : comparison of transactivation potencies by dioxins. 環境ホルモン学会（日本内分泌攪乱化学物質学会）第14回研究発表会，東京，12月，要旨集，96.
- 223) Suzuki, K. and Iwata, H.: Differential regulation of paralogous CYP1A6 and 1A7 genes in response to an ary hydrocarbon receptor agonist, 6-formylindolo [3,2-b] carbazole, in *Xenopus laevis*. 環境ホルモン学会（日本内分泌攪乱化学物質学会）第14回研究発表会，東京，12月，要旨集，107.
- 224) 三浦良彰・渡辺倫夫・鈴木賢一・Cho, S. E.・金 恩英・宮崎龍彦・能勢眞人・岩田久人：組み換え近交系マウスにおけるダイオキシン感受性の系統差：AhR 非依存的規定因子の探索. 環境ホルモン学会（日本内分泌攪乱化学物質学会）第14回研究発表会，東京，12月，要旨集，116.
- 225) 清水沙千子・鈴木賢一・金 恩英・岩田久人：バイカルアザラシ (*Pusa sibirica*) のエストロゲン受容体 (ER α ・ER β) の分子的特性と機能解析. 環境ホルモン学会（日本内分泌攪乱化学物質学会）第14回研究発表会，東京，12月，要旨集，127.

生態系解析部門

- 1) 鈴木 聰：魚介類養殖環境における薬剤耐性菌，第46回緑膿菌感染症研究会，東京，2月，抄録集31（シンポジウム招待講演）
- 2) Shinomiya, H., Suzuki, S., Murase, M. and Asano, Y.: Multilocus sequence typing of *P. aeruginosa* clinical and environmental isolates. 第85回日本細菌学会総会，長崎，3月，日本細菌学雑誌，67 (1), 94
- 3) 大林由美子・鈴木 聰：0.2 m 濾過海水中の細菌の高い増殖活性と，海水中“溶存態”プロテアーゼの起源のなぞ. 第27回日本微生物生態学会大会，京都，10月，要旨集65.
- 4) Kawahara, K., Hachiya, K., Nonaka, L., Suzuki, S. and Shinomiya, H. : Chemical characterization of lipopolysaccharides of *Pseudomonas aeruginosa* isolated from clinical and aquatic environments. International Union of Microbiological Societies 2011 Congress, Sapporo, September, Abstract P-BA20-60.
- 5) Suzuki, S., Miller, T. W., Ogo, M., Shimizu, A., Takada, H. and Stringan, M. A. : Antibiotic and drug-resistant bacterial contamination in aquatic environments around Metro-Manila, The Philippines, following catastrophic flooding by typhoon Ketsana (Ondoy). International Union of Microbiological Societies 2011 Congress, Sapporo, September, Abstract P-BA25-18.
- 6) Shinomiya, H., Suzuki, S., Nonaka, L., Kogure, K. and Asano, Y.: Pathogenic characterization of *P. aeruginosa* strains isolated from hospital patients and various aquatic environments : river, coastal areas and the ocean. International Union of Microbiological Societies 2011 Congress, Sapporo, September, Abstract P-BA29-3.
- 7) Kawaguchi, M., Sugahara, Y., Watanabe, T., Irie, K., Kitamura, S. I., Nakayama, K., Handoh, I. C. and Murakami Y.: Effect of heavy oil exposure during embryogenesis of the teleost nervous system and behavior. International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract , 36.
- 8) 菅原由貴，渡部友恵，川口将史，北村真一，仲山 慶，半藤逸樹，村上安則：重油とその構成物質暴露による硬骨魚類の初期発生と行動への影響. 第17回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会，2011年9月，鹿児島，講演要旨集，1-2.
- 9) 半藤逸樹，仲山 慶，北村真一，宋 準榮，河合 徹：ベイス不確実性解析で環境リスクを解く？：環境動態予測と複合ストレスの実験の事例研究. 第17回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会，2011年9月，鹿児島，講演要旨集，34-35.
- 10) 仲山 慶，宇野誠一，國師恵美子，新豊 葵，小山次朗，村上安則，北村真一：多環芳香族炭化水素の単独複合暴露に対する生体応答の解析. 第17回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会，2011年

9月，鹿児島，講演要旨集，49-50

- 11) 宇野誠一，仲山 慶，北村真一，國師恵美子，新豊 葵，小山次朗：PAH 類に暴露したヒメダカ稚魚のメタボロームとトランスクリプトームの変動の比較. 第17回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会, 2011年9月, 鹿児島, 講演要旨集, 51-52.
- 12) 野澤昭乃・北村真一・広瀬裕一・熊谷 明：被囊軟化症マボヤから分離した病原鞭毛虫の形態学的・分子系統学的解析. 平成23年度年度日本水産学会秋季大会, 2011年9月, 長崎, 講演要旨集, 355
- 13) 尾浪淳史，香西晶子，矢吹昌子，宋 準榮，仲山 慶，北村真一：海洋細菌が魚類体表粘液中にマイクロフローラを形成できるのはなぜか？平成23年度日本水産学会秋季大会, 2011年9月, 長崎, 講演要旨集, 357
- 14) 仲山 慶，宇野誠一，半藤逸樹，北村真一：複合的な環境要因に対する生体応答の検出と影響の評価, フォーラム2011：衛生薬学・環境トキシコロジー, フォーラム III「フィールドを Molecular Toxicology 手法で測る～環境汚染物質の生体・生態影響～」2011年, 10月, 金沢, 講演要旨集, 102.
- 15) Nakayama, K., Uno, S., Kokushi, E., Koyama, J., Handoh, I. C. and Kitamura, S. I.: Transcriptomic and metabolomic changes caused by the effects of single and combined environmental stressors. 2011 International Conference on Environmental OMICS, Guangzhou, China, November, Program & Abstracts, 102.
- 16) Uno, S., Nakayama, K., Kitamura, S. I., Murakami, Y., Kokushi, E., Shintoyo, A., Ito, K. and Koyama J.: Toxicity evaluations for individual and mixed exposures of phenanthrene and pyrene in medaka (*Oryzias latipes*) alevin with metabolomics and transcriptomics. 2011 International Conference on Environmental OMICS, Guangzhou, China November, program & Abstracts, 96.
- 17) Hamamura, N.: Functional analysis of microbial communities associated with arsenic cycling in the environment. The 4th Joint Forum of Environmental Sciences 2011, Matsuyama, Japan, June, Abstract Book, 46-47.
- 18) Hamamura, N.: Functional analysis of microbial communities associated with arsenic cycling in the environment. The 6th Global COE International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology, Matsuyama, Japan, August, Abstract Book, 25.
- 19) Hamamura, N., Itai, T., Damdinsuren, N., Reysenbach, A-L. and Inskeep, W. P.: Microbial arsenic transformation associated with soda lake in Khovsgol, Mongolia. Goldschmidt 2011, Prague, Czech Republic, August, Mineralogical Magazine, 968.
- 20) Kanaly, R. A., Kunihiro, M. and Hamamura, N.: Effects of potential oxidative damage on bacterial populations caused by fullerene exposure. International Union of Microbiological Societies 2011 Congress: XIII International Congress of Bacteriology and Applied Microbiology, Sapporo, Japan, September, Abstract Book, 206.
- 21) 濱村奈津子・板井啓明・奥田修二郎・Reysenbach, A-L.: モンゴル炭酸塩湖のヒ素代謝に関する微生物群集の機能ゲノミクス解析, 日本微生物生態学会第27回大会, 筑波, 11月, 講演要旨集, 127.
- 22) 濱村奈津子・奥田修二郎：ヒ素含有塩湖における微生物ヒ素代謝及び遺伝子発現応答の網羅的解析, 第6回日本ゲノム微生物学会年会, 東京, 3月, 講演要旨集, 53.
- 23) 濱村奈津子：複合汚染環境における微生物生態学：汚染物質代謝・耐性機構の機能ゲノミクス解析, 愛媛微生物学ネットワークシンポジウム, 松山市, 11月, 要旨集, 9-10.
- 24) De Corte, D., Sintes, E., Yokokawa, T., Reinthal, T. and Herndl, G. J.: Links between viral and prokaryotic abundance and production throughout the water column along a latitudinal transect in the North Atlantic. The 12th Symposium on Aquatic Microbial Ecology, Rostock, Germany, August, Abstract, 176.
- 25) Yokokawa, T., Olbrich, K., Sintes, E., De Corte, D. and Herndl, G. J.: Heterotrophic activity of archaea and bacteria throughout water column of the eastern Atlantic. The 12th Symposium on Aquatic Microbial Ecology, Rostock, Germany, August, Abstract, 140.
- 26) Lekunberri, I., Sintes, E., Yokokawa, T. and Herndl, G. J.: Contribution of major prokaryotic groups in the Romanche fracture zone of the tropical Atlantic. The 12th Symposium on Aquatic Microbial Ecology, Rostock, Germany, August, Abstract, 139.
- 27) Baltar, F., Aristegui, J., Gasol, J. M., Yokokawa, T., and Herndl, G. J.: Bacterial versus archaeal origin of extracellular enzymatic activity in the northeast Atlantic deep waters. The 12th Symposium on Aquatic Microbial Ecology, Rostock, Germany, August, Abstract, 54.
- 28) 横川太一 De Corte D, Sintes E, Olbrich K, Herndl GJ: 東部北大西洋の中深層における古細菌の従属栄養活性分布, 日本微生物生態学会第27回大会, 2011年10月, 京都, 要旨48.

4. 研究成果

- 29) 横川太一: 細菌が支える海洋炭素循環, 日本地球惑星科学連合2011年大会, 2011年5月, 千葉, 要旨 MIS023-P01.
- 30) 横川太一 Olbrich K, Sintes E, Herndl GJ : 古細菌の従属栄養活性: 東部大西洋におけるその鉛直分布, 2011年度日本海洋学会春季大会, 2011年3月, 千葉, 要旨329.
- 31) 横川太一: 沿岸生態系における細菌の構造と機能, 愛媛微生物学ネットワークシンポジウム, 2011年4月, 松山.

5. 学会及び社会における活動



(平成23年度)

5. 1 併任・委員会委員等

環境動態解析部門

武岡 英隆

- 1) 中央環境審議会臨時委員、環境省
- 2) 重要海域抽出検討会委員、(財)自然環境研究センター(環境省委託)
- 3) 特別研究員審査委員会専門委員、国際事業委員会書面審査委員、日本学術振興会
- 4) 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム、環境・エネルギー分野【環境領域】国内領域別評価会サブグループ外部有識者、(独)科学技術振興機構
- 5) 研究成果最適展開支援事業専門委員、(独)科学技術振興機構
- 6) 愛媛海区漁業調整委員会委員、愛媛県
- 7) 愛媛県環境審議会委員、愛媛県
- 8) 愛媛県環境創造センター客員研究員、愛媛県
- 9) 伊方原子力発電所環境安全管理委員会委員、愛媛県
- 10) 愛媛県環境影響評価審査会委員、愛媛県
- 11) 愛媛県海岸漂着物対策推進協議会委員長、愛媛県

磯辺 篤彦

- 1) 水産庁委託事業「沿岸海域の栄養塩管理技術の開発」検討委員

郭 新宇

- 1) 招聘主任研究員、独立行政法人海洋研究開発機構地球環境変動領域
- 2) 客員研究員、国家海洋局第二海洋研究所(中国)

化学・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 日本学術会議連携会員、日本学術会議
- 2) 客員教授、中国・南京大学環境学院
- 3) 客員研究員、独立行政法人国立環境研究所
- 4) 科学技術・学術審議会専門委員(学術分科会)、文部科学省
- 5) 科学技術動向研究センター専門調査員、文部科学省
- 6) 特別研究員等審査会専門委員、独立行政法人日本学術振興会
- 7) 国際事業委員会国際企画委員会委員、独立行政法人日本学術振興会
- 8) 国際科学技術協力推進委員、独立行政法人日本科学技術振興機構
- 9) IOC協力推進委員会海洋環境・生物圏国内専門部会委員、独立行政法人海洋研究開発機構
- 10) 中央環境審議会環境保健部会化学物質審査小委員会委員、環境省
- 11) 環境研究企画委員会第2研究分科会委員、環境省
- 12) 新規 POPs 等研究会委員、環境省
- 13) POPs 条約有効性評価国内検討委員会委員、環境省
- 14) 非意図的生成 POPs に係わる BAT 及び BET 検討会委員、環境省
- 15) 臭素系ダイオキシン類の排出源情報の収集・整理に関する調査業務の検討会委員、環境省
- 16) 臭素化ダイオキシンの人への健康影響調査に関する検討会委員、環境省

- 17) 「海洋環境保全調査」に係る海洋環境モニタリング調査検討会検討員, 環境省
- 18) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討会委員, 環境省
- 19) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会大阪事業部会委員, 環境省
- 20) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会北九州事業部会委員, 環境省
- 21) 微量 PCBs 混入廃電気機器等処理実証試験検討委員会委員, 環境省
- 22) PCB 廃棄物適正処理に関する検討委員会, 環境省
- 23) EXTEND2010野生生物の生物学的知見研究検討部会検討員, 環境省
- 24) 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業専門評価委員, 社団法人農林水産技術情報協会
- 25) 愛媛県環境審議会委員, 愛媛県
- 26) 愛媛県環境審議会化学物質環境保全部会部会長, 愛媛県
- 27) 愛媛県新長期計画策定会議委員, 愛媛県
- 28) 愛媛県環境創造センター客員研究員, 愛媛県
- 29) 愛媛県衛生環境評価専門部会委員, 愛媛県
- 30) 愛媛県廃棄物処理センター理事, 愛媛県
- 31) 西条市環境審議会委員長, 愛媛県西条市
- 32) 四国中央市水道局第三者委託受託者評価委員, 四国中央市
- 33) 日本しろあり対策協会四国支部支部長, 社団法人日本しろあり対策協会
- 34) 日本しろあり対策協会理事, 社団法人日本しろあり対策協会
- 35) 日本しろあり対策協会仕様書委員会委員, 社団法人日本しろあり対策協会
- 36) 教育特別研究推進費に係わる学外審査委員, 静岡県立大学
- 37) External Assessor for Appointments to the Post of Associate Professor/Professor in the Faculty of Applied Science and Technology, Universiti Putra Malaysia
- 38) External Assessor for Promotion to Professorship, City University of Hong Kong
- 39) External Reviewer for Ocean Park Projects in Hong Kong
- 40) External Referee for University Grants Committee in Hong Kong

岩田 久人

- 1) 化学物質の内分泌かく乱作用に関する報告の信頼性評価作業班検討員, 環境省

高菅 卓三

- 1) 環境省 黄砂問題検討会 黄砂実態解明調査解析ワーキンググループ委員
- 2) 極微量物質研究会技術顧問, (社) 日本環境測定分析協会
- 3) 環境省 環境調査研修所 ダイオキシン類排ガスコース(中級)講師
- 4) 平成21年度工業用水・工場排水中のPFOS/PFOA測定方法の工業標準化委員会委員
- 5) 試験所審査員, (財) 日本適合性認定協会
- 6) MLAP技術アドバイザー, (独) 製品評価技術基盤機構(NITE)認定センター
- 7) 環境組成標準物質開発委員会委員, 日本分析化学会
- 8) ダイオキシン分析技術セミナー委員及び講師, 日本分析化学会

高橋 真

- 1) 客員研究員, 独立行政法人国立環境研究所
- 2) 非意図的生成 POPs に係る BAT 及び BEP 検討会委員, 環境省
- 3) 愛媛県廃棄物処理施設設置審査委員, 愛媛県

生態系解析部門

鈴木 聰

- 1) 書面審査専門評価委員, 社団法人農林水産技術情報協会

北村 真一

- 1) Researcher : Food and Agriculture Organization of the united nations (FAO : 国際連合食糧農業機関)

金本自由生

- 1) 磯魚資源増大のための漁場整備手法開発検討委員会, 全国豊かな海づくり推進協会

5. 2 学協会委員等

環境動態解析部門

武岡 英隆

- 1) 評議員, 日本海洋学会
- 2) 会長, 日本海洋学会沿岸海洋研究会
- 3) 理事, 濑戸内海研究会議

磯辺 篤彦

- 1) 評議員, 日本海洋学会
- 2) 委員, 日本海洋学会沿岸海洋研究部会

郭 新宇

- 1) 編集委員, 日本海洋学会学会誌「海の研究」
- 2) 編集委員, 日本海洋学会学会誌「Journal of Oceanography」
- 3) 事業委員, 日本海洋学会沿岸研究部会事業部
- 4) 非常勤講師, 広島大学

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 理事, 内分泌搅乱化学物質学会
- 2) 評議員, 日本環境化学会
- 3) 評議員, 日本環境科学会
- 4) 評議員, 環境放射能除染学会
- 5) 副編集委員長, 日本環境毒性学会
- 6) 生態学琵琶湖賞選考委員, 日本生態学会
- 7) 非常勤講師, 熊本県立大学
- 8) 非常勤講師, 琉球大学
- 9) 教員特別研究推進費に係わる学外審査委員, 静岡県立大学
- 10) 環境問題助成選考委員会委員, 日本生命財団
- 11) Editorial Board Member, Marine Environmental Research (Elsevier)
- 12) Editorial Board Member, Marine Pollution Bulletin (Pergamon)
- 13) Editorial Board Member, Australasian Journal of Ecotoxicology (Australasian Society for Ecotoxicology)
- 14) Editorial Board Member, Archives of Environmental Contamination and Toxicology (Springer)
- 15) Editorial Board Member, International Journal of Applied Environmental Sciences (Research India Publications)
- 16) Editorial Board Member, Journal of Environmental Monitoring (RSC Publishing)
- 17) Editorial Advisory Board Member, Environmental Chemistry (CSIRO Publishing)

岩田 久人

- 1) Editorial Board Member, The Scientific World (The Scientific World)
- 2) Editorial Board Member, Journal of Toxicology, Hindawi Publishing Corporation
- 3) Editorial Board Member, Journal of Marine Biology, Hindawi Publishing Corporation

5. 学会及び社会における活動

- 4) Editorial Board Member, Korean Society of Environmental Risk Assessment and Health Science
- 5) Editorial Board Member, Ecotoxicology and Environmental Safety, Elsevier
- 6) PRIMO16 : Pollutants Responses in Marine Organisms, California, USA, International Advisory Committee

仲山 慶

- 1) 幹事, 日本環境毒性学会

高菅 卓三

- 1) 評議員及び幹事, 日本環境化学会
- 2) 環境省 黄砂問題検討会 黄砂実態解明調査解析ワーキンググループ委員,
- 3) 極微量物質研究会技術顧問, (社) 日本環境測定分析協会
- 4) 環境省 環境調査研修所 ダイオキシン類排ガスコース (中級) 講師
- 5) 環境省 平成22年度 「汚染土壤の運搬・処理に関する検討調査」測定方法ワーキンググループ委員
- 6) 試験所技術審査員, (財) 日本適合性認定協会
- 7) MLAP 技術アドバイザー, (独) 製品評価技術基盤機構 (NITE) 認定センター
- 8) ダイオキシン分析技術セミナー委員及び講師, 日本分析化学会

磯部 友彦

- 1) 水環境と洗剤研究委員会委員長, 日本水環境学会

生態系解析分野

鈴木 聰

- 1) Associate Editor, Microbes and Environments, 日本微生物生態学会
- 2) Associate Editor, Frontiers in Microbiology

北村 真一

- 1) 編集委員, Journal of Fish Pathology, 韓国魚病学会

5. 3 学会, 講演会などの開催 (センター主催または共催)

- 1) 「第4回 日・台・韓 Joint Forum of Environmental Sciences」
期日：平成23年6月20日(月)～21日(火)
会場：愛媛大学 総合情報メディアセンター メディアホール
- 2) 第34回グローバル COE 特別セミナー
期日：平成23年7月29日(金) 13:00～15:00
会場：愛媛大学 総合研究棟1 4階会議室
「哺乳類成体神経幹細胞の動態を制御するメカニズム
～神経幹ニッチ細胞の可塑性：幹細胞をとりまく微小環境の変化～」
野村 真 準教授
(京都府立医科大学 大学院医学研究科 神経発生生物学)
- 3) 第6回グローバル COE 国際シンポジウム
「International Symposium on Advanced Studies by Young Scientists on Environmental Pollution and Ecotoxicology」
期日：平成23年8月4日(木)～8月6日(土)
会場：愛媛大学 総合情報メディアセンター メディアホール
- 4) 第35回グローバル COE 特別セミナー
期日：平成23年9月7日(水) 16:00～18:00

会場：愛媛大学 総合研究棟1 4階会議室
「イモリの分化転換における核内分子機序」

牧 信安 先生
(さきがけ研究者PhD (農学) 大阪大学蛋白質研究所 招聘准教授)

5) 第17回グローバル COE 若手の会特別セミナー

期日：平成23年10月3日(月) 10:00～11:30
会場：愛媛大学 総合研究棟1 4階会議室

「Applications of Synchrotron-Based Microscale X-Ray Imaging and Spectroscopy in the Biological, Environmental, and Materials Sciences.」

Dr. Benjamin D. Kocar
(Scientist, Stanford Synchrotron Radiation Lightsource, Stanford University)

6) 第36回グローバル COE 特別セミナー

期日：平成23年10月3日(月) 15:15～17:00
会場：愛媛大学 総合研究棟1 4階会議室

『海洋環境専門家は東日本大震災にどう取組むか』

「日本海洋学会の取り組み」
池田 元美 氏 (北大名誉教授／日本海洋学会震災対応ワーキンググループ)

「CMES の取り組み、環境化学」

磯辺 友彦 氏 (愛媛大学・上級研究員)
板井 啓明 氏 (愛媛大学沿岸環境科学研究センター 助教)

「CMES の取り組み、海洋物理学」 磯辺 篤彦 氏 (愛媛大学沿岸環境科学研究センター 教授)

7) 第37回グローバル COE 特別セミナー

期日：平成23年11月25日(金) 13:00～15:00
会場：愛媛大学 総合研究棟1 4階会議室

「Environmental aspects of antibiotic resistance」

Prof. Rustam I. Aminov
(University of Aberdeen, Rowett Institute of Nutrition and Health, Aberdeen, UK)

8) 第18回グローバル COE 若手の会特別セミナー

期日：平成23年12月7日(水) 13:00～14:30
会場：愛媛大学 総合研究棟1 4階会議室

「Thyroid hormone physiology during frog metamorphosis : Target and tool in endocrine disruption studies」

Dr. Daniel R. Buchholz
(University of Cincinnati)

9) 第40回グローバル COE 特別セミナー

期日：平成24年2月22日(水) 10:00～12:00
会場：愛媛大学 総合研究棟1 4階会議室

「Bioinorganic analytical chemistry and metallomics」

Dr. Lobinski Ryszard
(National Research Council of France (CNRS), Pau, France)

5. 学会及び社会における活動

10) 第41回グローバル COE 特別セミナー

期日：平成24年2月22日（水） 13:30-15:30

会場：愛媛大学 総合研究棟1 4階会議室

「Levels and Distribution of Endocrine Disrupting Chemicals (Polybrominated Diphenyl Ethers, Polychlorinated Biphenyls, And Their Hydroxylated Metabolites) in Remote Northern Pacific Ocean and California Environments」

Dr. June-Soo Park

(Department of Toxic Substances Control California Environmental Protection Agency)

5. 4 学会、講演会などの開催（個人）

化学汚染・毒性解析部門

岩田 久人

- 1) 愛媛大学 - Kyung Hee University 環境毒性学合同研究セミナー開催 平成23年12月20日～23日、ソウル、韓国

生態系解析部門

鈴木 聰

- 1) 愛媛微生物研究会、キックオフフォーラム、平成23年4月23日、愛媛大学
- 2) 愛媛微生物研究会、第二回フォーラム、平成23年11月26日、松山大学

濱村 奈津子

- 1) 愛大サイエンスカフェ 「サイエンス女子会：環境について考えよう～環境を守る小さな生きものたち」 平成24年3月17日、松山市カフェ シエル・ド・フェリブル

5. 5 学会賞等

環境動態解析部門

齋藤 光代

- 1) 平成23年8月6日 The 6th Global COE International Symposium of CMES Ehime Univ. Best Poster Award

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 紫綬褒章（平成23年4月）
- 2) 愛媛大学特別栄誉教授称号（平成24年1月）

岩田 久人

- 1) 第16回生態学琵琶湖賞受賞
- 2) Lee, J. S., Kim, E. Y., Nomaru, K., Iwata, H.: Molecular and functional characterization of aryl hydrocarbon receptor repressor from the chicken (*Gallus gallus*) : interspecies similarities and differences. *Toxicological Sciences*, 119 (2), 319-334. Highlighted article

阿草 哲郎

- 1) 第17回ヒ素シンポジウム、平成23年11月、奨励賞

Thuruthippallil Leena Mol

- 1) Society of Toxicology 51st Annual Meeting, The Robert J. Rubin Student Travel Award 受賞

水川 葉月

- 1) 第20回日本環境化学会環境化学討論会最優秀学生賞 (平成23年7月)

Gnanasekaran Devanathan

- 1) "Otto Hutzinger Student Presentation Award" in DIOXIN 2011, Brussels, Belgium (平成23年8月)

Kwadwo Ansong Asante

- 1) Student Scholarship Award for Outstanding Abstract Presentation at the 9th International Society for Trace Elements Research in Humans, Belek, Antalya, Turkey (平成23年10月)

野口 貴子

- 1) 平成23年度愛媛大学大学院農学研究科生物環境保全学専攻修士論文発表会最優秀賞 (平成24年2月)

後藤 哲智

- 1) 平成23年度愛媛大学大学院農学研究科生物環境保全学専攻修士論文発表会優秀賞 (平成24年2月)

安田 悠佑

- 1) 平成23年度愛媛大学大学院農学研究科生物環境保全学専攻修士論文発表会優秀賞 (平成24年2月)

長野 靖子

- 1) 平成23年度愛媛大学農学部生物環境保全学専門教育コース卒業論文発表会優秀賞 (平成24年2月)

6. 國際的活動



(平成23年度)

6. 1 國際研究プロジェクト

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 平成22年1月～平成24年12月, 東シナ海における栄養塩挙動に関する研究, 華東師範大学
- 2) 平成22年1月～平成24年12月, 黒潮による栄養塩輸送の空間構造と時間変化に関する研究, 国家海洋局第二海洋研究所
- 3) 平成22年1月～平成24年12月, 渤海における黄河水の年齢に関する研究, 中国海洋大学
- 4) 平成22年6月～平成24年12月, 南シナ海から東シナ海への栄養塩輸送に関する研究, 台湾・国立中山大学

加 三千宣

- 1) 平成23年9月29～12月22 堆積魚鱗の炭素・窒素安定同位体比に関する共同研究, Idaho State University, USA

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 平成15年～, 有害物質によるメコン川流域の汚染と影響に関する研究, カンボジア・カンボジア水産局, ベトナム・ハノイ大学, ノンラム大学等
- 2) 平成15年～, 内分泌搅乱物質によるバイカルアザラシの汚染とその蓄積特性および影響評価に関する研究, ロシア・バイカル自然保護研究所
- 3) 平成15年～, 微量元素によるガーナの環境汚染, ガーナ水圏研究所
- 4) 平成16年～, 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類等 POPs の汚染と毒性影響に関する研究, カンボジア・カンボジア水産局, インド・アンナマライ大学海洋生物学研究所等
- 5) 平成17年～, POPs および POPs 候補物質によるポルトガルの海洋汚染に関する研究, ポルトガル・アベイロ大学
- 6) 平成17年～, POPs および POPs 候補物質によるアジアの広域大気汚染とその動態に関する研究, 中国・広州地球化学研究所および英国・ランカスター大学
- 7) 平成18年～, アジア地域の有機フッ素化合物汚染, 米国・ニューヨーク州立大学アルバニー校
- 8) 平成18年～, 電子・電気機器リサイクル施設および廃棄物処理施設における POPs 候補物質の汚染と影響, インド・アンナマライ大学
- 9) 平成19年～, POPs および POPs 候補物質によるインドネシアの環境汚染に関する研究, Center Technology for Marine Survey, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), インドネシア
- 10) 平成19年～, 電子・電気機器リサイクル施設および廃棄物処理施設における POPs 候補物質の汚染と影響, ベトナム・ハノイ大学
- 11) 平成20年～, 有害物質によるワニの内分泌搅乱, 米国・フロリダ大学および NAS
- 12) 平成23年～, 福島原発災害による放射性物質の海棲哺乳動物汚染, モナコ・国際原子力機関 (IAEA)

岩田 久人

- 1) 平成17年～, 野生鳥類のシトクローム P450の進化と機能に関する研究, 米国・ウツズホール海洋研究所
- 2) 平成16年～, 野生生物の有機フッ素化合物汚染とその影響に関する研究, 米国・ニューヨーク州立大学
- 3) 平成17年～, バイカルアザラシにおける化学物質の汚染および影響に関する研究, ロシア・The Eastern-Siberian Scientific and Production Fisheries Center
- 4) 平成19年～, ヒ素代謝酵素の遺伝的多型に関する研究, ベトナム・ハノイ大学

- 5) 平成21年～，野生生物のアリールハイドロカーボンレセプターの進化と機能に関する研究，韓国・Kyung Hee大学

金 恩英

- 1) 平成15年～，野生鳥類のアリールハイドロカーボンレセプターの進化と機能に関する研究，米国・ウッズホール海洋研究所
- 2) 平成16年～，野生生物の有機フッ素化合物汚染とその影響に関する研究，米国・ニューヨーク州立大学
- 3) 平成17年～，バイカルアザラシにおける化学物質の汚染および影響に関する研究，ロシア・The Eastern-Siberian Scientific and Production Fisheries Center

生態系解析部門

鈴木 聰

- 1) 平成20年8月～，養殖場の薬剤耐性菌研究，フィンランド・ヘルシンキ大学
- 2) 平成21年7月～，メトロマニラ周辺環境における薬剤耐性菌の調査，フィリピン・国立フィリピン大学
- 3) 平成21年4月～，複合汚染環境での薬剤耐性菌発生に関する研究，台湾・国立成功大学
- 4) 平成22年4月～，複合汚染環境での薬剤耐性菌発生に関する研究，韓国・国立全南大学

北村 真一

- 1) 平成18年9月～，魚類感染症の発症メカニズムに関する研究，韓国・国立全南大学校水産生命医学科

濱村 奈津子

- 1) 平成21年4月～，イエローストーン温泉郡のメタゲノム解析，米国・モンタナ州立大学およびポートランド州立大学
- 2) 平成22年10月～，モンゴル汚染環境サンプルの微生物生態解析，モンゴル国立大学

金本 自由生

- 1) 平成21年度～，日本産コアマモ類の研究，オーストラリア・ウエスタンオーストラリア大学電顕センター

6. 2 在外研究等

6. 3 海外調査・国際学会等

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 平成23年4月28日～5月1日，講義及び研究打合せ，中国海洋局国家海洋環境予報センター，中国
- 2) 平成23年5月2日～5月10日，国際学会43rd International Liege Colloquium on Ocean Dynamics 参加発表，リエージュ大学，ベルギー
- 3) 平成23年6月4日～8日，環境省受託研究打合せと国際学会 The 3rd International Workshop on Modeling the Ocean 参加，中国海洋大学、国家海洋局北海分局，国家海洋局第一海洋研究所，中国
- 4) 平成23年6月24日～27日，東シナ海における栄養塩動態に関するトレーサー実験の設計とその研究打合せ，華東師範大学，上海
- 5) 平成23年6月28日～7月2日，国際学会 IUGG に参加，Melbourne Convention and Exhibition Centre，オーストラリア
- 6) 平成23年7月22日～27日，「アジア地域の気候への黒潮の影響」について研究打合せ，中国海洋大学、華東師範大学，中国
- 7) 平成23年8月17日～26日，海岸漂着ゴミのサンプル収集と研究打ち合わせ，国家海洋局第二海洋研究所、中国海洋大学，中国

6. 國際的活動

- 8) 平成23年9月9日～20日，東シナ海栄養塩動態に関するトレーサー実験についての研究打ち合わせ，華東師範大学；国際会議 LOICZ OSC 2011参加発表，Oriental Haitian Hotel；黒潮による栄養塩輸送についての研究打合せ，国家海洋局第二海洋研究所，中国
- 9) 平成23年10月27日～11月1日，セミナー講演と学生発表聴講，香港中文大学，香港科技大学，中国科学院南海海洋研究所，中山大学，中国
- 10) 平成23年11月10日～21日，大気起源栄養塩の動態について研究打合せ，中国海洋大学と中国科学院海洋研究所，中国
- 11) 平成23年11月22日～25日，国際学会5th China-Japan-Korea (CJK) Symposium 参加発表，華東師範大学；黒潮による栄養塩輸送量について研究打合せ，国家海洋局第二海洋研究所，中国
- 12) 平成23年12月25日～平成24年1月7日，黒潮による栄養塩輸送に関する共同研究実施，中国海洋局第二海洋研究所；台湾海峡の流量変動に関する情報収集，アモイ大学；冬季の東シナ海における河川プルームの挙動に関する共同研究実施，中国科学院海洋研究所，中国
- 13) 平成24年2月18日～25日，国際学会2012 OCEAN SCIENCES MEETING 参加発表，Salt Palace Convention Center，アメリカ合衆国
- 14) 平成24年3月4日～13日，東シナ海における栄養塩輸送と基礎生産へ貢献に関する生態系モデル感動実験について論文作成，華東師範大学，中国

磯辺 篤彦

- 1) 平成23年6月5日～12日，the 3rd International Workshop on Modeling the Ocean 招待講演と環境省委託研究打合せ，THE FIRST INSTITUTE OF OCEANOGRAPHY，国家海洋局，中国
- 2) 平成23年6月29日～7月3日，2011 International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG) General Assembly 参加発表，Melbourne Convention & Exhibition Centre，オーストラリア
- 3) 平成23年8月16日～19日，環境省委託研究ミーティング，韓国海洋研究院南海研究所，ソウル大学，韓国
- 4) 平成24年2月19日～26日，Ocean Sciences Meeting 参加発表，SALT PALACE CONVENTION CENTER，アメリカ

吉江 直樹

- 1) 平成23年6月27日～7月4日，国際学会 IUGG 2011に参加発表，Melbourne Convention and Exhibition Centre，オーストラリア
- 2) 平成23年10月14日～21日，国際学会 PICES 2011 Annual Meeting に参加発表，Khabarovsk's Official Reception House，ロシア

齋藤 光代

- 1) 平成23年9月12日～9月15日，国際学会 LOICZ2011に参加発表，Oriental Haitian Hotel，中国

加 三千宣

- 1) 平成23年12月5日～9日，国際学会 The 2011 AGU Fall Meeting に参加発表，Moscone Convention Center，San Francisco，USA

佐川 拓也

- 1) 平成23年7月18日～29日，国際学会 XVIII INQUA Congress に参加発表，Bern Expo，スイス。

榎木 玲美

- 1) 平成23年12月5日～9日，国際学会 AGU Fall Meeting 2011に参加発表，San Francisco，アメリカ

李 廉吉

- 1) 平成23年9月12日～9月15日，国際学会 LOICZ2011に参加発表，Oriental Haitian Hotel，中国
- 2) 平成24年2月18日～26日，国際学会2012 OCEAN SCIENCES MEETING に参加発表，Salt Palace Convention Center，アメリカ合衆国

王 玉成

- 1) 平成23年6月27日～7月4日, 国際学会 IUGG 2011に参加発表, Melbourne Convention and Exhibition Centre, オーストラリア
- 2) 平成23年9月9日～23日, 東シナ海における微生物環についての研究打合せ, 華東師範大学, 中国
- 3) 平成24年2月18日～26日, 国際学会2012 OCEAN SCIENCES MEETING に参加発表, Salt Palace Convention Center, アメリカ合衆国

Endro Soeyanto

- 1) 平成23年6月4日～11日, 国際学会 THE 3RD INTERNATIONAL WORKSHOP ON MODELING THE OCEAN に参加発表, The First Institute of Oceanography, 中国
- 2) 平成24年2月18日～26日, 国際学会2012 OCEAN SCIENCES MEETING に参加発表, Salt Palace Convention Center, アメリカ合衆国

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 平成23年8月20日～平成23年8月27日, 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin2011) で座長および発表, Brussels, Belgium.
- 2) 平成23年11月8日～平成23年11月12日, ワークショップ参加, Kennedy Space Center, Orlando, Florida, USA.
- 3) 平成23年11月13日～平成23年11月18日, SETAC North America 32nd Meeting で発表, Boston, Massachusetts, USA.
- 4) 平成24年1月5日～平成24年1月9日, ベトナム・ハノイ周辺の環境汚染調査及び研究試料の採取, Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam.

Annamalai Subramanian

- 1) 平成23年8月20日～平成23年8月27日, 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin2011) で発表, Brussels, Belgium.
- 2) 平成23年10月11日～平成23年10月18日, The North Pacific Marine Science Organization (PICES-2011) で発表, Khabarovsk, Russia.
- 3) 平成23年11月8日～平成23年11月12日, ワークショップ参加, Kennedy Space Center, Orlando, Florida, USA.
- 4) 平成23年11月13日～平成23年11月19日, SETAC North America 32nd Meeting で発表, Boston, Massachusetts, USA.
- 5) 平成24年1月6日～平成24年2月1日, 現地調査および研究試料の採取, University of Madras, Chennai, India.

岩田 久人

- 1) 平成23年5月15日～20日, 16th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms 参加・発表, Long Beach, USA.
- 2) 平成23年10月25日～28日, 4th International Conference on Environmental Health Science, 招待講演, Incheon, 韓国
- 3) 平成23年12月20日～23日, Kyung Hee University 研究発表会 参加・発表, ソウル, 韓国.
- 4) 平成24年3月10日～17日, Society of Toxicology 51st Annual Meeting 参加・発表, サンフランシスコ, USA.

高菅 卓三

- 1) 平成23年8月20日～平成23年8月28日, 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin2011) で発表, Brussels, Belgium.

仲山 慶

- 1) 平成23年7月3日～9日, ISTA 第15回国際シンポジウム学会 参加・発表, 香港, 中国.
- 2) 平成23年11月7日～13日, 2011 International Conference on Environmental OMICS (ICEO) 参加・発表, 広州, 中国.

高橋 真

- 1) 平成24年1月5日～平成24年1月13日, ベトナム・ハノイ周辺の環境汚染調査及び研究試料の採取, Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam.

磯部 友彦

- 1) 平成23年8月19日～平成23年8月26日, 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin2011) で発表, Brussels, Belgium.
- 2) 平成23年10月16日～平成23年10月26日, 研究試料の採取および現地調査, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), Jakarta, Indonesia.
- 3) 平成23年11月8日～平成23年11月12日, ワークショップ参加, Kennedy Space Center, Orlando, Florida, USA.
- 4) 平成23年11月13日～平成23年11月19日, SETAC North America 32nd Meeting で発表, Boston, Massachusetts, USA.
- 5) 平成24年3月2日～平成24年3月8日, 1st Joint Workshop on Environmental Pollution by POPs and Heavy Metals in Indonesia で発表, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), Jakarta, Indonesia.

野見山 桂

- 1) 平成23年8月19日～平成23年8月26日, 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin2011) で発表, Brussels, Belgium.
- 2) 平成23年11月8日～平成23年11月12日, ワークショップ参加, Kennedy Space Center, Orlando, Florida, USA.
- 3) 平成23年11月13日～平成23年11月19日, SETAC North America 32nd Meeting で発表, Boston, Massachusetts, USA.

板井 啓明

- 1) 平成23年6月13日～平成23年6月20日, The 2011 International Symposium on Metalomics で発表, Munster, Germany.
- 2) 平成23年10月16日～平成23年10月26日, 研究試料の採取および現地調査, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), Jakarta, Indonesia.
- 3) 平成23年11月8日～平成23年11月12日, ワークショップ参加, Kennedy Space Center, Orlando, Florida, USA.
- 4) 平成23年11月13日～平成23年11月19日, SETAC North America 32nd Meeting で発表, Boston, Massachusetts, USA.
- 5) 平成24年3月2日～平成24年3月8日, 1st Joint Workshop on Environmental Pollution by POPs and Heavy Metals in Indonesia で発表, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), Jakarta, Indonesia.

鈴木 賢一

- 1) 平成23年5月15日～17日, 16th International Symposium Pollutant Responses in Marine Organisms 参加・発表, Long Beach, USA.
- 2) 平成23年12月20日～23日, Kyung Hee University 研究発表会 参加・発表, ソウル, 韓国.

阿草 哲郎

- 1) 平成23年6月13日～20日, Third International Symposium on Metalomics 参加・発表, Munster, Germany.
- 2) 平成23年10月14日～23日, International Society for Trace Element Research in Humans (ISTERH) IX 参加・発表, Aantalya, Turkey.
- 3) 平成23年11月13日～17日, SETAC North America 32nd Annual Meeting 参加・発表, Boston, USA.
- 4) 平成23年12月20日～23日, Kyung Hee University 研究発表会 参加・発表, ソウル, 韓国.
- 5) 平成24年3月10日～17日, Society of Toxicology 51st Annual Meeting 参加・発表, サンフランシスコ, USA.

平野 将司

- 1) 平成23年5月15日～20日, 16th International Symposium Pollutant Responses in Marine Organisms 参加・発表, Long Beach, USA.
- 2) 平成23年12月20日～23日, Kyung Hee University 研究発表会 参加・発表, ソウル, 韓国.

金 俊佑

- 1) 平成23年10月16日～平成23年10月26日、研究試料の採取および現地調査、Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), Jakarta, Indonesia.
- 2) 平成23年11月11日～平成23年11月14日、SETAC North America 32nd Meeting で発表、Boston, Massachusetts, USA.
- 3) 平成23年11月15日～平成23年11月27日、韓国海洋環境工学会で発表、河川調査、Seoul, Korea.

Kwadwo Ansong Asante

- 1) 平成23年8月20日～平成23年8月28日、31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin2011) で発表、Brussels, Belgium.
- 2) 平成23年10月14日～平成23年10月23日、International Society of Trace Element Research in Humans (ISTERH) で発表、Antalya, Turkey.
- 3) 平成23年11月12日～平成23年11月19日、SETAC North America 32nd Meeting で発表、Boston, Massachusetts, USA.

Nguyen Minh Tue

- 1) 平成23年11月12日～平成23年11月19日、SETAC North America 32nd Meeting で発表、Boston, Massachusetts, USA.
- 2) 平成24年1月5日～平成24年1月18日、ベトナム・ハノイ周辺の環境汚染調査及び研究試料の採取、Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam.

Gnanasekaran Devanathan

- 1) 平成23年8月20日～平成23年8月28日、31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin2011) で発表、Brussels, Belgium.
- 2) 平成23年11月12日～平成23年11月16日、SETAC North America 32st Meeting で発表、Boston, Massachusetts, USA.
- 3) 平成23年11月17日～平成23年11月24日、NY 州立大にて研究打ち合わせ、Albany NY, USA.

Muhammad Ilyas

- 1) 平成23年8月20日～平成23年8月27日、31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin2011) で発表、Brussels, Belgium.
- 2) 平成23年10月10日～平成23年10月26日、研究試料の採取および現地調査、Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), Jakarta, Indonesia.
- 3) 平成24年3月2日～平成24年3月8日、1st Joint Workshop on Environmental Pollution by POPs and Heavy Metals in Indonesia で発表、Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), Jakarta, Indonesia.

Pham Thi Dau

- 1) 平成23年5月15日～20日、16th International Symposium Pollutant Responses in Marine Organisms 参加・発表、Long Beach, USA.
- 2) 平成23年12月20日～23日、Kyung Hee University 研究発表会 参加・発表、ソウル, 韓国.
- 3) 平成24年3月10日～17日、Society of Toxicology 51st Annual Meeting 参加・発表、サンフランシスコ, USA.

Thuruthippallil Leena Mol

- 1) 平成23年12月20日～23日、Kyung Hee University 研究発表会 参加・発表、ソウル, 韓国.
- 2) 平成24年3月10日～17日、Society of Toxicology 51st Annual Meeting 参加・発表、サンフランシスコ, USA.

飯田 緑

- 1) 平成23年5月15日～20日、16th International Symposium Pollutant Responses in Marine Organisms 参加・発表、Long Beach, USA.
- 2) 平成23年12月20日～23日、Kyung Hee University 研究発表会 参加・発表、ソウル, 韓国.
- 3) 平成24年3月10日～17日、Society of Toxicology 51st Annual Meeting 参加・発表、サンフランシスコ, USA.

6. 國際的活動

Yoo Jean

- 1) 平成23年12月20日～23日, Kyung Hee University 研究発表会 参加・発表, ソウル, 韓国.
- 2) 平成24年3月10日～17日, Society of Toxicology 51st Annual Meeting 参加・発表, サンフランシスコ, USA.

水川 葉月

- 1) 平成23年8月20日～平成23年8月27日, 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin2011) で発表, Brussels, Belgium.

江口 哲史

- 1) 平成23年11月12日～平成23年11月19日, SETAC North America 32st Meeting で発表, Boston, Massachusetts, USA.

落合 真理

- 1) 平成23年8月20日～平成23年8月27日, 31st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin2011) で発表, Brussels, Belgium.

大塚 将成

- 1) 平成23年11月14日～平成23年11月19日, SETAC North America 32nd Meeting で発表, Boston, Massachusetts, USA.

Riyadi Adi Slamet

- 1) 平成23年10月10日～平成23年10月26日, 研究試料の採取および現地調査、Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), Jakarta, Indonesia.
- 2) 平成24年3月2日～平成24年3月8日, 1st Joint Workshop on Environmental Pollution by POPs and Heavy Metals in Indonesia で発表, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), Jakarta, Indonesia.

Le Huu Tuyen

- 1) 平成23年12月24日～平成24年1月13日, ベトナム・ハノイ周辺の環境汚染調査及び研究試料の採取, Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam.

桂 加奈

- 1) 平成24年1月5日～平成24年1月13日, ベトナム・ハノイ周辺の環境汚染調査及び研究試料の採取, Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam.

生態系解析部門

鈴木 聰

- 1) 平成23月5月, 国立ハノイ大学生物工学センター共同研究, ハノイ市, ベトナム
- 2) 平成23年7月, 複合汚染環境の薬剤耐性遺伝子調査, 台南市周辺, 台湾
- 3) 平成24年3月, 環境中薬剤耐性遺伝子に関する国際ワークショップ発表, モンテベロ, カナダ

北村 真一

- 1) 平成23年7月, 15th International symposium on Toxicity Assessment 参加, Hong-Kong

濱村奈津子

- 1) 平成23年7月, モンゴル鉱山環境調査, ゴビ, モンゴル
- 2) 平成23年8月, Goldschmidt 2011 参加, Prague, Czeeg

6. 4 外国人客員研究員等

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Dr. Ana Catarina Almeida Sousa, Aveiro University, Portugal, 共同研究の実施, 平成23年9月12日～平成23年12月10日
- 2) Dr. Manuel Ramiro Dias Pastorinho, Aveiro University, Portugal, 共同研究の実施, 平成23年11月1日～平成23年12月9日
- 3) Dr. Agus Sudaryanto, Technology Center for Marine Survey, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), Jakarta, Indonesia, 分析法習得、研究試料の分析、研究打ち合わせ, 平成24年1月18日～平成24年2月16日

生態系解析部門

鈴木 聰

- 1) Sultan Luleciogru : 平成23年6月26日～平成3年8月26日, 環境由来緑膿菌の薬剤耐性検定
- 2) Windi I. Muziasari : 平成23年10月30日～平成23年11月30日, フィンランドの養殖場底泥の薬剤濃度測定

6. 5 海外からの訪問者

環境動態解析部門

- 1) 趙亮博士、中国海洋大学、平成23年12月1日～23日、東シナ海における生態系モデリングに関する共同研究
- 2) 孫群博士、中国科学院海洋研究所、平成23年12月1日～23日、東シナ海と黄海における熱輸送に関する共同研究

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Assoc. Prof. Yanling Qiu, Prof. Jianfu Zhao, Prof. Daqiang Yin, Prof. Ling Chen, Assoc. Prof. Xiangzhou Meng, State Key Laboratory of Pollution Control and Resource Resuse, College of Environmental Science and Engineering, Tongji University, Shanghai, China, 平成23年5月9日～平成23年5月12日, es-BANK の視察と情報収集
- 2) Dr. Vu Duc Thao, Dr. Tran Le Minh, Mr. Tran Ngoc Tan, Mr. Dinh Bach Khoa, Mr. VuKiem Thuy, R & D Laboratory, Hanoi University of Science and Technology, Hanoi, Vietnam, 平成23年8月29日～平成23年8月31日, 研究室の視察と情報収集
- 3) 久保田 彰, Woods Hole Oceanographic Institute, 平成23年10月7日～平成23年10月25日, 野生動物のシトクロム P 450酵素活性に関する共同研究の打ち合わせ
- 4) Hoa, T. Nguyen, School of Biotechnology and Food Technology, Hanoi University of Science and Technology (HUST), Vietnam, 平成23年11月3日～平成23年11月19日, 化学物質－蛋白質相互作用解析法の習得
- 5) 久保田 彰, Woods Hole Oceanographic Institute, 平成24年2月22日～平成24年3月24日, 野生動物のシトクロム P 450 酵素活性に関する共同研究の打ち合わせ

生態系解析部門

- 1) Rustam Aminov, University of Averdeen, UK, 平成23年11月24日～平成23年11月26日, 薬剤耐性菌のメタゲノム解析講演および研究打ち合わせ.
- 2) Ye-Ruy, 香港城市大学博士課程学生, Hong Kong, 平成23年11月1日～平成23年11月8日, 共同研究（メダカを用いた免疫毒性試験法の確立）の実施

6. 6 招聘研究員

環境動態解析部門

- 1) 于 晓杰、中国海洋大学、中国、平成23年10月1日～平成24年3月31日

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Dr. Derec Muir, Environment Canada, Aquatic Ecosystem Protection Research Division, Burlington, Canada, GCOE 特別セミナーにて講演および共同研究の打ち合わせ, 平成23年4月11日～平成23年4月15日
- 2) Dr. Lobinski Ryszard, National Research Council of France (CNRS), Pau, France GCOE 特別セミナーにて講演およびJSPS 外国人特別研究員としての訪問, 平成24年2月20日～平成24年2月22日
- 3) Dr. June-Soo Park, Department of Toxic Substances Control, California Environmental Protection Agency, California, USA, GCOE 特別セミナーにて講演および共同研究の打ち合わせ, 平成24年2月20日～平成24年2月23日

6. 7 留学生

環境動態解析部門

- 1) 李 慶吉, 大学院理工学研究科博士後期課程, 私費,瀬戸内海における栄養塩の長期変動に関する研究, 中国
- 2) Soeyanto Endro, 大学院理工学研究科博士後期課程, 大学支援経費, JCOPE2の再解析データからみた黒潮流量の経年変動に関する研究, インドネシア
- 3) 王 玉成, 大学院理工学研究科博士後期課程, 私費, 東シナ海における栄養塩輸送機構に関する研究, 中国
- 4) 王 海燕, 中国海洋大学大学院博士後期課程, 中国政府派遣留学生, 渤海における黄河水齡に関する研究, 中国

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 金 俊佑, 上級研究員センター研究員, Environmental Monitoring of Pharmaceuticals and Personal Care Products (生活関連物質による環境汚染の実態解明), 韓国 (平成24年5月まで)
- 2) Nguyen Minh Tue, グローバル COE 研究員, Occupational Exposure to POPs and BFRs in Recycle Plant in Vietnam (ベトナムのリサイクル作業従事者の POPs・BFRs 暴露評価), ベトナム (平成24年3月まで)
- 3) Gnanasekaran Devanathan, 大学院連合農学研究科博士課程 (国費) / グローバル COE 研究員, Organohalogen Compounds in Human Breast Milk from India (有機ハロゲン化合物によるインドの母乳汚染), インド (平成24年3月まで)
- 4) Nguyen Ngoc Ha, 大学院理工学研究科博士後期課程, 私費, Contamination Status and Human Exposure to Trace Elements in E-waste Recycling and Waste Dumping Sites in India and Vietnam (アジア途上国の廃棄物処理・循環過程における微量元素汚染), ベトナム (平成23年9月まで)
- 5) Muhammad Ilyas, 大学院理工学研究科博士後期課程 (大学支援経費) / グローバル COE 研究員, Levels, Distribution and Profiles of POPs and BFRs in Environmental and Human Matrices Collected from Surabaya, Indonesia (インドネシア・スラバヤの POPs および BFRs 汚染の実態解明), インドネシア (平成24年3月まで)
- 6) Kuwadwo Ansong Asante, 大学院理工学研究科博士後期課程 (私費) / 上級研究員センター研究員 Contamination by POPs and BFRs in e-waste recycling sites in Ghana (ガーナ e-waste リサイクル処理地域における POPs・BFRs 汚染の実態解明), ガーナ (平成25年3月まで)
- 7) Pham Thanh Hien, 大学院理工学研究科博士前期課程, 大学支援経費, Monitoring studies on contamination status of POPs and BFRs in coastal fish from Vietnam and in the marine food-web of Japan Sea (ベトナム沿岸性魚類および日本海の海洋生態系食物網における POPs・BFRs 汚染の実態解明), ベトナム (平成23年9月まで)
- 8) Adi Slamet Riyadi, 大学院理工学研究科博士前期課程, 大学支援経費, Spatial and Temporal Variations of Trace Element Contamination in Jakarta Bay (ジャカルタ湾における微量元素汚染の時空間変動解析), インドネシア (平成24年9月まで)
- 9) Thuruttippallil, Leena Mol, 大学院理工学研究科アジア環境学特別コース博士後期課程, ダイオキシン類による野生鳥類へのリスク評価に関する研究, インド
- 10) Yoo Jean, 大学院理工学研究科アジア環境学特別コース博士後期課程, アザラシのシトクロム P450による化学物質代謝能の解析, 韓国
- 11) Pham Thi Thanh Loan, 大学院理工学研究科アジア環境学特別コース博士前期課程, 哺乳類PXR のリガンドスクリーニング法の開発, ベトナム (平成23年9月まで)

生態系解析部門

- 1) 金 受珍, 理工学研究科, 私費, 沿岸海水中のテトラサイクリン耐性遺伝子の研究, 大韓民国
- 2) Ngo Vy Thao, 理工学研究科, 大学経費, 海水中での細菌タンパク質の分解過程, ベトナム
- 3) Shafiqul Islam, 理工学研究科, 私費, 薬剤耐性遺伝子の水平伝播, バングラデシュ
- 4) Avi Octaviani, 理工学研究科, 大学経費, 抗生物質の海水中細菌群集への影響, インドネシア

7. 教育活動



7. 1 卒業論文・修士論文・博士論文 題目 (平成23年度)

環境動態解析部門

卒業論文

- 1) 八坂 吉晃：水温に基づく宇和海のミズクラゲ発生量予測手法の開発に関する研究
- 2) 福井 涼：豊後水道における外洋水流入の周期性に関する研究
- 3) 園本 拓彬：外洋水流入が豊後水道の植物プランクトン種組成に及ぼす影響に関する研究
- 4) 奥田 悠太：外洋水流入が豊後水道の植物プランクトンサイズ組成に及ぼす影響に関する研究
- 5) 神田 華子：海岸漂着プラスチックゴミによる海岸重金属汚染の実態
- 6) 岩中 祐一：バルーン空撮による河口フロントの可視化
- 7) 原 大輔：非構造系格子を用いた瀬戸内海の海洋循環モデル

修士論文

- 1) 笠毛 健生：大気海洋同時観測による東シナ海黒潮前線における相互作用の検出

化学汚染・毒性解析部門

卒業論文

- 1) 今川 渉：日本海の深海性魚類における PCBs および PBDEs の汚染実態と分布
- 2) 長野 靖子：アライグマ (*Procyon lotor*) の血中に残留する有機ハロゲン化合物とその代謝物の蓄積特性
- 3) 桂 加奈：ベトナム E-waste 処理地域におけるヒト母乳中ダイオキシン様活性のモニタリングとリスク評価
- 4) 古池 幸：ホッキョクグマ cytochrome P450 2B 遺伝子の同定と酵素学的特徴の解析
- 5) 中井 祥子：ホッキョクグマ CAR の単離と化学物質による転写活性化能の解析
- 6) 清水 市代：水酸化 PCBs 暴露によるヒラメの神経形成異常とその作用機序
- 7) 藤井 崇文：ヒラメの腎臓および脾臓におけるウイルス感染に対する応答の比較

修士論文

- 1) 神原 千佳：鰆脚類に残留するハロゲン化フェノール類の蓄積特性とその起源
- 2) 後藤 哲智：東京湾堆積物における臭素化ダイオキシン類の分布と経年変化
- 3) 野口 貴子：ベトナム北部 Dong Mai 地域のバッテリーリサイクル施設における微量元素のヒト暴露実態と影響評価
- 4) 濱田 宏基：有機ハロゲン化合物による東シナ海および瀬戸内海の魚介類汚染と食物網を介した生物濃縮
- 5) 安田 悠佑：沿岸性および外洋性鯨類における微量元素濃度の経年変動解析
- 6) 小松 幸恵：臭素系難燃剤による高知県沿岸および沖合の魚介類汚染
- 7) 清水沙千子：バイカルアザラシ エストロゲン受容体の機能解析
- 8) Yoo Jean : Molecular characterization and *in silico* analysis of cytochrome P450 2A, 2B, and 2C from the Baikal seal (*Pusa sibirica*)
- 9) Pham Thi Thanh Loan : Transactivation potencies of the Baikal seal (*Pusa sibirica*) pregnane X receptor by persistent organic pollutants

博士論文

- 1) Gnanasekaran Devanathan : Assessment of Human Exposure to Organohalogen Compounds in India (インドにおける有機ハロゲン化合物の人体曝露)

- 2) Muhammad Ilyas : Contamination by Polychlorinated Biphenyls and Brominated Flame Retardants in the Environment and Humans from Surabaya, Indonesia
- 3) Nguyen Ngoc Ha : Evaluation of Human Health Risk Related to Environmental Contamination by Trace Elements at E-Waste Recycling Sites in India and Vietnam
- 4) Kwadwo Ansong Asante : Contamination and Risk Assessment of PCBs, PBDEs and HBCDs in Biological Samples from Ghana
- 5) Pham Thi Dau : Quantitative Analysis of the Interaction of Baikai Seal (*Pusa sibirica*) Constitutive Androstane Receptor with Chemical Compounds

生態系解析部門**卒業論文**

- 1) 木村 碧：海洋細菌から *E. coli* へのテトラサイクリン耐性遺伝子 *tet* (M) の伝達に及ぼす金属の影響
- 2) 片谷 浩：台湾の水銀汚染地域周辺水域におけるオキシテトラサイクリンおよび水銀耐性遺伝子の定量
- 3) 野澤 昭乃：*Azumiobodo hoyamushi* gen. nov. et sp. nov. (Euglenozoa, Kinetoplastea, Neobodonida) :the pathogenic kinetoplastid of the soft tunic syndrome in ascidian
- 4) 山田 真実：魚類細胞におけるトランスフェクションの条件検討
- 5) 丸尾 宜延：伊予灘における底生ナメクジウオの分布構造の変遷
- 6) 岩田 啓嗣：伊予灘における2010年産ナメクジウオ浮遊幼生の分布と動態
- 7) 松原 玄：伊予灘における2011年産ナメクジウオ浮遊幼生の分布と動態
- 8) 松本健太郎：今治市波方町地先のコアマモの移植群落の分布と成長

修士論文

- 1) 岩切 翔吾：Time course study of gene expression changes in Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* with lymphocystis cells formation by a microarray experiment
- 2) 楠嶋 幸恵：Extracellular proteases are potential virulence factors in *Miamiensis avidus* causing scuticociliatosis in cultured fish

7. 2 講義・集中講義（平成23年度）**環境動態解析部門****武岡 英隆**

- 1) 平成23年度前期, 環境科学セミナー I, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 2) 平成23年度前期, コース英語 I, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 3) 平成23年度前期, 海洋学通論, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース・理学部
- 4) 平成23年度前期, 環境建設工学特別演習 I, 愛媛大学工学部
- 5) 平成23年度前期, 地球科学, 愛媛大学工学部
- 6) 平成23年度前期, 人類と環境, 海と地球環境, 愛媛大学共通教育
- 7) 平成23年度前期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 8) 平成23年度後期, 環境科学セミナー IV, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 9) 平成23年度後期, 環境学通論, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース・理学部
- 10) 平成23年度後期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 11) 平成23年度後期, 海洋物理学, 愛媛大学工学部
- 12) 平成23年度後期, 環境建設工学特別演習 II, 愛媛大学工学部
- 13) 平成23年度前期, 沿岸海洋学特論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 平成23年度前後期, 環境建設工学ゼミナール, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 平成23年度前後期, 環境建設工学特別実験, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 16) 平成23年度後期, 海洋環境工学特論 III, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

磯辺 篤彦

- 1) 平成23年度前期, 地球科学野外研究, 愛媛大学理学部
- 2) 平成23年度前期, 地球環境学序論, 愛媛大学理学部
- 3) 平成23年度前期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 4) 平成23年度前期, 海洋物理学 I, 愛媛大学理学部
- 5) 平成23年度前期, 地球科学 II, 愛媛大学共通教育
- 6) 平成23年度後期, 地球科学特別演習 I, 愛媛大学理学部
- 7) 平成23年度後期, 地球科学課題研究, 愛媛大学理学部
- 8) 平成23年度後期, 海洋物理学実験, 愛媛大学理学部
- 9) 平成23年度後期, 地球科学特別演習 II, 愛媛大学理学部
- 10) 平成23年度前期, 地球科学高等実験 I, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 平成23年度前期, 地球科学高等実験 V, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 平成23年度前期, 地球科学フィールド高等実習 I, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 平成23年度前期, 地球科学フィールド高等実習 V, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 平成23年度後期, 地球科学高等実験 III, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 平成23年度後期, 地球科学フィールド高等実習 III, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程

郭 新宇

- 1) 平成23年度前期, 地球科学野外研究, 愛媛大学理学部
- 2) 平成23年度後期, 地球科学特別演習 I, 愛媛大学理学部
- 3) 平成23年度前期, 沿岸海洋学, 愛媛大学理学部・愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 4) 平成23年度後期, 地球科学課題研究, 愛媛大学理学部
- 5) 平成23年度後期, 海洋物理学実験, 愛媛大学理学部
- 6) 平成23年度後期, 地球科学特別演習 II, 愛媛大学理学部
- 7) 平成23年度後期, 海洋物理学 II, 愛媛大学理学部・愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 8) 平成23年度前期, 大気海洋科学特論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 9) 平成23年度前期, 地球科学高等実験 I, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 10) 平成23年度前期, 地球科学高等実験 V, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 平成23年度前期, 地球科学フィールド高等実習 I, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 平成23年度前期, 地球科学フィールド高等実習 V, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 平成23年度後期, 地球科学高等実験 III, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 平成23年度後期, 地球科学フィールド高等実習 III, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 平成23年度前期, 大気海洋力学, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程
- 16) 平成23年度前後期, 地球進化学特論VIII, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程
- 17) 平成23年度前期, 輸送・環境システム特別講義IV、広島大学大学院工学研究科輸送・環境システム専攻（集中講義）

吉江 直樹

- 1) 前期 工学部環境建設工学科 2回生 微分方程式
- 2) 前期 工学部環境建設工学科 3回生 環境建設特別演習 I
- 3) 後期 工学部環境建設工学科 1回生 地球環境学
- 4) 後期 工学部環境建設工学科 3回生 海洋環境学
- 5) 後期 工学部環境建設工学科 3回生 環境建設特別演習 II
- 6) 後期 工学部環境建設工学科 1回生 社会デザイン特別演習 I

加 三千宣

- 1) 平成23年度前期, 海洋学通論, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース・理学部

化学汚染・毒性解析部門

講 義

田辺 信介

- 1) 平成23年度前期, 人類と環境, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成23年度前期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 3) 平成23年度後期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 4) 平成23年度前後期, 環境保全セミナー, 愛媛大学農学部
- 5) 平成23年度前期, 海洋環境学, 愛媛大学農学部
- 6) 平成23年度後期, 環境化学, 愛媛大学農学部
- 7) 平成23年度前期・後期, 卒業論文, 愛媛大学農学部
- 8) 平成23年度前期, 環境科学セミナー I, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 9) 平成23年度前期, 環境科学セミナー III, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 10) 平成23年度前期, Environmental Toxicology and Chemistry, 愛媛大学大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 11) 平成23年度前期, Advanced Lab Work IV, 愛媛大学大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 12) 平成23年度前期, Advanced Practicum IV, 愛媛大学大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 13) 平成23年度前期, Advanced Seminar IV, 愛媛大学大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 14) 平成23年度前期, 有害物質動態論, 愛媛大学大学院農学研究科
- 15) 平成23年度前期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 16) 平成23年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 17) 平成23年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 18) 平成23年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 19) 平成23年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 20) 平成23年度前期, 環境汚染論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 21) 平成23年度前期, 生物学課題実験 I, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 22) 平成23年度後期, 生物学課題実験 II, 愉媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 23) 平成23年度前期, 生態環境科学特論 II, 愉媛大学大学院理工学研究科博士後期課程
- 24) 平成23年度前期・後期, 環境機能科学特別研究, 愉媛大学大学院理工学研究科博士後期課程
- 25) 平成23年度前期・後期, 環境機能科学特別演習, 愉媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

岩田 久人

- 1) 平成23年度前後期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成23年度後期, 環境学通論, 愉媛大学理学部
- 3) 平成23年度後期, 環境学通論, 愉媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 4) 平成23年度前後期, 生態化学実験, 愉媛大学農学部
- 5) 平成23年度後期, 環境化学実験, 愉媛大学農学部
- 6) 平成23年度前期, 環境毒性学, 愉媛大学農学部・理学部・スーパーサイエンス特別コース
- 7) 平成23年度前後期, 環境保全セミナー, 愉媛大学農学部
- 8) 平成23年度前期, 後期, 卒業論文, 愉媛大学農学部
- 9) 平成23年度後期, 環境科学コース英語 II, 愉媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 10) 平成23年度後期, 環境科学コースセミナーIV, 愉媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 11) 平成23年度後期, 環境分子毒性学, 愉媛大学大学院農学研究科
- 12) 平成23年度後期, 生物環境保全学研究, 愉媛大学大学院農学研究科
- 13) 平成23年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愉媛大学大学院農学研究科
- 14) 平成23年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愉媛大学大学院農学研究科
- 15) 平成23年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愉媛大学大学院農学研究科

- 16) 平成23年度前後期, 生物環境保全学実験Ⅱ, 愛媛大学大学院農学研究科
- 17) 平成23年度後期, 環境分子毒性学, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程

高橋　真

- 1) 平成23年度前期, 基礎生物化学, 愛媛大学理学部
- 2) 平成23年度前期, 生物学ゼミナールⅠ, 愛媛大学理学部
- 3) 平成23年度後期, 生物学展望, 愛媛大学理学部
- 4) 平成23年度後期, 生物学課題研究, 愛媛大学理学部
- 5) 平成23年度後期, 環境学概論, 愛媛大学理学部およびスーパーサイエンス特別コース
- 6) 平成23年度前期, 生態環境化学, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 7) 平成23年度前期, 生物学課題実験Ⅰ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 8) 平成23年度後期, 生物学課題実験Ⅱ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 9) 平成23年度前期, 生態環境科学特論Ⅴ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程
- 10) 平成23年度前期・後期, 環境学ゼミナール, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 平成23年度前期・後期, 環境学課題研究, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 平成23年度前期・後期, 環境機能科学特別研究, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程
- 13) 平成23年度前期・後期, 環境機能科学特別演習, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

仲山　慶

- 1) 平成23年度後期, 生物環境保全学実験Ⅰ, 愛媛大学農学部
- 2) 平成23年度後期, 環境基礎数学, 愛媛大学農学部
- 3) 平成23年度前期・後期, 卒業論文, 愛媛大学農学部
- 4) 平成23年度前期, SSC 共通セミナー, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 5) 平成23年度後期, 課題研究A, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 6) 平成23年度前後期, 生物環境保全学演習Ⅰ, 愛媛大学大学院農学研究科
- 7) 平成23年度前後期, 生物環境保全学演習Ⅱ, 愛媛大学大学院農学研究科
- 8) 平成23年度前後期, 生物環境保全学実験Ⅰ, 愛媛大学大学院農学研究科
- 9) 平成23年度前後期, 生物環境保全学実験Ⅱ, 愛媛大学大学院農学研究科

磯部 友彦

- 1) 平成23年度前期, 課題研究C, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 2) 平成23年度後期, 課題研究C, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース

野見山 桂

- 1) 平成23年度後期, 生物環境保全学実験Ⅰ, 愛媛大学農学部

集中講義

田辺 信介

- 1) 平成23年度後期, 生物濃縮論, 熊本県立大学環境共生学部

生態系解析部門

講 義

鈴木 聰

- 1) 平成23年度前期, 人類と環境, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成23年度前期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 3) 平成23年度後期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 4) 平成23年度前期, 海洋分子生態学, 愛媛大学理学部
- 5) 平成23年度前期, 環境生化学, 愛媛大学農学部
- 6) 平成23年度後期, 環境学通論, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース

- 7) 平成23年度後期, コース英語, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 8) 平成23年度前期, 環境科学セミナーⅢ, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 9) 平成23年度後期, 環境科学セミナーⅡ, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 10) 平成23年度前期, 分子生態学実験, 愛媛大学農学部
- 11) 平成23年度通年, 分子生態学実習, 愛媛大学農学部
- 12) 平成23年度後期, 環境分子生物学, 愛媛大学大学院農学研究科
- 13) 平成23年度後期, 水圏微生物学, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 平成23年度前後期, 生物地球圏科学ゼミナールⅠ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 平成23年度前後期, 生物地球圏科学ゼミナールⅡ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 16) 平成23年度前後期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 17) 平成23年度前後期, 生物環境保全学演習Ⅰ, 愛媛大学大学院農学研究科
- 18) 平成23年度前後期, 生物環境保全学演習Ⅱ, 愛媛大学大学院農学研究科
- 19) 平成23年度前後期, 生物環境保全学実験Ⅰ, 愛媛大学大学院農学研究科
- 20) 平成23年度前後期, 生物環境保全学実験Ⅱ, 愛媛大学大学院農学研究科
- 21) 平成23年度後期, 生態環境科学特論Ⅲ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程
- 22) 平成23年度前期, フィールドワーク, 愛媛大学大学院理工学研究科アジア環境学特別コース
- 23) 平成23年度後期, フィールドワーク, 愛媛大学大学院理工学研究科アジア環境学特別コース
- 24) 平成23年度後期, 微生物学, 聖カタリナ女子高等学校専攻科

北村 真一

- 1) 平成23年度前期, 海洋生物学, 愛媛大学理学部
- 2) 平成23年度前期, 海洋生物学実習, 愛媛大学理学部
- 3) 平成23年度後期, 生物学課題研究, 愛媛大学理学部
- 4) 平成23年度前期, 生物学ゼミナールⅠ, 愛媛大学理学部
- 5) 平成23年度後期, 生物学ゼミナールⅡ, 愛媛大学理学部
- 6) 平成23年度後期, 生物学展望, 愛媛大学理学部
- 7) 平成23年度後期, 課題研究, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 8) 平成23年度前期, 共通セミナー, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 9) 平成23年度後期, 水圏微生物学, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 10) 平成23年度前期, フィールドワーク, 愛媛大学大学院理工学研究科アジア環境学特別コース
- 11) 平成23年度後期, フィールドワーク, 愛媛大学大学院理工学研究科アジア環境学特別コース
- 12) 平成23年度前期, 高等実習Ⅰ 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 平成23年度後期, 微生物学, 愛媛大学理学部

金本自由生

- 1) 平成23年前期, 海洋生物学実習, 愛媛大学理学部
- 2) 平成23年前期, 基礎生物学演習, 愛媛大学理学部
- 3) 平成23年前期, 生物学ゼミナールⅠ, 愛媛大学理学部
- 4) 平成23年後期, 生物学ゼミナールⅡ, 愛媛大学理学部

横川 太一

- 1) 平成23年度前期, 海洋分子生態学(分担), 愛媛大学理学部
- 2) 平成23年度前期, 生物環境保全学実験Ⅲ(分担), 愛媛大学農学部
- 3) 平成23年度前後期, フィールドワーク(分担), 愛媛大学大学院理工学研究科アジア環境学特別コース

集中講義

北村 真一

- 1) 平成23年度, 細胞培養工学, 福井県立大学

8. 設 備

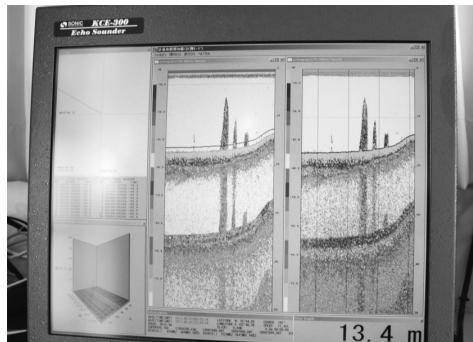


(平成23年度導入)

環境動態解析部門

1) 計量魚群探知システム (ソニック社 KCE-300)

最新型の小型軽量計量魚群探知システム。38kHz と 120kHz の 2 種類の超音波を用いて、海中の魚群量や魚のサイズ・密度、藻場の密度などを連続的に測定することが可能。



これまで魚など高次栄養段階の生態系の調査には、手間とコストのかかる漁網による観測が主体だったが、最近、魚の生物量を定量的に観測できる計量魚群探知機システムが実用化され、これまで不可能だった高次生態系の広域高精度観測が可能になり、魚の資源量調査や生態系モデルの校正用データの取得に大きな期待がもたれている。

2) 水中ロボット (R O V) システム (Seabotix 社 LBV-150)

最新型の小型軽量水中ロボットシステム。一般的な光学カメラによる水中探査だけではなく、透明度の低い沿岸域に適応するために超音波による画像撮影装置 (Blueview 社音響カメラ P900-90) を装備している。また、



マニピュレータと対応する試料採取装置により、ピンポイントでの試料採取が可能である。(例えば、海底から湧き上がる地下水の採取など) その他に、計量魚群探知機と組み合わせて運用することにより、魚群探知機によりモニタリングされた魚や藻場の種類を特定することが可能。

化学汚染・毒性解析部門

1) 12連型窒素濃縮装置：試料抽出液を分画・精製後、最終溶液としてクロマトグラフ分析用に濃縮するために用いる。



- 2) 薬用保冷庫：分析試料の整理保管、および分析用標準物質を保管するための冷蔵・冷凍庫。



- 3) 真空制御ユニット：試料抽出溶液を真空濃縮する際に真空度を調整するために用いる。



- 4) 真空ポンプ：試料抽出溶液を真空濃縮する際に高真空を得るために用いる。



- 5) マイクロ波試料前処理装置：環境・生物試料を加熱・加圧条件下で効率的に分解するための装置。



8. 設 備

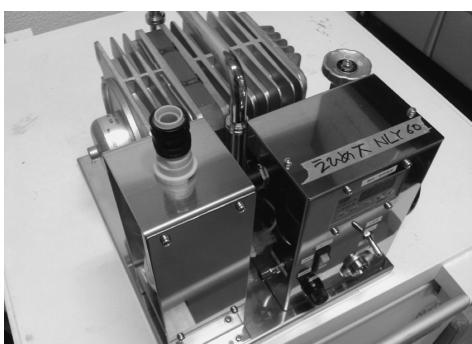
- 6) ハイボリュームエアサンプラー：大容量の大気サンプルの吸引により、微量元素・ダイオキシン類等の有害物質を捕集するための装置。



- 7) 恒温培養器：環境試料からの重金属溶出実験に用いる機器。



- 8) MCI サンプラー：マルチノズルカスケードインパクターを用いて、大気中微粒子を粒径により分級し、採取するための装置。



- 9) 流量計測ユニット：MCI サンプラーに接続し、自動的に大気試料の吸引流量を計測・記録するための装置。



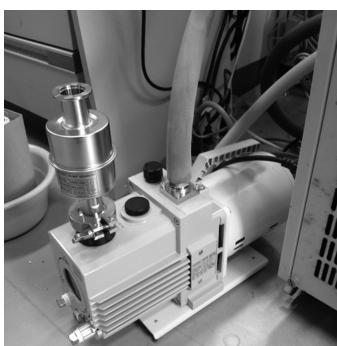
10) ローボリュームポンプ：低～中容量の大気サンプルの吸引により、揮発性有機物質等の有害物質を採取するための装置。



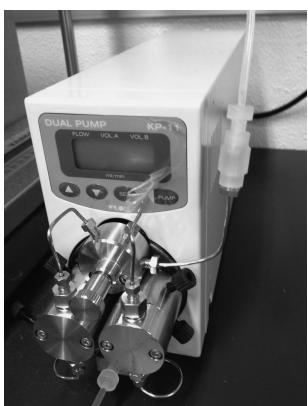
11) ハンディタイプ pH メーター D-55S (pH, ORP, 溶存酸素)：天然水の pH, 酸化還元電位, 溶存酸素量を測定する機器。



12) 油回転真空ポンプ（耐食性直結型）：凍結乾燥器内を中程度の真空状態に保つための機器。



13) 中・高圧送液ポンプ：ゲル浸透クロマトグラフィーによって試料抽出液から生体高分子等の夾雑物質を取り除く際に、移動相の送液のために用いる。



9.広報



(平成22年度)

9. 1 CMES ニュース・グローバル COE ニュース

CMES ニュース No. 24

目 次

CMES 新任教員紹介

－観測とモデリングの融合・研究分野の壁を超えて－

環境動態解析部門 講師 吉江 直樹

科学研究費採択課題 研究進捗報告

最先端・次世代研究開発支援プログラム

「複合汚染に対する微生物遺伝子応答の網羅解析による新規毒性影響評価技術の開発」

生態系解析部門 COE 准教授 濱村奈津子

若手 (B) 「有機ハロゲン代謝物による陸棲哺乳類の汚染実態解明」

化学汚染・毒性解析部門 講師 野見山 桂

平成23年度 科学研究費採択状況

編集後記

CMES ニュース No. 25

目 次

第4回環境科学合同フォーラム開催報告

生態系解析部門 教授 鈴木 聰

紫綬褒章受章報告「紫綬褒章を受章して」

化学汚染・毒性解析部門 教授 田辺 信介

活動・参加報告「米国滞在 国際共同研究」

環境動態解析部門 上級研究員 加 三千宣

学会参加報告「Dioxin 2011 参加報告」

化学汚染・毒性解析部門 講師 野見山 桂

編集後記

グローバル COE ニュース No. 8

目 次

平成22年度グローバル COE プログラム研究成果報告会 兼 若手・独創的研究費課題報告会 開催報告

第3回 『グローバル COE キャリアパス講座』 開催報告

第30回 『グローバル COE 特別セミナー』 開催報告

第31回 『グローバル COE 特別セミナー』 開催報告

第32回 『グローバル COE 特別セミナー』 開催報告

第33回 『グローバル COE 特別セミナー』 開催報告

第15回 『グローバル COE 若手の会特別セミナー』 開催報告

第16回 『グローバル COE 若手の会特別セミナー』 開催報告

COE 研究員の自己紹介

佐藤 寛之・三崎 健太郎・管 夏海

編集後記

グローバル COE ニュース No. 9

目 次

グローバル COE 終了のご挨拶

第6回 『グローバル COE 国際シンポジウム』 開催報告

表彰報告

Gananasekaran Devanathan・Kwadwo Ansong Asante

海外研修報告
編集後記

吉江 直樹・阿草 哲朗
江口 哲史・金 受珍・中島 悅子・國弘 忠生

9. 2 報道関係

環境動態解析分野

武岡 英隆

- 1) 平成23年8月4日：漂着ごみ処理県計画策定へ対策推進協初会合、愛媛新聞
- 2) 平成23年12月17日：宇和海の漁業考える一潮流・温暖化の影響解説、愛媛新聞

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 週刊文春、平成23年4月28日、原発と放射能
- 2) サンデー毎日、平成23年5月1日、もう一つの汚染 世界が懸念する PCB とダイオキシン
- 3) 毎日新聞、平成23年5月15日、海洋汚染の実態調査 クジラ・イルカ解剖体験 愛媛大原発事故後の個体と比較
- 4) 愛媛新聞、平成23年6月15日、紫綬褒章 愛媛大学沿岸環境科学研究センター 田辺信介さん 寝食惜しみ世界目指す
- 5) 産経新聞、平成23年6月15日、紫綬褒章に田辺・愛媛大教授、世界一の研究者を目指す
- 6) 每日新聞、平成23年6月15日、紫綬褒章 環境学者の田辺信介さん 放射性物質以外にも警鐘「予防原則で議論を」「学者は社会的使命を」
- 7) 愛媛新聞、平成23年6月16日、津波汚染探りたい 田辺愛媛大教授 受章で抱負語る
- 8) 宝島、平成23年6月25日、今、海の汚染はどうなっているのか
- 9) 讀賣新聞、平成24年2月19日、海鳥 影響調査ピンチ

岩田 久人

- 1) 愛媛大学最先端研究紹介 Infinity で研究内容紹介 <http://www.ehime-u.ac.jp/research/infinity/index.html>

高橋 真

- 1) I-NET (いであ株式会社)、平成23年5月、現場型大容量水試料採取濃縮装置—外洋 POPs 調査への適用—、

9. 3 講座、講演会等

環境動態解析分野

- 1) 武岡 英隆：環境教育学、生態系II—海（命を育む潮の流れ）、愛媛大学附属高校、7月14日
- 1) 武岡 英隆：沿岸環境科学研究センターの歩み—瀬戸内海から世界へ—、日本学術会議中国・四国会議公開学術講演会、愛媛大学、7月23日
- 2) 武岡 英隆：宇和海の環境とその長期変化、宇和海水産構想部会設置記念講演、宇和島市、12月23日
- 3) 武岡 英隆：クラゲ大量発生と集群の謎、未来の科学者養成講座、愛媛大学、1月6日

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺 信介：環境ホルモンについて、愛媛県立松山南高等学校スーパーサイエンスハイスクール高大連携授業、松山市、1月。
- 2) 田辺 信介：化学物質と環境、平成22年度愛媛大学附属高等学校における高大連携授業「環境教育学」、松山市、1月。
- 3) 田辺 信介：環境ホルモンについて、日本しろあり対策協会四国支部通常総会、高知市、2月。

- 4) 田辺 信介：紫綬褒章受章記念講演「研究者の一分」，春の褒章受章をお祝いする会，愛媛大学，松山市，7月。
- 5) 田辺 信介：科研費を獲得して大学の未来を開拓，第2回愛媛大学学術フォーラム，松山市，7月，資料集，55-63.
- 6) 田辺 信介：愛媛大学の先端研究～有害物質による地球規模の環境汚染と生物影響～，第17回アガベグループ全体研修会，福岡市，9月。
- 7) 田辺 信介：化学物質と環境，平成23年度愛媛大学附属高等学校における高大連携授業「環境教育学」，松山市，12月。
- 8) 田辺 信介：内分泌かく乱作用が疑われる生物蓄積性化学物質の野生生物汚染—新規POPsによる日本およびアジア地域の汚染実態—，平成23年度化学物質の内分泌かく乱作用に関する公開セミナー（EXTEND 2010），東京，12月，プログラム，51-62.
- 9) 高管 卓三：極微量分析技術について，平成23年度香川県計量協会環境測定分析精度管理事業 分析講習会，高松，11月。
- 10) 岩田 久人：環境汚染物質と野生動物 -リスクを評価する方法- 第16回生態学琵琶湖賞記念講演，大津，7月。

10. 調査実習船「いさな」運航状況



(平成23年度)

船長：大西秀次郎

日付	運行海域	目的
H23.5.6	北条沖	工学部環境建設学科の特別演習Ⅰにおける海洋観測
H23.5.16	北条沖	卒業研究
H23.5.17	森漁港周辺	採水、採泥作業
H23.5.25	伊予市沖	プラスチック微碎片、プランクトンのネット採取
H23.6.6	北条沖	卒業研究
H23.6.13	森漁港沖	学生実習
H23.6.21～23	別府湾	セディメントトラップ設置、採水作業
H23.6.24	森漁港沖	学生実習
H23.7.4	北条沖	卒業研究
H23.7.13	伊予灘	研究試料の採取
H23.7.14	法華津湾	バルーン空撮観測、プラスチック細微片採取
H23.7.23～8.29	宇和海	急潮集中観測
H23.7.31	三瓶湾、法華湾	SSC 学生実習、クラゲ採取および分布調査
H23.8.9	宇和海	バルーン空撮観測、細微片採取
H23.9.13	宇和海	プラスチック細微片採取
H23.9.29	別府湾	セディメントトラップ設置
H23.10.4	北条沖	卒業研究
H23.10.24	北条沖	卒業研究
H23.10.26	伊予灘	ROV テスト航海、松山南校 SSH 研究室体験
H23.11.8	森漁港周辺	微生物サンプル採取のため
H23.12.13	別府湾	セディメントトラップ設置
H24.1.27	森漁港周辺	堆積物試料の採取
H24.3.15	松山沖	底生生物調査
H24.3.22	別府湾	セディメントトラップ設置

11. 研究員名簿

(研究員：沿岸環境科学研究センター規則（14章参照）に基づき任命された学内の協力研究者)

(平成23年度)

氏 名	所 属	職	研 究 課 題	主として連携する研究分野
伊福 誠	理工学研究科生産環境工学専攻	教 授	エスチャリーにおける混合と循環に関する研究	環境動態解析部門
畠田 佳男	理工学研究科生産環境工学専攻	講 師	沿岸波浪に関する研究	環境動態解析部門
渡邊 政広	理工学研究科生産環境工学専攻	教 授	都市域から沿岸海域への汚濁流出に関する研究	環境動態解析部門
中村 孝幸	理工学研究科生産環境工学専攻	准教授	沿岸構造物に関する研究	環境動態解析部門
三宅 洋	理工学研究科生産環境工学専攻	講 師	流域の自然環境および人間活動が河川生物群集に及ぼす影響の解明群集	環境動態解析部門
井内 國光	理工学研究科生産環境工学専攻	准教授	海岸地下水に関する研究	環境動態解析部門
森脇 亮	理工学研究科生産環境工学専攻	准教授	大気環境に関する研究	環境動態解析部門
堀 利栄	理工学研究科数理物質科学専攻	准教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	環境動態解析部門
高瀬 恵次	農学部生物資源学科	教 授	瀬戸内海流域の水収支	環境動態解析部門
四宮 博人	医学系研究科医学専攻	准教授	環境変動に伴う沿岸生態系変動の微生物学的解析	環境動態解析部門
堤 純	法文学部人文学科	准教授	GISによる瀬戸内海沿岸域の土地利用解析	環境動態解析部門
川瀬久美子	教育学部社会科教育	准教授	珪藻分析に基づく瀬戸内海の古環境変遷の解明	環境動態解析部門
三浦 猛	南予水産研究センター	教 授	環境汚染物質が魚類の生殖に与える影響の機構解明	化学汚染・毒性解析部門
菅原 卓也	農学部生物資源学科	准教授	環境化学物質の生体リスク評価、特に免疫系に及ぼす化学物質の影響の解析	化学汚染・毒性解析部門
柿沼 喜己	農学部生物資源学科	教 授	イオンホメオスタシスへの化学物質の影響	化学汚染・毒性解析部門
村上 安則	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	環境毒物が脊椎動物の神経系ならびにその発生過程に及ぼす影響の解析	化学汚染・毒性解析部門
藤野 貴広	総合科学研究支援センター	准教授	脂質代謝に於ける脂溶性難分解毒性物質の動態	化学汚染・毒性解析部門

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
佐野 栄	教育学部理科教育	教 授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	生態系解析部門
佐藤 成一	理工学研究科環境機能科学専攻	教 授	淡水性藻類の細胞および細胞器官の形態形成	生態系解析部門
小南 哲也	理工学研究科環境機能科学専攻	教 授	海産動物である棘皮動物(特にウニ)を用いた発生学的研究	生態系解析部門
中島 敏幸	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	水界微生物群集の種間相互作用の解析	生態系解析部門
佐藤 康	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	水生植物のリグニン合成・蓄積機構の研究	生態系解析部門
金田 剛史	理工学研究科環境機能科学専攻	講 師	藻類の形態形成に関する研究	生態系解析部門
井上 幹生	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	河川性魚類の生息環境の解析	生態系解析部門
畠 啓生	理工学研究科環境機能科学専攻	助 教	沿岸魚類群集の解析	生態系解析部門

12. 客員研究員名簿



(客員研究員：沿岸環境科学研究センター規則（14章参照）に基づき委嘱された学外の協力研究者)

(平成23年度)

氏 名	所 属	職	研 究 課 題	主として連携する研究分野
磯田 豊	北海道大学大学院水産科学研究院	准教授	沿岸域の流動とモニタリングに関する研究	環境動態解析部門
原島 省	独立行政法人国立環境研究所 水土壌圈環境研究領域	室 長	瀬戸内海のモニタリングに関する研究	環境動態解析部門
門谷 茂	北海道大学大学院水産科学研究院 海洋環境科学分野	教 授	瀬戸内海の栄養塩動態に関する研究	環境動態解析部門
塚本 秀史	弓削商船高等専門学校 情報工学科	教 授	燧灘の海洋構造に関する研究	環境動態解析部門
橋本 俊也	広島大学大学院生物圏科学研究科	准教授	生態系モデルに関する研究	環境動態解析部門
高橋 曜	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター地質情報研究部門沿岸海洋研究グループ	主任研究員	瀬戸内海の流動の数値シミュレーションに関する研究	環境動態解析部門
森本 昭彦	名古屋大学地球水循環研究センター	准教授	豊後水道の水温予報に関する研究	環境動態解析部門
柳 哲雄	九州大学応用力学研究所 東アジア海洋大気環境研究センター	教 授	沿岸海域の物質循環に関する研究	環境動態解析部門
松野 健	九州大学応用力学研究所 地球環境力学部門	教 授	東シナ海の流動と物質循環に関する研究	環境動態解析部門
市川 香	九州大学応用力学研究所 地球環境力学部門	准教授	黒潮の沿岸海域への影響に関する研究	環境動態解析部門
清水 学	独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所	グループ長	東シナ海の海洋構造に関する研究	環境動態解析部門
才野 敏郎	独立行政法人海洋研究開発機構 地球環境変動領域	プログラマディレクター	沿岸海域における基礎生産の変動とその制御要因に関する研究	環境動態解析部門
速水 祐一	佐賀大学低平地沿岸海域研究センター	准教授	沿岸海域における物質輸送、物理生物相互作用に関する研究	環境動態解析部門
木村 伸吾	東京大学大学院新領域創成科学研究科 環境学研究系	教 授	海洋生物資源解析に関する研究	環境動態解析部門
井内 美郎	早稲田大学 人間科学学院	教 授	瀬戸内海の堆積物に関する研究	環境動態解析部門
兼田 淳史	福井県立大学 海洋生物資源学部	講 師	豊後水道の物理環境に関する研究	環境動態解析部門

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
奈良 正和	高知大学教育研究部自然 科学系理学部門	准教授	瀬戸内海の海底堆積物と底生動物に関する研究	環境動態解析部門
山口 一岩	岡山理科大学工学部生体 医工学科	講師	人間活動が沿岸環境に及ぼす影響に関する研究	環境動態解析部門
柴田 康行	独立行政法人国立環境研 究所 化学環境研究領域	領域長	多環芳香族炭化水素、有機スズ化合物、重金属類およびPOPs関連化学物質の環境モニタリング及び環境動態の解明	化学汚染・毒性解析部門
功刀 正行	東京理工大学 環境保全室	放射線 施設管 理部門 長	有害化学物質による海洋汚染の動態解 明	化学汚染・毒性解析部門
堀口 敏宏	独立行政法人国立環境研 究所環境リスク研究セン ター	主 席 研究員	巻貝類の内分泌搅乱の実態及び機構の解明	化学汚染・毒性解析部門
森 千里	千葉大学大学院医学研究 院 環境生命医学領域	教 授	内分泌搅乱物質の人体汚染における生 殖機能や次世代に対する影響	化学汚染・毒性解析部門
小宮山政敏	千葉大学大学院医学研究 院 環境生命医学領域	准教授	GFPマウスを用いた精子形成障害評価 法の開発と生殖障害のメカニズムの解 析	化学汚染・毒性解析部門
藤瀬 良弘	財団法人日本鯨類研究所	理 事	鯨類と海洋生態系における環境化学物 質の蓄積特性と鯨類生態の解明に関す る研究	化学汚染・毒性解析部門
高田 秀重	東京農工大学農学部 環 境資源科学科	教 授	東南アジア地域における微量有機汚染 物質の分布・発生源・動態の解明	化学汚染・毒性解析部門
井口 泰泉	自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエン スセンター	教 授	内分泌搅乱物質	化学汚染・毒性解析部門
大嶋 雄治	九州大学大学院農学研究 院生物機能科学部門	准教授	水生生物における化学物質の影響	化学汚染・毒性解析部門
有薗 幸司	熊本県立大学 環境共生 学部	教 授	環境化学物質の生態毒性に関する研究	化学汚染・毒性解析部門
國頭 恒	信州大学理学部 物質循 環学科	准教授	微量元素の環境モニタリングおよび環 境動態の解明	化学汚染・毒性解析部門
渡邊 泉	東京農工大学大学院 共 生科学技術研究部	准教授	野生生物の微量元素汚染および毒性影 響の解明	化学汚染・毒性解析部門
山田 格	国立科学博物館 動物研 究部	室 長	海棲哺乳動物の生態に関する研究	化学汚染・毒性解析部門
滝上 英孝	国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究 センター	室 長	バイオアッセイ／化学分析を用いた残 留性化学物質の包括評価と管理手法の開 発	化学汚染・毒性解析部門
篠原 亮太	熊本県立大学 環境共生 学部	教 授	PCBs代謝物の分析法開発と環境動態 解析および生態リスク評価	化学汚染・毒性解析部門
堤 裕昭	熊本県立大学 環境共生 学部	教 授	有明海の生物生産と海洋環境保全	化学汚染・毒性解析部門
吉水 守	北海道大学大学院水産科 学研究院	教 授	海洋生物のウイルス性疾病の制御に關 する研究	生態系解析部門
小池 獻夫	琉球大学	監 事	海洋中の生元素動態に関する研究	生態系解析分野

12. 客員研究員名簿

氏 名	所 属	職	研 究 課 題	主として連携する研究分野
木暮 一啓	東京大学大気海洋研究所 海洋生態系動態部門	教 授	海洋微生物の生理生態学的研究	生 態 系 解 析 部 門
永田 俊	東京大学大気海洋研究所 海洋化学部門	教 授	水圏における溶存態有機物の動態に関する微生物群集の多様性と機能に関する研究	生 態 系 解 析 部 門
上 真一	広島大学 (大学院生物圏 科学研究科)	理事・ 副学長 (教授)	海洋動物プランクトンの生産生態学的研究	生 態 系 解 析 部 門
深見 公雄	高知大学 (大学院黒潮圏 海洋科学研究科)	理事 (教授)	海洋物質循環における微生物の役割と相互作用に関する研究	生 態 系 解 析 部 門
木下 泉	高知大学教育研究部総合 科学系	教 授	仔稚魚の形態と生態に関する研究	生 態 系 解 析 部 門
伊谷 行	高知大学教育研究部人文 社会科学系	准教授	海洋生物の共生に関する研究	生 態 系 解 析 部 門
野中 里佐	獨協医科大学 微生物学 講座	助 教	薬剤耐性菌の環境中動態に関する研究	生 態 系 解 析 部 門
松岡 篤	新潟大学理学部 地質科 学科	教 授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —プランクトンに関する研究—	生 態 系 解 析 部 門
中野 伸一	京都大学生態学研究セン ター	教 授	海洋食物網の動態解明	生 態 系 解 析 部 門
三島 康史	独立行政法人産業技術総 合研究所中国センターバイ オマス研究センター	主 任 研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —化学的側面に関する研究—	生 態 系 解 析 部 門
松岡 敦充	長崎大学 (環東シナ海海洋環境資 源研究センター)	理 事 (セン ター長)	瀬戸内海の底質環境に関する 総合研究—プランクトンに関する研究 —	生 態 系 解 析 部 門
上田 拓史	高知大学教育研究部総合 科学系	教 授	海洋生物に関する研究	生 態 系 解 析 部 門
松田 博貴	熊本大学大学院 自然科 学研究科	教 授	浅海域の海底地形解析に関する研究	生 態 系 解 析 部 門
山田 佳裕	香川大学農学部 応用生 物科学科	准教授	水域生態系における物質循環	生 態 系 解 析 部 門
大林由美子	横浜国立大学大学院工学 研究院	研究教 員	生物地球化学的物質循環における海洋 微生物群集の機能に関する研究	生 態 系 解 析 部 門

13. 運営委員会



(平成23年度)

委員長	武岡 英隆	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	牧 秀明	法文学部教授
委 員	家山 博史	教育学部教授
委 員	村上 安則	大学院理工学研究科（理）准教授
委 員	今村 健志	大学院医学系研究科教授
委 員	中村 孝幸	大学院理工学研究科（工）准教授
委 員	逸見 彰男	農学部教授
委 員	田辺 信介	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	鈴木 聰	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	岩田 久人	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	磯辺 篤彦	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	大森 浩二	沿岸環境科学研究センター准教授
委 員	郭 新宇	沿岸環境科学研究センター准教授
委 員	高橋 真	沿岸環境科学研究センター准教授
委 員	北村 真一	沿岸環境科学研究センター准教授
委 員	渡邊 博善	研究支援部長（役職指定）

14. センター規則および運営委員会規程 ● ● ● ● ● ● ● ● ●

愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則

平成16年4月1日
規則第197号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同施設として、沿岸域の環境科学に関する研究及び教育を行うことにより、沿岸環境科学研究の総合的推進を図り、併せて地域社会の発展に貢献することを目的とする。

(研究部門)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の研究部門を置く。

- (1) 環境動態解析部門
- (2) 化学汚染・毒性解析部門
- (3) 生態系解析部門
- (4) 国際・社会連携部門

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

(先端研究推進会議)

第5条 センターの業務に関する重要な事項は、愛媛大学先端研究・学術推進機構先端研究推進会議（以下「先端研究推進会議」という。）において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(センター長)

第7条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任教員のうちから先端研究推進会議が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第8条 センターの専任教員は、先端研究推進会議が推薦し、学長が選考する。

(職務)

第9条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 センターの専任教員は、センター長の職務を助け、センターの業務を処理する。
3 センター職員は、センターの業務に従事する。

(研究員)

第10条 センターに、研究員を置くことができる。

2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。
3 研究員は、本学の専任教員のうちから運営委員会の推薦により、学長が任命する。
4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第11条 学長は、他の大学又は公設試験研究機関の研究者のうちから運営委員会の推薦により、センターの研究計画に基づき研究に従事する者を客員研究員として委嘱することができる。

2 客員研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。
(利用)

第12条 センターの利用に関する規程は、別に定める。
(生物環境試料バンク)

第13条 センターに、生物・環境試料を収集管理し、学内外の研究に供する生物環境試料バンク（以下「バンク」という。）を置く。

2 バンクに関する規程は、別に定める。
(研究生)

第14条 センターは、研究生を受け入れることができる。
2 研究生の入学選考は、運営委員会で行う。

(事務)

第15条 センターに関する事務は、研究支援部研究拠点事務課において処理する。

(雑則)

第16条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年6月9日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月14日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成22年9月7日から施行し、平成22年7月7日から適用する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会規程

平成16年4月1日
規則第26号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の運営に係る基本事項に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
 - (2) センターの講師以上の専任教員
 - (3) 各学部の専任教員 各1人
 - (4) 研究支援部長
 - (5) その他委員長が必要と認めた者
- 2 前項第3号の委員は、各学部長が推薦し、学長が任命する。
- 3 第1項第5号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。
- 4 第1項第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

- 第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。
- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
 - 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

- 第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。
- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

- 第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聞くことができる。

(専門委員会)

- 第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。
- 2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

- 第8条 運営委員会に関する事務は、研究支援部研究拠点事務課において処理する。

(雑則)

- 第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規

平成16年4月1日
制 定

(趣旨)

- 第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）規則第14条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク（以下「試料バンク」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

- 第2条 試料バンクは、生物及び環境の試料を収集管理するとともに、学内外の研究に供し、沿岸環境科学の推進に資する業務を処理する。

(組織)

- 第3条 試料バンクに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 試料バンク長

(2) その他必要な職員

第4条 試料バンク長は、センター教員のうちからセンター運営委員会が推薦し、センター長が任命する。

2 試料バンク長の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 試料バンク長はセンター長の指示に従い、試料バンクの業務を掌理する。

(専門委員会)

第5条 試料バンクに、試料バンクに関する重要事項を審議するため試料バンク専門委員会を置く。

2 試料バンク専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第6条 試料バンクの事務は、研究支援部研究拠点事務課で処理する。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、試料バンクの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。

2 この内規の施行後、最初に任命される試料バンク長の任期は、第4条第2項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク専門委員会に関する内規

平成16年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規第5条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク専門委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 生物及び環境の試料（以下「試料」という。）の受入れに関する事項
- (2) 試料の管理に関する事項
- (3) 試料の提供に関する事項
- (4) 試料を用いた共同研究に関する事項
- (5) その他試料に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 試料バンク長
 - (2) その他試料バンク長が指名する者
- 2 前項第2号の委員は、試料バンク長が推薦し、センター長が任命する。
- 3 第1項第2号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長を置き、試料バンク長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(議事)

第5条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、説明または意見を聞くことができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、研究支援部研究拠点事務課で処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、専門委員会の運営に関し必要な事項は、専門委員会が定める。

附 則

1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。

2 この内規の施行後、最初に任命される第3条第1項第2号の委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年4月1日から施行する。

発 行 2012年9月
発行者 愛媛大学沿岸環境科学研究センター
〒790-8577 松山市文京町2番5号
TEL (089) 927-8164
FAX (089) 927-8167
印 刷 創風社出版

この年報は、再生紙・大豆インキを使用しています。

